

岩 手 県

教 育 年 報

平成17年度版

岩手県教育委員会

序

県教育委員会は、教育委員会制度発足以来、毎年、教育年報を発刊し、本県教育の動向を把握して参りました。

この教育年報は、生涯学習環境の整備、学校教育の充実、社会教育の充実、体育・スポーツの振興、文化の振興等の重点施策をはじめ、教育施策の概要、実績等を幅広く収録しております。

この年報が、教育に直接携わる方々はもとより、関係各位に広く御活用いただければ幸いです。

平成19年 3 月

岩手県教育委員会
教育長 照 井 崇

目 次

第1章 教育行財政

第1節 教 育 行 政	
1 平成17年度の教育行政の基本方針	2
2 岩手県教育委員会	5
3 表彰及び栄典	6
第2節 教 育 財 政	
1 教育財政	9
〔附〕 市町村等教育委員会	12

第2章 人生を豊かにする生涯学習の推進

第1節 生涯学習社会の実現を目指した推進体制の充実	15
第2節 連携と協力による生涯学習の普及奨励	
1 学習意識の啓発	16
2 学習活動の支援	16

第3章 ゆとりの中で生きる力をはぐくむ学校教育の推進

第1節 個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進	
1 新しい時代を創造する学びの創造	18
2 進路指導の充実	22
第2節 心豊かでたくましい人間の育成	
1 幼児教育の推進	23
2 道徳教育の充実	23
3 ボランティア教育・環境教育の充実	24
4 適応指導の充実	25
5 健康教育の充実	28
6 体育・スポーツの充実	33
第3節 社会の変化に対応した教育の推進	
1 情報教育の充実	35
2 国際理解教育の充実	35
3 職業教育の充実	36
4 高等学校教育の改革の推進	37
第4節 地域の特性を生かした魅力ある学校づくり	
1 家庭、地域社会との連携と開かれた学校づくり	40
2 特色ある学校づくり	41
3 小規模校の振興	42
第5節 社会参加・自立を支援する特別支援教育の推進	
1 岩手県特別支援教育推進プランに基づく施策の推進	43
2 教育諸条件の整備充実	43
3 教育内容・方法の充実	43
4 教員の専門性の向上と研修の充実	43
5 学習障害児、注意欠陥／多動性障害（ADHD）児、高機能自閉症児 に対する積極的な支援	44

6	地域の特別支援教育センター機能としての盲学校、聾学校、養護学校の充実	44
7	各分野の機関が連携し一体となった相談・支援体制の充実	44
第6節	優れた教員の確保と資質の向上	
1	教員の適正配置	46
2	教員研修の充実	47
3	教育研究等の充実	48
第7節	社会の変化に対応した学校施設・設備の整備充実	52
第8節	管理部門	
1	市町村立学校の管理部門	58
2	県立学校の管理部門	59
第9節	就学奨励	
1	特殊教育就学奨励費補助金（特殊学級分）	61
2	要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金	62
3	へき地児童生徒援助費等補助金	64
第10節	育英・奨学（（財）岩手育英奨学会）	
1	奨学金の種類と額	65
2	奨学生の採用	65
3	奨学金の貸与状況	66
〔附〕	私立学校	
1	私立学校審議会	67
2	私立学校審議会の状況	67
3	私立学校等認可の状況	67
4	助成の状況	67
5	私学教育表彰の実施	68
〔参考〕	学校教育統計	69

第4章 魅力ある社会教育の推進

第1節	たくましい岩手っ子を育てる家庭教育の支援	
1	学習機会の提供	71
2	学習情報の提供と相談体制の充実	71
第2節	いつでも、どこでも、だれでも学べる学習活動の支援	
1	青少年の学習活動の支援	73
2	成人の学習活動の支援	78
3	高齢者の学習活動の支援	81
4	視聴覚教育	81
第3節	生きがいをはぐくむ社会教育推進体制の充実	
1	指導体制の充実	83
2	社会教育施設の整備充実	86
〔参考〕	博物館等設置状況	102

第5章 豊かなスポーツライフの実現

第1節	誰もが親しめるスポーツの振興	
1	推進体制の整備充実	104
2	指導者の養成・確保	104
3	実践活動の促進	104

4	スポーツ団体の育成	105
5	施設の整備充実	105
6	(財)岩手県スポーツ振興事業団の事業	106
第2節 夢と感動の競技スポーツの推進		
1	競技力向上体制の確立	112
2	指導体制の整備	112
3	選手の育成強化	112
4	環境の整備	112
5	県民意識の高揚	112
[参考]	主な行事	113

第6章 多様で個性ある文化の創造

第1節 みんなが親しめる多様な芸術活動の振興		
1	創作・発表・鑑賞機会の拡充	115
2	心豊かな子どもたちをはぐくむ文化活動の推進	118
第2節 歴史と風土に培われた文化財の保護		
1	文化財の保存と管理	122
2	埋蔵文化財の保護	123
3	文化財の積極的な活用	123
4	平泉文化の調査研究の推進と情報発信	124
5	世界遺産登録の推進	124
第3節 文化活動を育てる環境の整備		
1	拠点施設の機能の充実	125
2	文化交流・連携の促進	130

第7章 厚生福利

第1節 公立学校共済組合		
1	短期給付事業	132
2	長期給付事業	132
3	福祉事業	133
4	貸付事業	134
5	宿泊・保養施設	135
第2節 教職員互助会		
1	短期給付事業	136
2	長期給付事業	136
3	厚生福利事業	136
4	特別弔慰積立事業	138
5	貸付事業	138
〔参考資料〕		
1	県教育委員会機構図	140
2	教育関係審議会等委員名簿	141
3	県教育委員会会議録抄	144
4	県教育委員会関係主要行事	147
5	県教育委員会が所管する公益法人・公益信託	151
6	県教育関係諸団体一覧	153

第 1 章 教育行財政

第1章 教育行財政

第1節 教育行政

1 平成17年度の教育行政の基本方針

県教育委員会では、本県教育の進むべき方向と、それを実現するための基本的な教育行政施策を明らかにするため、平成11年9月に『第8次岩手県教育振興基本計画』（計画期間は平成11年度から平成22年度まで）を策定した。

この計画は、「一人一人が学びの世界を拓（ひら）く、心豊かでたくましい人づくり」を基本目標として掲げ、その実現に向けた施策の展開を行うこととしている。

平成17年度は、この実現に向けて、新たに取組方針を定め、教育品質向上運動などを展開することにより計画に掲げる基本方向の諸課題に取り組んでいく。

1 施策推進に当たっての取組方針

(1) 取組方針

平成17年度においては、岩手県の教育施策を進める上での基本的な取組方針は次のとおりとする。

常に児童・生徒、保護者、地域住民の目線で考え、施策を推進する。

情報の積極的公開、提供に努める。

現場主義の視点に立って、学校現場、市町村教育委員会、地域産業界などとの対話を通じて相互に理解を深め合うとともに、知事部局とも密接に連携して諸課題に取り組む。

教育改革や少子化など、教育環境の変化に迅速かつ的確に対応できるよう、事務局改革を推進する。

（管理型組織から政策推進組織へ）

このような基本的な考え方（取組方針）に基づき、次のような取組みを展開する。

(2) 「教育品質向上運動 - 教育の質を高めるために - 」の推進

平成17年度から、具体的な取組みとして、「教育品質向上運動 - 教育の質を高めるために - 」を推進する。

目的

「教職員が児童生徒、保護者、地域とより多くの時間を共有できるような組織体制の構築」を目指し、具体的には、

ア 『無駄取りによるゆとりのある職場づくり』

学力の向上、児童生徒の健全育成などを実現するために、学校、教育事務所及び教育委員会事務局は、近年、ますます多忙となっている。職場での無駄を職員提案により明らかにして改善に取り組む。

イ 『職員との対話が十分に行われる職場環境づくり』

組織、職員の能力向上のため、十分な話し合いを行う。

ウ 『課題、目標、方法等を明確にした業務方針に沿った施策の展開』

・リーダーが理念、目標を明らかにし、(Plan)

・目標達成のための手段、方法、期限を定めて取り組み、(Do)

・その達成状況を検証し、(Check)

・達成できなかった場合はその原因を明らかにし、改善に取り組む。(Action)

学校においても同様であるが、検証においては、できるだけ学校評価を活用し、児童生徒、父兄、地域のニーズの把握に努めながら、改善手法を検討していく。

を目的とする。

方法

学校、教育事務所及び教育委員会事務局それぞれの組織が、自ら抱える課題を分析（セルフアセスメント）し、組織の『強み』と『弱み』を認識し、『弱み』の改善を図る。

スケジュール

平成17年度 前期 教育委員会事務局で展開開始

後期 教育事務所等出先機関、県立学校で展開を開始

平成18年度 市町村教育委員会が実施を希望する小中学校への導入を支援

内容

セルフアセスメントを実施し、「幹部職員のリーダーシップ」「県民・社会環境変化の理解と対応」「個人と組織の能力向上」等、8つのカテゴリーについて、「強み」と「弱み」を把握し改善に努める。

特に意を用いる点

- ア 『無駄取りによるゆとりのある職場づくり』
 - ・多忙な職場環境の中で教職員の職務のスクラップ
 - ・過剰な形式主義に陥っている会議、研修等の見直し
 - ・学校現場における無駄取りによる教職員のゆとりの創発
- イ 『職員との対話が十分に行なわれる職場環境づくり』
 - ・職場の創意工夫を十分生かせる組織風土の醸成
 - ・組織、職員の能力向上に向けた指導
 - ・職員の苦悩等をいつでも話し合える組織風土の醸成
- ウ 『課題、目標、方法等を明確にした業務方針に沿った施策の展開』
 - ・児童生徒、父兄、地域、職員等のニーズの把握
 - ・課題、目標、方法等を明確にした業務方針の策定
 - ・ニーズに基づいた課題解決方針の策定

2 平成 17 年度重点施策

〔主要課題〕

(1) 高等学校再編整備計画（後期計画）の策定

県民の理解を得ることに努めながら、年度前半を目途に県立高等学校新整備計画（後期計画）の策定を図り、生徒の多様な進路希望に対応できるよう新しいタイプの学校づくりや学校規模の適正化など、学びの環境を整備に取り組む。

(2) 学力の向上

少人数指導の充実を図るとともに、少人数学級研究指定校を小学校低学年に重点的に拡大し、今後の岩手県の少人数教育の方向性を早期に明らかにする。また、児童生徒がよくわかる授業を実施するため、教員の指導力の向上に取組み、特に中学校の英語教育の充実を図るとともに、県立高校における進学実績向上のための自主的な取組みを支援する。

(3) 「平泉の文化遺産」と「全国スポーツ・レクリエーション祭」への対応

「平泉の文化遺産」の世界遺産登録に向けた取組みを進めるとともに、10 月に開催する「全国スポーツ・レクリエーション祭」の成功に向け準備を行う。

〔重点施策〕

施策としては、基本目標に向け、基本方向に沿って次のような取組みを行う。

(1) 人生を豊かにする生涯学習の推進

県民が生涯を通じて学び、共に歩む「学びの里いわて」の創造を目標とする「岩手県生涯学習振興計画」に基づき、地域学習活動の活性化に向けたセミナーや「いわて学講座」の開催などにより、県民の学習活動を積極的に支援していくなど、計画の着実な推進を図るとともに、中間年次を迎えた振興計画の見直しを図る。また、新しい県立図書館の平成 18 年度の開館に向け準備を進める。

(2) ゆとりの中で生きる力をはぐくむ学校教育の推進

高等学校教育の改革については、各地域において県立高等学校新整備計画（後期計画）について説明や話し合いを重ね、県民の意向把握に努めながら、計画の策定を行う。併せて、中高一貫校のあり方や地域住民等が学校運営に参画する新しいタイプの学校づくりを検討する。〔主要課題(1) 高等学校再編整備計画（後期計画）の策定〕

学習定着度の調査を行い、児童生徒の学力の状況を踏まえ、個に応じた学習指導の改善を図るとともに、児童・生徒がよく分かる授業を実施するため、教員の指導力向上に取組み、英語教員の英語力向上のための集中研修や英語教育モデル校の拡大など、課題とされる英語力強化について、子どもたちの発達段階に応じた、より専門的な指導に取り組む。

また、進学実績向上のため、県立学校が自校の課題に即した目標・計画に対する取組みを支援するとともに、就職希望者については、引き続き就職支援相談員を配置し、適切な就職指導等、各高等学校における就職支援を充実させる。

小学校低学年における基本的な生活習慣の定着と基礎学力の向上及び複式学級の学力向上を図るため、正教員・非常勤講師を小学校 1 年生、小学校 2 年生、15 人以上の複式学級へ拡充して少人数指導の充実を図り、学校教育の一層の活性化と子どもたち一人一人に目配りのきいた教育を推進する。

少人数学級研究指定校を小学校低学年に重点をおいて拡大し、その効果を調査研究するとともに、少人数教育の方向性を明らかにする。〔主要課題(2) 学力の向上〕

心の教育の推進については、道徳教育を中心に教育活動全体を通じて「生きる力」の核となる豊かな人間性を育成するほか、地域と連携して行う自然体験活動や伝統文化の伝承活動、世代間交流や家庭と連携して行う読書を通じて豊かな感性や情操、思いやりの心などを育む。

また、いじめ、不登校などの問題については、スクールカウンセラー、心の教室相談員、学校適応相談員、子どもと親の相談員の配置を継続し、個々のケースに応じた適切な対応を図る。

「運動・スポーツ好きの子ども」や「たくましい岩手っ子」を育成するため、体育・スポーツ活動実践校として指定した小・中学校において、体力向上のための運動プログラムの実践及び訪問指導による教員の指導力の向上を図り、その成果を県内の各学校に普及・啓発するなかで子どもたちの体力・運動能力の向上に努める。

健全な食生活を実現することができる人間を育てるため、県全体として食育に取り組むなか、知事部局とも連携して、児童が食品の生産、製造、流通現場を訪問し、その結果を教材資料とすることにより、食の関心・理解を高める。

社会の変化に主体的に対応できる力を育成するため、県立学校の情報環境の整備を進め、コンピュータを活用した分かりやすい授業を展開するなど、IT時代に適應できる子どもたちの育成に努める。

学校の自主性のもとで、各校が創意工夫を生かした教育活動を展開するため、児童生徒、教師、保護者及び地域が一体となって体験学習や国際理解教育、理科教育等に取り組む特色ある学校づくりを推進する。

保護者や地域住民の声を聞くとともに学校評議員の設置、教育活動その他の学校運営の状況について各学校が自ら点検及び評価を行う学校評価の実施、結果の公表、ホームページをはじめとする情報発信の強化など「開かれた学校づくり」を推進し、学校運営の改善に努める。

障害のある児童生徒の教育については、地域における特別支援教育の相談・研修・交流センターとしての盲・聾・養護学校の機能を一層充実させるとともに、医療的ケアを必要とする児童生徒が在籍する養護学校に看護師を配置する体制を拡充し、より手厚い教育を推進する。また、通常学級に障害のある児童・生徒が在籍する小・中学校においては、非常勤講師を配置するとともに、ADHD（注意欠陥／多動性障害）などの児童生徒に対して、巡回指導や研修会を開催し、一人一人の教育的ニーズに応える教育を推進する。

学校教育の充実、教育を担う教員の資質、能力に負うところが大きいことから、採用段階での人材確保、教員に対する研修の充実等に引き続き取り組むとともに、教員の養成、採用、研修の各段階を通じた資質能力の向上について、外部有識者による検討結果を踏まえ、具体的な取組みに着手する。

コンプライアンス（法令遵守）の推進を通じて、引き続き教職員の自覚と倫理意識の高揚を促し、服務規律の徹底を図っていく。

宮城県沖を震源とする地震の発生に備え、県立学校の耐震診断及び改修等を着実に推進するとともに、小中学校の耐震診断率を高めていく。また、児童生徒の学校内外の安全確保に向けて、関係機関との連携強化を進め、地域の巡回体制の整備などに努めていく。

(3) 魅力ある社会教育の推進

家庭教育については、家庭教育に関する学習機会の提供や相談体制の充実を図るとともに、地域で子どもを育てる環境の充実に向け、子育て支援のネットワーク化を促進する。

また、青少年に対しては、自然体験や生活体験など多様な体験活動の充実を図るとともに、豊かな感性や情操を培い、心豊かな人間の育成を図るため、読書ボランティアグループのネットワーク化を図りながら、読書習慣の形成・定着を図り、子どもの読書活動を推進する。

学校、家庭、地域が連携して共に子どもたちを育てていくための環境づくりを進めるため、教育振興運動の充実に向けた啓発・支援に努めるとともに、「地域こども教室支援事業」をはじめとする「地域教育再生事業」を積極的に推進し、地域の教育力の充実に努める。

県民の生涯学習支援の拠点となる新県立図書館の整備については、入居する盛岡駅西口複合施設の施設・設備の整備を進めるほか、基礎となる図書資料の拡充や備品整備、現図書館からの移転作業を行い、平成18年度の開館に向けて引き続き整備を進めていく。

(4) 豊かなスポーツライフの実現

子どもから高齢者まで県民誰もが、気軽にスポーツを楽しめる環境づくりの推進に向け、各地域に「総合型地域スポーツクラブ」を早期に整備できるよう、岩手県広域スポーツセンターを中核として、岩手県体育協会との連携を十分に図りながら、指導者養成などの事業を通して市町村を支援する。

競技スポーツの振興については、スポーツ関係団体や競技団体等との連携を深め、強化事業を効率よく推進するとともに、スポーツ医・科学のトータル・サポートの充実を図る。

また、スポーツ国際交流員の招致や中学校指導者を対象とした講習会など、ジュニア層の選手強化に向けた取組みを推進するとともに、韓国へ高校生を派遣するなど、日韓スポーツ交流事業を開催する。

(5) 多様で個性ある文化の創造

岩手芸術祭、岩手県高等学校総合文化祭の開催や岩手県中学校総合文化祭を支援するほか、青少年へ舞台芸術の鑑賞機会を提供するなど、芸術文化活動の促進に努める。

伝統文化継承のため、民俗芸能の後継者育成や伝承活動の活性化を図るとともに、現在進めている柳之御所遺跡の史跡指定地内にある民有地の公有化を一層推進するなど、文化財の保存と活用に努める。

「平泉の文化遺産」については、平成20年の世界文化遺産登録の実現に向け、推薦書の作成に全力を傾けるとともに、「義経展」や「平泉の文化遺産展」を開催するなど県民一丸となった気運の盛り上げを図る。〔主要課題(3) 「平泉の文化遺産」への対応〕

2 岩手県教育委員会

(1) 教育委員会委員及び教育長

(平成18年3月31日現在)

職 種	氏 名	就任年月日
委 員 長 (17.10.11～)	安 藤 厚	11 . 10 . 11
委員長職務代理者 〔第1順位〕 (17 . 10 . 11)	米 谷 春 夫	16 . 10 . 1
委員長職務代理者 〔第2順位〕 (17 . 10 . 11)	坂 本 ゆ り	14 . 10 . 1
委 員	藤 波 洋 香	16 . 10 . 1
委 員	箱 崎 安 弘	17 . 10 . 11
委 員 ・ 教育長	照 井 崇	17 . 4 . 1

(2) 事務局及び学校以外の教育機関の職員の異動状況

平成18年度 定期人事異動

異動区分		退職	転出	昇任	配置換等	転入	採用	計
職	指導主事、社会教育主事等 専門職員	0	10	3	98	45		156
教育長・ 事務職員	教 育 長	0	0	0	0	0		0
	室 長 級	1	1	2	2	1		7
	総括課長級	1	3	5	9	3		21
	担当課長級	0	2	0	11	3		16
	主任主査級	0	5	3	14	7		29
	主 査 級	0	7	8	20	13		48
	主 事 級	0	6	0	22	8		36
	小 計	2	24	18	78	35		157
	技労職員	0	0	0	1	0		1
	合 計	2	34	21	177	80		314

(3) 教育委員会議開催状況

(平成17年度)

区 分	開 催 回 数
定 例 会	12回
臨 時 会	2回
委 員 協 議 会	9回

3 表彰及び栄典

(1) 平成17年度文部科学大臣表彰（本県関係）

- ア 教育表彰者
高橋 忠孝（岩手県立盛岡第二高等学校）
太田代政男（盛岡市立山岸小学校）
菅原 壽（盛岡市立仙北中学校）
- イ 地方教育行政功労者表彰
佐藤 宏（前盛岡市教育委員会委員長）
山崎 福利（前新里村教育委員会教育長）
外館 弘（前久慈市町教育委員会教育長）
- ウ 優良PTA表彰
一戸町立宇別小学校PTA
大船渡市立大船渡中学校PTA
江刺市立岩谷堂幼稚園PTA
- エ 社会教育功労者
土方 和行（元川崎村立公民館長兼図書館長）
- オ 優良公民館表彰
一関市立油島公民館
盛岡市都南公民館
- カ 地域文化功労者表彰
登坂 慶子
- キ 体育功労者及び社会体育優良団体
小原 勸（岩手県バスケットボール協会常任顧問）
吉田 几生（岩手県ボウリング連盟会長）
岩崎鬼剣舞スポーツ少年団
- ク 学校保健及び学校安全表彰
青木 喜彦（学校医）
横澤 昭平（学校医）
- ケ 現聴覚教育功労者表彰
西村 輝夫
- コ 体育指導委員功労者
阿部 章夫（宮古市）
- サ 子どもの読書活動優秀実践表彰
団体（者）表彰
おはなしぺぱん（陸前高田市）
図書館表彰
大東町立図書館
学校表彰
前沢町立前沢小学校
新里村立茂市小学校

(2) 平成17年度岩手県教育表彰

本県教育文化の発展向上に尽力した功労者416人、4団体を表彰した。

- ア 事績顕著者
 - (ア) 学校教育
徳山 信次（岩手県立広田水産高教諭）
 - (イ) 学校保健
小田 澄（学校医）
佐藤 章孝（学校医）
亀井 将一（学校医）
後藤 健（学校医）
本多 能久（学校医）
深瀬 亨三（学校医）
村木 正昭（学校歯科医）
廣瀬 宣男（学校歯科医）

宮澤 秋裕 (学校歯科医)

桂 生代 (学校薬剤師)

(ウ) 社会教育

千葉 政吾

大坪 瑛子

山形村立霜畑小・中学校PTA

水沢市立常盤小学校PTA

岩手県立花北青雲高等学校PTA

(エ) 社会体育

川村 幸彦 (岩手県ソフトテニス連盟副会長)

鈴木 勝彦 (岩手県卓球協会副会長)

佐々木隆夫 (前岩手県バドミントン協会副会長)

菊池 欣一 (前北上市ラグビーフットボール協会会長)

高橋 透 (花泉町体育協会会長)

千葉 幸一 (前花巻市剣友会会長)

大井 利江 (陸上競技)

島スポーツ少年団

(オ) 学術、文化

渡邊 眞吾 (前岩手県詩人クラブ会長)

土居 綾子 (前岩手三曲協会副会長)

小島 侠 (滝沢村文化財調査委員会委員長)

(カ) 教育行政

畠山 尚巳 (石鳥谷町教育委員会委員長)

青木 利 (水沢市教育委員会委員)

菊地 榮治 (前前沢町教育委員会教育長)

中屋 定基 (宮古市教育委員会教育長)

山崎 福利 (前新里村教育委員会教育長)

渡邊 満夫 (川井村教育委員会教育長)

間澤榮次郎 (大野村教育委員会委員長)

山口 金男 (浄法寺町教育委員会教育長)

安ヶ平祐孝 (浄法寺町教育委員会委員)

イ 永年勤続者

384人

(3) 平成17年度叙勲

春秋の別	職 名 等	氏 名	年 齢	勲 等	主 な 功 績
春	元水沢市立南中学校校長	伊藤英二	75	瑞宝双光章	
"	元宮古市立第一中学校校長	佐藤勇逸	78	瑞宝双光章	
"	元久慈市立長内中学校校長	宇部寅男	78	瑞宝双光章	
"	元盛岡市立城南小学校校長	飯岡和夫	78	瑞宝双光章	
"	元盛岡市立城西中学校校長	中西武夫	77	瑞宝双光章	
"	元岩手県立盛岡養護学校校長	佐藤静夫	71	瑞宝小綬章	
"	元岩手県立盛岡商業高等学校校長	三浦五郎	79	瑞宝小綬章	
"	元岩手県スキー連盟副会長	菊池大助	85	瑞宝双光章	
"	現学 校 医	渡邊 勤	79	瑞宝双光章	
"	現岩手県銃砲刀剣類登録審査委員	竹原富士雄	70	旭日双光章	
秋	元大船渡市立末崎中学校校長	村上 孚	79	瑞宝双光章	
"	元二戸市立福岡中学校校長	大西武夫	79	瑞宝双光章	
"	元盛岡市立青山小学校校長	小田島 宏一	77	瑞宝双光章	
"	元和賀町立和賀小学校校長	菊池 清	76	瑞宝双光章	
"	元盛岡市立上田中学校校長	渡邊 賢郎	77	瑞宝双光章	
"	元岩手県立釜石南高等学校校長	沼宮内 耕作	78	瑞宝小綬章	
"	元岩手県立宮古水産高等学校校長	小野寺 博	78	瑞宝小綬章	
"	元大船渡市教育委員会委員長	金 東 晃	77	旭日双光章	
"	元岩手大学助教授 現岩手県水泳連盟副会長	岩根和夫	76	瑞宝小綬章	
"	現学 校 医	佐藤 慧	73	瑞宝双光章	

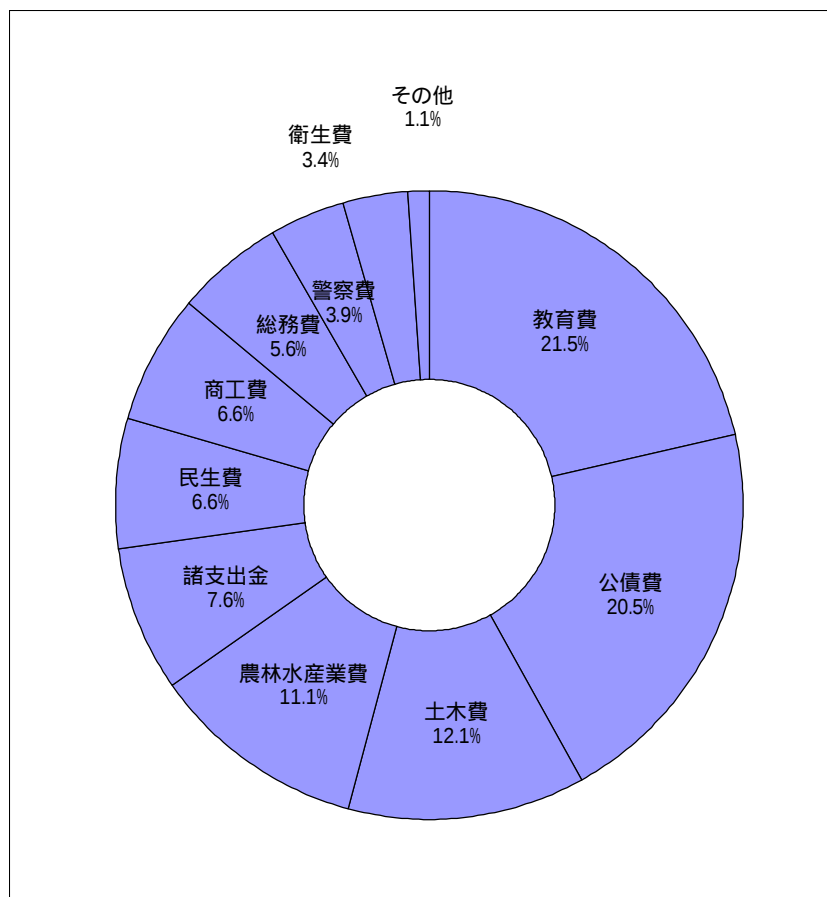
第2節 教育財政

1 教育財政

(1) 平成17年度岩手県一般会計決算と教育費決算の概要

平成17年度の岩手県一般会計歳入歳出決算額は、歳入7,683億984万円、歳出7,558億9,985万円であり、これを前年度決算額に比べると、歳入 3.8%、歳出 3.8%とそれぞれ減少した。一般会計決算の支出総額に占める教育費の割合は、21.5%であるが、そのうち教育委員会所管に係る決算の状況は、予算総額1,524億9,576万円に対し、支出総額1,522億2,835万円、翌年度繰越額5,917万円、不用額2億824万円で、一般会計決算に占める割合は、20.1%となっている。

目的別構成比



第1表

平成17年度教育費

区 分	平成17年度最終予算額 (A)	平成17年度決算額 (B)	翌年度繰越額 (B')
一 般 会 計 総 額	782,149,202,125	755,899,850,599	24,044,968,453
教 育 費 総 額	152,495,767,125	152,228,351,050	59,175,903
教 育 総 務 費	13,792,367,000	13,746,869,384	0
教 育 委 員 会 費	17,530,000	17,101,347	0
事 務 局 費	2,379,955,000	2,367,258,927	0
教 職 員 人 事 費	9,556,506,000	9,533,176,147	0
教 育 指 導 費	821,600,000	813,483,954	0
教 育 セ ン タ ー 費	549,456,000	548,812,705	0
幼 稚 園 費	87,690,000	87,579,753	0
恩 給 及 び 退 職 年 金 費	379,630,000	379,456,551	0
小 学 校 費	53,983,943,000	53,963,540,897	0
小 学 校 費	53,983,943,000	53,963,540,897	0
中 学 校 費	30,433,160,000	30,409,274,117	0
中 学 校 費	30,433,160,000	30,409,274,117	0
高 等 学 校 費	37,208,263,000	37,137,824,032	16,800,000
高 等 学 校 総 務 費	30,745,786,000	30,721,018,675	0
全 日 制 高 等 学 校 管 理 費	1,826,388,000	1,822,380,487	0
定 時 制 高 等 学 校 管 理 費	67,755,000	67,053,693	0
教 育 振 興 費	1,080,234,000	1,076,830,103	0
学 校 建 設 費	3,481,602,000	3,444,043,650	16,800,000
通 信 教 育 費	6,498,000	6,497,424	0
特 殊 学 校 費	10,850,564,000	10,831,213,262	0
盲 聾 学 校 費	1,719,566,000	1,717,383,703	0
養 護 学 校 費	9,130,998,000	9,113,829,559	0
社 会 教 育 費	4,101,844,125	4,027,334,970	42,375,903
社 会 教 育 総 務 費	1,676,415,000	1,657,946,760	0
視 聴 覚 教 育 費	495,000	489,508	0
文 化 財 保 護 費	642,020,125	595,718,605	42,375,903
芸 術 文 化 振 興 費	352,575,000	351,625,959	0
図 書 館 費	519,895,000	519,572,526	0
博 物 館 費	377,744,000	375,961,148	0
美 術 館 費	532,700,000	526,020,464	0
保 健 体 育 費	2,125,626,000	2,112,294,388	0
保 健 体 育 総 務 費	623,304,000	620,746,152	0
体 育 振 興 費	870,097,000	866,018,872	0
体 育 施 設 費	632,225,000	625,529,364	0
災 害 復 旧 費	0	0	0
教 育 施 設 災 害 復 旧 費	0	0	0
学 校 施 設 災 害 復 旧 費	0	0	0
公 債 費	0	0	0
公 債 費	0	0	0
元 金	0	0	0
(教育委員会所轄分計)	152,495,767,125	152,228,351,050	59,175,903

歳出予算・決算額

(単位、円、%)

不 用 額 (A) - (B) - (B')	平成16年度最終予算額 (C)	比 較 増 減	
		金額(A) - (C)	増減率((A)-(C)) / (C)
2,204,383,073	815,552,822,682	33,403,620,557	4.1
208,240,172	155,070,673,489	2,574,906,364	1.7
45,497,616	16,688,192,000	2,895,825,000	17.4
428,653	17,644,000	114,000	0.6
12,696,073	2,347,804,000	32,151,000	1.4
23,329,853	12,474,566,000	2,918,060,000	23.4
8,116,046	778,328,000	43,272,000	5.6
643,295	555,344,000	5,888,000	1.1
110,247	88,357,000	667,000	0.8
173,449	426,149,000	46,519,000	10.9
20,402,103	54,115,779,000	131,836,000	0.2
20,402,103	54,115,779,000	131,836,000	0.2
23,885,883	30,472,329,000	29,169,000	0.1
23,885,883	30,472,329,000	29,169,000	0.1
53,638,968	37,919,217,000	710,954,000	1.9
24,767,325	31,381,003,000	635,217,000	2.0
4,007,513	1,896,936,000	70,548,000	3.7
701,307	70,867,000	3,112,000	4.4
3,403,897	945,032,000	135,202,000	14.3
20,758,350	3,618,167,000	136,565,000	3.8
576	7,212,000	714,000	9.9
19,350,738	10,146,881,000	703,683,000	6.9
2,182,297	1,748,931,000	29,365,000	1.7
17,168,441	8,397,950,000	733,048,000	8.7
32,133,252	3,693,373,489	408,470,636	11.1
18,468,240	1,466,994,000	209,421,000	14.3
5,492	529,000	34,000	6.4
3,925,617	467,646,489	174,373,636	37.3
949,041	394,147,000	41,572,000	10.5
322,474	373,576,000	146,319,000	39.2
1,782,852	396,751,000	19,007,000	4.8
6,679,536	593,730,000	61,030,000	10.3
13,331,612	2,034,902,000	90,724,000	4.5
2,557,848	663,774,000	40,470,000	6.1
4,078,128	719,759,000	150,338,000	20.9
6,695,636	651,369,000	19,144,000	2.9
0	0	0	—
0	0	0	—
0	0	0	—
0	223,959,000	223,959,000	皆減
0	223,959,000	223,959,000	皆減
0	223,959,000	223,959,000	皆減
208,240,172	155,294,632,489	2,798,865,364	1.8

〔 附 〕 市町村教育委員会

1 市町村教育委員会の動向

(1) 市町村教育委員会委員長・教育長

(平成18年4月28日現在)

項目 市町村名	委 員 長		委員長の任期	教 育 長		教育長の任期
盛岡市	加藤 章	(新)	平17.10.11～平18.10.10	八巻 恒雄	(新)	平17.10.11～平20. 9.30
八幡平市	八重樫 勝	(新)	平17.11.15～平18.11.14	高橋 北英	(再)	平17.11.15～平21.11.14
雫石町	沼尻 洋一	(新)	平17.10. 1～平18. 9.30	小川 元春	(再)	平15.10. 1～平19. 9.30
葛巻町	近藤 道雄	(再)	平18. 4. 1～平18. 9.30	村木 登	(新)	平17.12.25～平21.12.24
岩手町	橋本 壽美男	(再)	平17. 7.21～平18. 7.20	佐々木 恵治	(再)	平16.11. 1～平20.10.31
滝沢村	山崎 武彦	(再)	平17.12.26～平18.12.22	三浦 壮六	(新)	平17. 4. 2～平21. 4. 1
紫波町	森田 誠喜	(再)	平17.10. 3～平18. 9.30	川村 秀彦	(再)	平16.10. 1～平20. 9.30
矢巾町	吉田 富士雄	(再)	平17.10. 1～平18. 9.30	松尾 光則	(新)	平17. 4. 4～平20. 9.30
花巻市	畠山 尚巳	(新)	平18. 3.25～平19. 3.24	及川 宣夫	(新)	平18. 4. 1～平22. 3.31
遠野市	浅沼 敬治	(再)	平17.11.26～平18.11.25	及川 増徳	(新)	平17.11.26～平21.11.25
北上市	吉田 建彦	(再)	平17. 6. 2～平18. 6. 1	高橋 一臣	(新)	平15. 6. 1～平19. 5.31
西和賀町	早川 正剛	(新)	平17.12. 1～平18.11.30	高橋 稔	(新)	平17.12. 1～平21. 9.30
奥州市	高橋 新平	(再)	平18. 3.31～平19. 3.30	菅原 義子	(再)	平18. 3.31～平22. 3.30
金ヶ崎町	及川 紀美子	(新)	平17.12.17～平18.12.16	佐藤 順	(再)	平16.10. 1～平20. 9.30
一関市	北村 健郎	(新)	平17.10.29～平18.10.28	藤堂 隆則	(新)	平17.10.29～平21.10.28
平泉町	南館 廣太郎	(再)	平18. 1. 9～平18.12.31	佐藤 敏雄	(新)	平17. 4. 1～平21. 3.31
藤沢町	藤本 秀夫	(再)	平17.10. 1～平18. 9.30	岩渕 英生	(再)	平16.10. 1～平20. 9.30
大船渡市	(欠 員)			金野 大登	(再)	平17.10. 1～平21. 9.30
陸前高田市	村上 サキ	(再)	平17.10. 1～平18. 9.30	伊藤 壽	(再)	平16.10. 1～平20. 9.30
住田町	水沼 和子	(再)	平17.10. 1～平18. 9.30	菅野 憲	(再)	平18. 1. 2～平22. 1. 1
釜石市	白木澤 孝也	(再)	平17.10. 1～平18. 9.30	河東 眞澄	(新)	平18. 4. 1～平20. 9.30
大槌町	藤井 達也	(再)	平17. 9.25～平18. 9.24	佐々木 寅夫	(再)	平16. 3.21～平20. 3.20
宮古市	平井 ふみ子	(新)	平17. 8.30～平18. 8.29	中屋 定基	(再)	平17. 8.30～平18. 8.29
山田町	馬場 善也	(新)	平17.10.19～平18.10.18	松尾 光信	(再)	平16.10.30～平20.10.29
岩泉町	内村 慶次郎	(再)	平17.12.21～平18.12.20	下川 克彦	(新)	平17. 4. 1～平21. 3.31
田野畑村	佐々木 源良	(新)	平17. 6.28～平18. 6.27	石岡 三郎	(再)	平17.10. 1～平21. 9.30
川井村	因幡 功	(再)	平18. 2. 1～平19. 1.31	渡邊 満夫	(再)	平15. 1. 2～平19. 1. 1
久慈市	岩城 紀元	(新)	平18. 4.28～平19. 4.27	鹿糠 芳夫	(新)	平18. 4.28～平22. 4.27
洋野町	日影 勇	(新)	平18. 2.14～平19. 2.13	小森 重則	(新)	平18. 2.15～平21. 2.13
野田村	大沢 伸子	(再)	平17.10. 1～平18. 9.30	本田 昇	(新)	平17. 6. 1～平20.12.31
普代村	道合 多喜夫	(再)	平17.10. 1～平18. 9.30	熊坂 伸子	(新)	平18. 4. 1～平22. 3.31

項目 市町村名	委員長		委員長の任期	教 育 長		教育長の任期
二 戸 市	柴 田 孝 夫	(新)	平18. 2.22～平19. 2.21	阿 部 實	(新)	平18. 2.22～平22. 2.21
一 戸 町	下 田 和 夫	(再)	平17.12.25～平18.12.24	遠 藤 裕 一	(新)	平18. 4. 1～平22. 3.31
軽 米 町	佐 藤 三四五	(再)	平16.10. 1～平20. 9.30	中 野 新 一	(新)	平15. 6.17～平19. 6.16
九 戸 村	小野寺 一 實	(再)	平17. 8.12～平18. 8.11	千 葉 利 夫	(新)	平16. 7. 9～平20. 7. 8

注：(新)(再)はそれぞれ平成17年4月2日から平成18年4月28日までの間の新任、再任を意味する。

(2) 市町村教育委員等研修

研 修 名	期日・会場	研 修 項 目	講 師
平成17年度市町村教育委員会研究協議会 (第一ブロック)	17.8.23(火) ～ 17.8.24(水) 札幌市ホテル ライフオー 札幌	行政説明 「義務教育制度の在り方について」 講 演 「転換期に立つ教育 ～今、教育に求めら れるもの～」 パネルディスカッション 「教育の不易と流行を考える」 分 科 会 事例発表ほか	文部科学省初等中等教 育局視学官 千葉大学教育学部教授 天笠 茂

第2章 人生を豊かにする 生涯学習の推進

第2章 人生を豊かにする生涯学習の推進

第1節 生涯学習社会の実現を目指した推進体制の充実

近年における社会経済の急激な進展により、社会構造も変化し、情報化、高度技術化、そして、国際化時代の到来とともに、人生80年型の長寿社会の進行も一層顕著になってきている。

このような新しい時代への歩みの中で、社会の変化に、より適切に対応するとともに、精神的な豊かさを享受しようとする県民の学習意欲は、一層高まっており、県民の多様化、高度化した学習ニーズに応え、ライフステージに応じた生涯学習の推進が強く求められている。

国においては、中央教育審議会や生涯学習審議会の答申を踏まえ、生涯学習社会の実現を基本課題として、時代の進展に対応する教育改革の推進や生涯学習推進体制の整備など生涯学習体系への移行を目指した体制づくりが着々と進行している。本県においても、21世紀を展望し、一人一人が真に生きがいのある人生の創造と活力に満ちた地域社会を築くため、県民の生涯にわたる主体的な学習を基本とし、岩手県生涯学習振興計画「“学びの里”いわて21」に基づく施策の展開が求められている。

○岩手県生涯学習審議会の開催

生涯学習に関する基本的な施策を調査審議し、もって本県における生涯学習の総合的な振興を図るため、次の会議を開催した。

岩手県生涯学習審議会 委員17名	ア 期日
	7月21日(木)、3月15日(水)
	イ 内容
	・岩手県生涯学習振興計画の前期計画の総括について ・岩手県生涯学習振興計画の見直し(後期計画の策定)について

第2節 連携と協力による生涯学習の普及奨励

1 学習意識の啓発

県民の生涯学習に対する理解と意欲を高め、学習活動の充実を図るため、生涯学習推進センターにおいて、県内全市町村とのネットワークによる生涯学習情報提供システム（「まなびネットいわて」）等により、学習情報の提供や広報活動に努めた。さらに、平成17年2月より、携帯電話によるアクセスも可能とした。

(1) 生涯学習情報提供事業

- ア 生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」
 - (ア) 情報量 20,598件
 - (イ) 検索件数 14,942件
 - (ウ) トップページカウント数 23,251件
(平成18年3月31日現在)
- イ 生涯学習情報紙「岩手県立生涯学習推進センター情報」の発行
 - (ア) 発行部数 500部
 - (ウ) 年間6回発行
- ウ 学習メニューブック
 - (ア) 発行日 6月
 - (イ) 発行部数 5,000部
 - (ウ) 掲載数 1,508講座

2 学習活動の支援

県民の学習活動の成果を地域社会に生かすことができるよう生涯学習ボランティア活動推進事業を実施するとともに、「広域学習サービス事業（いわて学びらんど）」を実施し、広域的な学習機会と学習情報の提供に努めた。

また、電話による学習相談を行うとともに生涯学習推進専門研修講座を行った。

(1) 生涯学習ボランティア活動推進事業

- ア ボランティアセンター登録数（12か所合計）
個人1,361人、158団体

(2) 広域学習サービス事業

- ア 提供講座数
 - (ア) 主催講座 59講座
 - (イ) 協賛講座 1,441講座

(3) 電話相談「マナビコール」の開設

- ア 開催日 毎週月～金曜日
- イ 時 間 8時30分～17時
- ウ 相談員 県立生涯学習推進センター専門職員
- エ 相談件数 196件

第3章 ゆとりの中で生きる力をは ぐくむ学校教育の推進

第3章 ゆとりの中で生きる力をはぐくむ学校教育の推進

第1節 個性を伸ばし主体的に学ぶ力を育てる教育の推進

1 新しい時代を創造する学びの創造

(1) 児童生徒一人一人の主体的な「学び」の支援・指導の充実

各学校が、児童生徒の実態等に応じて、わかる授業を基盤とした、習熟の程度に応じた指導などの少人数指導や繰り返し学習などきめ細かな指導ができるように、児童生徒一人一人の主体的な「学び」の支援・指導の充実に努めた。

(2) 社会の変化に主体的に対応する新たな「学び」の創造等

各学校が、総合的な学習の時間などを中心に体験的な学習を積極的に取り入れ、児童生徒の関心・意欲や思考力、判断力、表現力を育成し、社会の変化に主体的に対応する新たな「学び」の創造に取り組むことができるように、支援・指導の充実に努めた。

(3) 学校裁量を生かした創意工夫

教育課程

本年度は、平成14年度から実施された完全学校週5日制の下、各学校において、ゆとりの中で特色ある教育を展開し、児童生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせることはもとより、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことをねらいとして教育課程を編成するように、支援・指導の充実に努めた。

その結果、各学校においては、学習指導要領の趣旨を踏まえて、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び児童生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成した。

具体的には、次のとおりである。

ア 児童生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開することができたこと

イ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めることができたこと

ウ 教育課程を計画的・組織的に評価し、教育課程の見直しと改善を図ることができたこと

平成17年度文部科学省・岩手県教育委員会研究指定校

ア 文部科学省指定

指 定 領 域	事務所	学校（地域）名
学力向上支援事業（放課後学習チューターの拡充）（平成16・17年度）	盛岡	河北小 東松園小 永井小 厨川中 大宮中 見前中
学力向上拠点形成事業（確かな学力育成のための実践研究事業）（平成17～19年度）	盛岡	都南東小 手代森小 乙部中 紫波第二中
	花巻	大迫小
	北上	黒沢尻西小 上野中
	水沢	岩谷堂小 水沢中
	久慈	久慈湊小
国語力向上モデル事業（平成17・18年度）	二戸	金田一小
	盛岡	滝沢小 滝沢中 一本木小 一本木中 岩大教育附属小
へき地教育研究指定校事業（平成16・17年度）	宮古	大川小
教育課程の自己点検・自己評価に係る研究指定校事業（平成16・17年度）	二戸	一戸南小
豊かな体験活動推進事業（平成16・17年度）	宮古	山田町全域小中
豊かな体験活動推進事業・地域間交流（平成17・18年度）	二戸	平糠小
豊かな体験活動推進事業・長期宿泊体験（平成16・17年度）	久慈	角浜小

豊かな体験活動推進事業・命の教育体験活動交流（平成17・18年度）	盛岡	大更小 西根中
生きる力をはぐくむ読書活動推進事業（平成16・17年度）	盛岡	松園小 東松園小 北松園小 松園中 北松園中
全国のかつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校（平成17年度）	盛岡	上田中
就学前教育と小学校の連携に関する総合的調査研究（平成17・18年度）	大船渡	越喜来幼 越喜来小
キャリア・スタート・ウィーク事業（平成17～19年度）	花巻	湯本中 湯口中
	大船渡	世田米中 有住中
	釜石	釜石東中 唐丹中
児童生徒の心に響く道德教育推進事業（平成16・17年度）	盛岡	大新小 青山小 厨川中
キャリア教育推進地域指定事業（平成16～18年度）	久慈	宿戸小 中野小 小子内小 宿戸中 中野中
学校図書館資源共有ネットワーク推進事業（平成16～18年度）	千厩	東磐井郡内小中
人権教育（平成17・18年度）	釜石	大槌北小
道德教育（平成17・18年度）	水沢	小山中
幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究（平成16・17年度）	一関	一関市立幼稚園
特別支援教育推進体制事業（平成17年度）	一関	一関市内公立幼小中高
	盛岡	滝沢村小中
薬物乱用防止教育モデル推進事業（平成16～18年度）	盛岡	雫石町内小中高
学校給食における学校・家庭・地域の連携推進事業（平成17・18年度）	北上	沢内村小中
学校を中心とした食育推進事業（平成16～18年度）	一関	猿沢小 猿沢中
	盛岡	煙山小 矢巾北中
生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくり推進事業	釜石	双葉小

イ 岩手県教育委員会指定

指 定 領 域	事務所	学 校 名
小学校英語教育研究事業（総合的な学習の時間の一環としての英語活動）（平成16・17年度及び平成17・18年度）	盛岡	古館小
	二戸	鳥海小
	北上	江釣子小
	久慈	長内小
英語大好きジュニアハイスクール（英語教育教材開発及び外部評価の導入）（平成16・17年度及び平成17年度）	盛岡	滝沢第二中
	花巻	矢沢中
	二戸	小軽米中
	北上	江釣子中
	水沢	南都田中
	一関	桜町中
	千厩	藤沢中
	大船渡	第一中
	遠野	宮守中
	釜石	甲子中
	宮古	宮古西中
	久慈	山形中

通級指導における巡回指導に関する調査研究（平成16・17年度）	盛岡	手代森小
	花巻	土沢小
	北上	猿橋小 常盤小
	宮古	山田南小 山田北小
運動大好きっ子育成事業		県内小中54校
少人数学級調査研究事業		県内小中30校

教科書関係

ア 選択の概要

平成16年度に小学校用教科書の採択替えを行い、平成17年度に中学校用教科書の採択替えを行った。

イ 教科用図書選定審議会

県教育委員会は、市町村教育委員会及び国立、私立学校の校長の行う教科書採択が円滑適正になされるよう指導、助言、又は援助をするために、平成18年度使用教科用図書選定審議会委員を委嘱した。

教科用図書選定審議会に対し、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第11条第1項の規定により、次の事項について諮問し、その答申を受けて各採択権者に対し、指導、助言、援助を行った。

(ア) 平成18年度において使用する義務教育諸学校の教科用図書を名採択権者が採択する場合における採択基準について

(イ) 教科用図書選定のための資料について

ウ 教科書展示会

教科書の発行に関する臨時措置法第5条第1項の規定により平成18年度使用教科書展示会を次のとおり開催した。

(ア) 展示会場

盛岡教科書センター	巻堀教科書センター	花巻教科書センター	北上教科書センター
遠野教科書センター	江刺教科書センター	水沢教科書センター	一関教科書センター
一関教科書センター花泉分館	千厩教科書センター	大船渡教科書センター	大船渡教科書センター陸前高田分館
釜石教科書センター	宮古教科書センター	岩泉教科書センター	久慈教科書センター
二戸教科書センター			

(イ) 開催期日

平成17年6月17日から14日間（土、日曜日を除く14日間）

(ウ) 来会者の状況

教育委員会関係者43人、小学校教員170人、中学校教員459人、高等学校教員12人、その他164人、合計848人

高等学校教育全般

平成17年度の高等学校教育重点指導指針は、本県学校教育が目指す基本方針「創造性と進取の気性に富み、社会の変化に主体的に対応できる能力と国際的視野をもった心豊かな人間を育成する」を基調としている。

また、学校教育全般にわたる指導の要点としては、「学校経営」「学校評価」「学力向上」「豊かな人間性の育成」「教育課程」「学習指導」「道德教育」「特別活動」「総合的な学習の時間」「国際理解教育」「環境教育」「ボランティア教育」「情報教育」「読書指導」「健康教育」「進路指導」「職業教育」「生徒指導」「小規模・複式指導」「幼稚園教育」「特別支援教育」「交流教育」「定時制・通信制教育」「研修・研究」の24項目とし、教育の本質に根ざした学力の向上と健全育成を目指す学校教育の充実推進に努めた。

ア 研究指定校

下表のとおり

イ 学校訪問

学習指導・授業研修等による訪問や生徒指導等による訪問を行い、指導した。

定時制・通信教育

平成17年度における定時制課程の学校数は、10校（独立本校1校、併置校8校、分校1校）であり、通信制課程は、杜陵高校通信制1校である。

昭和56年度から、定時制高校と県立高等職業訓練校（1年課程）7校との間に技能連携教育が始まり、更に57年度には、雇用促進事業団立総合高等職業訓練校（2年課程）2校が加わった。

この制度が発足して22年目の平成14年度には技能連携生5人が入学した。また、この制度により、高校を卒業し

た生徒は541人にのぼっている。しかし、15年度には在籍が0となった。

昭和63年4月からは、杜陵高校定時制に全国初の単位制を導入し、平成5年度からは3部制にして多様な生徒の学習ニーズに対応している。

定時制・通信制課程の生徒数全体は減少傾向となっていたが、平成10年から微増となっている。

平成17年度 岩手県公立高等学校等教育研究指定校

区 分	研究主題	研究校	指定	年度
進協指導	小中高を通じたキャリア教育のあり方について	種市高（含小学校3校、中学校2校）	文部科学省	16～18
地域連携	豊かな体験活動推進事業 （地域指定：八幡平市）	平舘高 （含小学校1校、中学校1校）	文部科学省	16～17
学校図書館	学校図書館資料共有型モデル地域事業 （地域指定：千厩町、川崎村、東山町、大東町、 藤沢町、室根村）	（小学校32校、中学校10校、高校2校） 藤沢・千厩H13・H14（千厩東H13）	文部科学省	16～18
学力向上	学力向上フロンティアハイスクール	盛岡北高、金ヶ崎高、高田高、釜石南高、 一関工業高	文部科学省	15～17
理数系教育	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）	水沢高	文部科学省	15～17

ア 定時制、通信制学科別入学及び在籍生徒数

入 学 生 徒 数

（17.5.1現在）

課 程	定員	普通科	農業科	生活科	機械科	電気科	工業科	産業科	商業科	計	定員 充足率
定時制	人 520	人 199	人 -	人 -	人 -	人 -	人 9	人 12	人 12	人 232	% 44.6
通信制	300	191	-	-	-	-	-	-	-	191	63.7
合 計	820	390	-	-	-	-	9	12	12	423	51.6

在 籍 生 徒 数

（17.5.1現在）

課 程	定 員	普通科	農業科	生活科	機械科	電気科	工学科	産業科	商業科	計	定員 充足率
定時制	人 2,080	人 624	人 -	人 -	人 -	人 -	人 33	人 45	人 38	人 740	% 35.6
通信制	-	611	-	-	-	-	-	-	-	611	-
合 計	-	1,235	-	-	-	-	33	45	38	1,351	-

イ 就学奨励事業

就学促進のための施策の一環として「高等学校定時制課程及び通信制就学奨励費貸付事業」を実施しており、関連事業として、教科書の無償給与、夜間定時制高校生夜食費補助等も実施した。

ウ 主な事業（主催及び共催）

事 業 名	期 日	会 場	参加者等
岩手県高等学校定時制通信制教育振興会総会	17.5.20	杜 陵 高	39人
第55回岩手県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表会	17.10.2	サンセール盛岡	200人 発表13人

産業教育

職業教育に関する成果等の総合的な発表の場を設定し、広く県民に職業教育についての理解と協力を促し、職業学科に学ぶ生徒の意欲を高め、技術・技能の向上を図るとともにその振興に資するため、「第11回岩手県産業教育フェア」を開催した。

ア 期日

平成17年11月17日（木）～11月18日（金）

イ 会場

一関市総合体育館

ウ 参加者数及び見学者

5,500人余

(4) 英語力向上のための学校訪問指導

本県の英語教育が、現在、多くの課題を抱えているという認識に立ち、その解決策の一つが中学校と高等学校の連携であるという視点から、学校教育課の英語担当指導主事が、各市町村立中学校及び各県立高等学校等に訪問し、授業参観並びに授業研究会を通して、異なった校種の視点から授業改善に係る助言・指導及び意見の集約を行った。

(平成17年度実施分)

	訪問校数(校)	授業者数(人)	研修会参加者数(人)		
			中学校教員	高校教員	計
中学校会場	70	112	403	165	568
県立学校等会場	66	118	90	380	470
計	136	230	493	545	1,038

授業者にはALTは含まない。

研修会参加者には、授業者を含む。

2 進路指導の充実

進路指導は生徒の「人間としての在り方生き方」についての指導、援助であるとともに、個々の生徒の職業的発達を促進し、主体的な進路の選択能力を育て、自己実現に最善の努力ができる人間の育成を図ることにある。このため、次のような点に留意して実施した。

校内進路指導体制の確立
 年間指導計画の整備
 生徒理解の強化と生徒の自己理解の深化
 個人資料及び進路情報資料の収集と整備
 進路指導研修の充実と中・高連携の強化
 中高の望ましい接続のあり方についての研修

(1) 中高進路指導研究協議会

地区名	期 日	参加者(人)	
		中学校	高 校
盛岡北	7月5日	12	4
一 関	7月11日	21	8
釜 石	6月30日	10	6
久 慈	6月28日	21	7
参加者計		64	25

(2) 魅力ある学校づくりの推進

各学校が自らの裁量で創意工夫を凝らした様々な活動を通じて、学校の活性化と個性化を推進する事業である。その中で、大学講習など進学指導に関する事業が17校で実施された。

(3) 中学生用公立高等学校案内「岩手の高校」Webページの公開

設置学科等
 本校のめざす生徒像
 入学者選抜方法について
 特色ある教育活動
 学校長から一言

(4) キャリア教育指導者養成研修

小・中・高等学校等の進路指導主事等に対し、進路指導に必要な専門的知識・技術やキャリア・カウンセリング能力等を習得させることをねらいとした文部科学省主催の講座である。本年度は、中学校3人、高等学校2人が受講した。

(5) 中学生の一日高校体験入学

中学生の高校理解を深め、進路意識を高めるとともに適切な進路選択、決定に資するため実施した。

実施高等学校数71校、中学生15,838人、保護者495人、中学校教員1,120人、参加者合計17,453人であった。

第2節 心豊かでたくましい人間の育成

1 幼児教育の推進

幼稚園教育要領に基づく教育の充実のために、園長等運営管理協議会、岩手県教育課程研究協議会を開催するとともに、中央協議会への参加を支援し、幼稚園教育要領の理解を推進した。

また、教員の資質の向上を図るため、幼稚園等新規採用教員研修、教職経験者10年研修、各種協議会の内容を充実させるとともに、「岩手の幼稚園教育」の発刊、研究指定園による実践研究の推進等に努めた。

(1) 幼稚園等新規採用教員研修

主催 岩手県教育委員会

区 分	会 場	実施期日	参加人員（人）		
			公立	私立	合計
センター研修	県立総合教育センター	17.5.24～5.26	6名	14名	20名
センター研修	県立総合教育センター	17.8.9～8.11	6名	16名	22名
センター研修	県立総合教育センター	17.10.18～10.20	6名	13名	19名

(2) 幼稚園教職経験者10年研修

主催 文部科学省・岩手県教育委員会

会 場	実施期日	参加人員（人）		
		公立	私立	合計
県立総合教育センター	17.8.3～8.5	6名	1名	7名

(3) 保育技術協議会

主催 文部科学省・岩手県教育委員会

会 場	実施期日	参加人員（人）			
		国公立	私立	保育所	合計
県立こまくさ幼稚園	17.7.1	44名	17名	68名	129名

(4) 園長等運営管理協議会

主催 文部科学省・岩手県教育委員会

会 場	実施期日	参加人員（人）			
		国公立	私立	保育所	合計
サンセール盛岡	17.5.23	57名	31名	50名	138名

(5) 岩手県幼稚園教育課程研究協議会

主催 文部科学省・岩手県教育委員会

会 場	実施期日	参加人員（人）			
		国公立	私立	保育所	合計
県立総合教育センター	17.8.10	81名	118名	18名	217名

(6) 研究指定園

障害のある幼児の受け入れと指導に関する調査研究（H16～17） 一関市

修学前教育と小学校の連携に関する総合的調査研究（H17～18） 大船渡市

2 道徳教育の充実

学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進し、児童生徒の豊かな心の育成に努めた。

教員の指導力向上のため、道徳教育の中核となる指導者養成研修に教員等を派遣し、指導力の向上を図るとともに、道徳教育推進協議会を開催し、学校・家庭・地域社会の道徳教育への理解の推進を図った。

各学校が保護者や地域住民に道徳の授業を公開するとともに、道徳教育の在り方について協議する場として道徳授業地区公開講座を開催し、学校、家庭、地域社会が連携した道徳教育の推進に努めた。

(1) 道徳教育推進協議会

学校教育関係者、学識経験者、保護者、報道関係者、企業関係者、警察関係者、社会福祉関係者、行政関係者20名で構成し、道徳教育の充実のために協議し、提言をまとめた。

主催 文部科学省・岩手県教育委員会

会 場	実施期日	人数
県 庁 舎	17.7.11	19名
盛岡市立青山小学校	17.10.28	12名

(2) 道徳授業地区公開講座

平成17年度から平成19年度までの3年間の中で、県内の全小中学校が道徳の授業を保護者や地域住民に公開する機会を設定し、学校、家庭、地域社会が連携をとり合い、児童生徒に道徳性を培う取組を進めている。

3 ボランティア教育・環境教育の充実

福祉活動や環境保護などボランティア教育に対する理解と関心を高め、社会貢献の精神を育てるとともに、児童生徒の豊かな人間性を育み、自らの生き方を主体的に考える態度の育成を図る教育の推進に努めた。

(1) 状況

各学校において、老人施設・福祉施設・養護学校等での交流活動や介護体験、キャップハンディー体験等体験的な学習としてボランティア活動に取り組むことが広がっている。

地域や学校の生活を見つめ、その中から環境や福祉等と関連づけながら問題を取り上げ、自分たちの課題としてボランティア活動に取り組もうとするようになってきている。

社会福祉協議会等関係機関との連携により、ボランティア教育が推進されている。

総合的な学習の時間の新設、道徳、特別活動への導入等により、今まで以上にボランティア活動の教育課程や指導計画への位置付けが強まっている。

(2) 成果

県及び市町村社会福祉協議会との連携によるボランティア教育が推進された。

県社会福祉協議会指定ボランティア協力校

新規指定校24校

平成17年度協力校総数76校（小41、中22、高12、養1）【3年指定】

県社会福祉協議会指定ワークキャンプ実践校

指定校23校（小3、中15、高5）【1年指定】

平成17年度福祉教育推進者セミナー

参加者数 120名

(3) 課題

各学校の創意工夫を生かしながら、計画的・継続的な取組や、事前事後指導によるボランティア精神や福祉の心を培っていく指導を通して、ボランティア活動の日常化等活動の充実を図ること。

福祉教育、環境教育や国際理解教育等、ボランティア教育とのねらいや活動が重複する部分について相互の関連を図り、ボランティア活動に対する関心や意欲を高めること。

各機関との連携を図りながら、開かれた学校づくりを通してボランティア教育を推進すること。

(4) 環境教育

自然を守り、快適な環境を創造するため、環境の問題に関心をもち、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる資質と能力育成のため、各教科の特性を生かして、学校教育全体の中で、総合的、相互関連的に指導を行った。

4 適応指導の充実

全国のいじめ、暴力行為等の学校不適応については、平成15年度に増加に転じた以外は、ここ5年間ほぼ一貫して減少傾向にある。この傾向は、本県においても同様である。

また、不登校については、今国・本県とも、平成13年度をピークに4年連続で減少しているが、中途退学者については、平成17年度、本県では5年ぶりに増加した。

本県の児童生徒は、概ね落ち着いた状況にあるが、いずれの課題も、学校を中心に家庭、地域社会が総合的に取り組むべき大きな教育問題となっている。

これらの問題の解決のためには、家庭、学校、地域社会がそれぞれの役割を果たし、連携を深めるとともに、深い児童生徒理解に立ち、一人一人の児童生徒が生き生きとした学校生活を送ることができるよう、努める必要がある。

(1) 上級カウンセリング研修講座

不登校をはじめとする学校不適応問題への対応の充実を図るため、総合教育センター等の教育相談研修講座の受講経験者等を対象に、さらに実践的なカウンセリングの理論や技術を研修し、県内各地域や学校における教育相談活動の推進者としての資質向上を図ることを目的に、上級カウンセリング研修講座を実施した。

(2) 高等学校生徒指導連絡協議会

主催

岩手県教育委員会

期日

第1回 5月6日～5月20日

第2回 2月3日

会場及び参加者

第1回 地区別9会場

校長、教員、在学青少年指導員200名

第2回 県庁

教員120名

(3) 学校警察連絡協議会代表者協議会

・主催 岩手県教育委員会

岩手県警察本部

開催地 学校警察連絡協議会

【開催地】

ブロック	期 日	会 場	参 加 者 (人)			
			学校	警察	教委等	合計
水 沢	8月31日	江刺市中央体育館	40	10	28	78
遠 野	9月2日	あえりあ遠野	27	9	22	58
久 慈	9月29日	久慈地区合同庁舎	27	9	17	53
合 計	3日間	3会場	94	28	67	189

(4) 児童生徒の表彰

県内各学校の児童生徒を対象に、他の模範となる行為や活動を表彰することにより、児童生徒の社会的行動や道徳的態度、実践力の向上など学校教育の一層の充実に資するため、昭和60年度から実施している。17年度の表彰は次のとおりである。

平成17年度第1回児童生徒表彰受賞者一覧

NO.	項 目	校種	所属・表彰受賞者	内 容
1	奨 励 (文化活動)	小 個	岩泉町立小川小学校 3年 野 吾 大 地	第14回日専連全国児童版画コンクールにおいて、日専連理事長賞を受賞した。
2	奨 励 (文化活動)	高 個	盛岡第二高等学校 2年 甲斐谷 望	第52回NHK杯全国高校放送コンテスト朗読部門において、準優勝した。

3	奨励 (文化活動)	高個	釜石南高等学校 1年 土 橋 惇 郎	第18回全国高等学校将棋竜王戦において、優勝した。
4	奨励 (文化活動)	高団	盛岡第二高等学校 箏曲部	第29回全国高等学校総合文化祭日本音楽部門において、文化庁長官賞を受賞した。
5	奨励 (スポーツ活動)	高個	盛岡南高等学校 3年 阿 部 克 寛	平成17年度全国高等学校総合体育大会ボクシング競技ライト級において、準優勝した。
6	奨励 (スポーツ活動)	高個	不来方高等学校 2年 北 田 智 充	平成17年度全国高等学校カヌー選手権大会男子カヤックペア200mにおいて、優勝した。
7	奨励 (スポーツ活動)	高個	不来方高等学校 2年 水 本 圭 治	平成17年度全国高等学校カヌー選手権大会男子カヤックペア200mにおいて、優勝した。
8	奨励 (スポーツ活動)	高個	盛岡工業高等学校 3年 藤 本 健 治	平成17年度全国高等学校総合体育大会レスリング競技96kg級において、優勝した。
9	奨励 (スポーツ活動)	高個	盛岡市立高等学校 3年 藤 田 朋 輝	平成17年度全国高等学校総合体育大会新体操男子個人競技において、優勝した。
10	奨励 (スポーツ活動)	高団	宮古高等学校 女子ヨット部	平成17年度全国高等学校総合体育大会ヨット競技女子FJ級ソロ競技及びデュエット競技において、準優勝した。
11	奨励 (スポーツ活動)	高団	福岡高等学校 男子弓道部	第23回全国高等学校弓道選抜大会男子の部団体競技において、優勝した。
12	努力 (文化活動)	小個	盛岡養護学校都南校小学部 6年 外 山 漁 太	障害を抱えながらも、本年8月まで普通学級に在籍し、明るく前向きに生活した。第28回こども絵画コンクールにおいて、秀作賞を受賞した。

平成17年度第2回児童生徒表彰受賞者一覧

NO.	項 目	校種	所属・表彰受賞者	内 容
1	善 行 (人命救助)	中個	葛巻町立江刈中学校 3年 川 戸 拓 也	自宅近くの畑で農作業中、倒れた薬剤散布車に足を挟まれ、動けなくなっていた男性を発見し、救助した。
2	善 行 (奉仕活動)	高団	一関第二高等学校 JRC部	昭和48年の創立以来32年間にわたり、地域の施設等との交流活動などのボランティア活動に取り組み、ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰を受賞した。
3	奨励 (文化活動)	小個	盛岡市立藪川小学校 1年 千 葉 幸 哉	第24回全国児童画コンクールにおいて、文部科学大臣奨励賞を受賞した。
4	奨励 (文化活動)	小個	八幡平市立寺田小学校 4年 中 村 友 香	第20回国民文化祭・ふくい2005文芸祭川柳大会小・中学生の部において、国民文化祭実行委員会会長賞を受賞した。
5	奨励 (文化活動)	小個	一関市立金沢小学校 1年 稲 部 萌	平成17年度歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール中央審査会において、最優秀賞を受賞した。
6	奨励 (文化活動)	小団	盛岡市立羽場小学校 新聞委員会	第34回学校新聞コンクールにおいて、文部科学大臣奨励賞を受賞した。
7	奨励 (文化活動)	小団	水沢市立常盤小学校 マーチングバンド	第34回マーチングバンド・パトントーワリング東北大会において優秀賞を受賞し、5年連続となる全国大会への出場を決めた。また、第32回及び第33回マーチングバンド・パトントーワリング全国大会において、2年連続となる金賞を受賞した。
8	奨励 (文化活動)	中個	盛岡市立上田中学校 3年 坂 本 潤 奈	平成17年度少年の主張全国大会において、文部科学大臣奨励賞を受賞した。
9	奨励 (文化活動)	中個	滝沢村立滝沢南中学校 2年 田 中 萌	第55回全国小・中学校作文コンクール中学校の部において、文部科学大臣賞を受賞した。
10	奨励 (文化活動)	中個	大槌町立吉里吉里中学校 3年 北 田 陽 香	JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2005において、文部科学大臣奨励賞を受賞した。
11	奨励 (文化活動)	高個	盛岡第四高等学校 2年 川 村 実佳子	第10回全日本高校・大学生書道展漢字部門において、書道展大賞を受賞した。
12	奨励 (文化活動)	高個	盛岡農業高等学校 2年 加 藤 慶 太	第56回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技 区分園芸において、最優秀賞を受賞した。さらに、農業鑑定競技で最高点となり、文部科学大臣賞を受賞した。
13	奨励 (文化活動)	高個	水沢商業高等学校 3年 伊 藤 龍 昇	平成17年度第52回全国高等学校ワープロ競技大会個人の部において、準優勝した。
14	奨励 (文化活動)	高団	盛岡農業高等学校 ムラサキ保護研究班	第13回いきいき活動奨励賞において、文部科学大臣奨励賞を受賞した。
15	奨励 (文化活動)	高団	広田水産高等学校 水産物有効利用研究班	平成17年度第14回全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会において、最優秀賞を受賞した。
16	奨励 (スポーツ活動)	小個	盛岡市立杜陵小学校 6年 百 井 淳 平	第21回全国小学生陸上交流大会男子ソフトボール投げにおいて、県小学校新記録となる82.01mで優勝した。
17	奨励 (スポーツ活動)	小個	遠野市立上郷小学校 1年 菊 池 亜美紗	第5回全日本少年少女空手道選手権大会、組手競技女子1年生組手において、優勝した。
18	奨励 (スポーツ活動)	小個	大槌町立大槌小学校 5年 岩 間 優 弥	第18回全日本小学生相撲優勝大会、小学校5年生の部において、準優勝した。

19	奨励 (スポーツ活動)	中 個	盛岡市立北陵小学校 3年 毛利 俊	第36回ジュニアオリンピック陸上競技大会男子A 200mにおいて、県中学校新記録となる22.08秒で優勝した。
20	奨励 (スポーツ活動)	中 団	住田町立有住中学校 生徒会	第19回毎日カップ体力づくりコンテストにおいて、特別奨励賞を受賞した。
21	奨励 (スポーツ活動)	高 個	紫波総合高等学校 3年 兼 平 純	自転車のジュニア世界選手権ポイントレースにおいて、第6位に入賞した。また、平成17年度第60回国民体育大会秋季大会自転車競技少年男子ポイントレースにおいて、準優勝した。
22	奨励 (スポーツ活動)	高 個	宮古高等学校 3年 福 館 京 子	平成17年度第60回国民体育大会夏季大会ヨット、セーリング競技少年女子FJ級において、優勝した。
23	奨励 (スポーツ活動)	高 個	宮古高等学校 3年 東 知 英	平成17年度第60回国民体育大会夏季大会ヨット、セーリング競技少年女子FJ級において、優勝した。
24	奨励 (スポーツ活動)	高 個	宮古商業高等学校 2年 坂 本 友里恵	2005年度全日本ジュニアレスリング選手権大会女子カデットの部40kg級において、優勝した。また、2005年レスリングカデットアジア選手権女子40kg級において、準優勝した。
25	努力 (文化活動)	小 個	盲学校小学部 4年 中 村 ひとみ	第24回「肢体不自由児・者の美術展」書部門において、文部科学大臣奨励賞を受賞した。
26	努力 (文化活動)	小 個	盲学校小学部 5年 酒 出 彩 夏	第24回「肢体不自由児・者の美術展」書部門において、2年連続の入賞となるNHK厚生文化事業団賞を受賞した。
27	努力 (文化活動)	高 個	盛岡養護学校高等部 3年 菊 池 洋 平	30周年記念わたぼうし音楽祭作詞の部において、入選し、2年連続入選となった。

(5) 教育相談

平成17年度の相談受理件数は288件、延べ相談件数は1,323件であった。うち、電話相談が844件、来所しての面接相談が479件である。

相談受理件数を内容別に見ると、小・中・高いずれの校種でも「性格・行動に関すること」が最も多く、全体で199件と、69.1%を占めた。次いで、「進路・適性に関すること」が、30件となっている。

主訴別の相談件数では「不登校」が71件、「集団不適應」が66件と多く、多くの「学校に行けない」「教室に入れない」子ども達の姿が浮かび上がってくる。

「いじめ」の相談件数は0であるが、不登校や集団不適應の要因のひとつとなっているケースもあり、件数として表れない面もある。

性別・校種別の不登校相談件数は、小学校では、男子も女子もほぼ同数であるが、中学校・高校では男子が女子を上回っている。

不登校の相談件数は、高校が29件で全体の40.9%で最も多くなっている。さらに学年別にみると、小学校では、4年生から件数が多くなり、中学校では、2年生が最も多い。また高校では、1年生が多く、2年、3年と学年が上がるほど少なくなっている。

内容別・校種別相談件数

内容	就学前	小学校	中学校	高 校	その他	計(%)
知能・学業に関すること	0	1	0	0	0	1(0.3)
性格・行動に関すること	2	71	71	54	1	199(69.1)
性に関すること	0	0	0	0	0	0(0.0)
進路・適性に関すること	0	8	9	10	3	30(10.4)
精神衛生に関すること	0	5	8	6	1	20(7.0)
家庭教育一般に関すること	1	13	6	7	1	28(9.7)
その他	0	1	4	2	3	10(3.5)
計	3	99	98	79	9	288
(%)	(1.1)	(34.4)	(34.0)	(27.4)	(3.1)	(100.0)

主訴別相談件数

主 訴	件 数 (%)	主 訴	件 数 (%)
不登校	71 (24.6)	生活指導	28 (9.7)
集団不適應	66 (22.9)	対人関係	14 (4.7)
情緒障害	12 (4.4)	交友関係	20 (6.9)
進路相談	31 (10.8)	家庭内暴力	0 (0.0)
神経症・同疑い	8 (2.8)	その他	10 (3.5)
いじめ	0 (0.0)		
家庭教育	28 (9.7)	計	288 (100.0)

性別・校種別不登校相談件数

性別\校種	就学前	小学校	中学校	高 校	その他	計
男	0	8	15	16	0	39
女	0	8	11	13	0	32
計	0	16	26	29	0	71

学年別不登校相談件数

学年	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	その他	計
件数	1	0	1	3	3	7	9	11	6	22	5	2	0	71
	16						26			29			0	

(6) 障害のある子どもに関する教育相談

平成17年度の障害のある子どもの教育相談は、受付件数が111件、延べ件数が151件である。昨年度に比べて、受付件数で2件、延べ件数で28件それぞれ減少している。減少の理由としては、継続相談の減少、盲・聾・養護学校や市町村単位での巡回相談の実施等、地域における相談の増加などが考えられる。

一方で、障害種別で「その他」に分類されるLD、ADHD、高機能自閉症などの障害に関する相談が5割を超え、指導等が困難で、専門性が求められる相談事例が増加している。

障害別・校種別相談件数

障害\校種	保育園 幼稚園	小学校	中学校	高等学校	盲・聾 養護学校	その他	合計 (%)	延べ人数 (%)
知的障害	2	15	17	3	1	1	39(35.1)	52(34.4)
情緒障害	2	4	2	0	0	0	8(7.2)	10(6.6)
言語障害	0	1	0	0	0	0	1(0.9)	1(0.7)
肢体不自由	1	1	1	0	0	0	3(2.7)	3(2.0)
病・虚弱	0	0	0	0	0	0	0(0.0)	0(0.0)
視覚障害	0	0	0	0	0	0	0(0.0)	0(0.0)
聴覚障害	0	1	1	0	0	0	2(1.8)	2(1.3)
重度重複	0	0	0	0	0	0	0(0.0)	0(0.0)
その他	8	37	11	0	0	2	58(52.3)	83(55.0)
計 (%)	13 (11.7)	59 (53.2)	32 (28.8)	3 (2.7)	1 (0.9)	3 (2.7)	111 (100.0)	151 (100.0)

主訴別相談件数

主訴	ことば	就 学	養 育	性格行動	指導	進路	学業不振	その他	計
件数	2	2	21	0	72	11	0	3	111
%	1.8	1.8	18.9	0.0	64.9	9.9	0.0	2.7	100.0

5 健康教育の充実

(1) 学校保健

ア 保健教育の充実及び保健管理の徹底

(ア) 学校保健計画の立案、実施の徹底

学校保健においては、保健教育と保健管理の活動을適切に行うことによって、児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、学校教育目標の達成に寄与することとし、児童生徒自らの意志決定により健康な生活が実践できるようにすることを目指す。

また、学校保健を組織的に推進するために、教職員の協力体制を確立し、家庭や地域の関係機関との連携を図る。

(イ) 関係機関団体等との連携及び学校保健組織活動の充実

学校内の組織の設置促進と活動の充実

学校保健委員会の活動

児童生徒保健委員会の活動促進

関係機関団体との連携

岩手県医師会学校医部会

岩手県歯科医師全学校歯科医会

岩手県薬剤師全学校薬剤師会
 岩手県学校保健会
 岩手県学校保健会養護教諭部会
 岩手県高等学校教育研究会学校保健部会

イ 学校保健関係職員の研修

(ア) 県内

学校保健講習会兼エイズ教育指導者講習会
 期 日 11月15日
 場 所 盛岡市
 参加者 63人(小19、中21、高20、盲聾養3)
 第41回岩手県学校健康教育研究大会
 期 日 1月11日
 場 所 盛岡市
 参加者 413人
 薬物乱用防止教育研修会
 期 日 9月14日
 場 所 盛岡市
 参加者 41人(小17、中18、高6)

(イ) 県外

全国学校保健研究大会
 期 日 11月10日～11日
 場 所 滋賀県
 参加者 3人(小1、中1、高1)
 健康教育の推進のための指導者の養成を目的とした研修
 期 日 9月20日～22日
 場 所 茨城県つくば市
 参加者 5人(小2、中2、高1)
 児童生徒心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修
 期 日 12月6日～9日
 場 所 茨城県つくば市
 参加者 5人(小2、中2、高1)
 学校保健センター事業報告会
 期 日 2月16日
 場 所 東京都
 参加者 1人

ウ 岩手県学校保健功労者表彰

及川 量平	学校医	県医師会
小山田榮二	学校歯科医	県歯科医師会
大越 恵子	養護教諭	養護教諭部会
宮 良男	学校薬剤師	盛岡市学校保健会
杉山 論	学校医	花巻市学校保健会
高橋 文郎	学校医	北上市学校保健会
四戸 俊文	学校医	前沢町学校保健会
植田 俊郎	学校医	釜石・大槌地区学校保健連絡協議会
高橋 茂樹	学校薬剤師	田野畑村学校保健会
漆久保 潔	学校医	種市町学校保健会
伊保内利一	学校歯科医	九戸村学校保健会

エ 健康教育指定校の実践

(ア) 釜石市立双葉小学校

歯・口の健康づくり推進事業
 (文部科学省、日本学校歯科医会)

(イ) 雫石管内小・中・高等学校

薬物乱用防止教育支援体制整備活用モデル事業(文部科学省)

(2) 学校安全

児童生徒の学校管理下における災害は、毎年約1万件もの発生があり、これらの学校災害の防止と後を絶たない交通事故の防止、及び学校への不審者侵入や通学路での連れ去り、声かけといった犯罪に対する安全確保を図るため、安全指導、安全管理の推進、充実が重要な課題となっている。

独立行政法人日本スポーツ振興センター仙台支所が調査した平成17年度の児童生徒の学校管理下における災害発生件数は次表のとおりとなっており、次の事業を通して児童生徒の事故、災害の防止を図り、学校における安全教育の徹底を期するよう努めた。

(平成17年度)

区 分	発生件数	発生率(%)
幼稚園・保育所	580	1.28
小 学 校	3,540	4.48
中 学 校	4,374	10.09
高 等 学 校	2,508	5.54
高等専門学校	26	2.97
計	11,028	5.29

学校安全関係職員研修

ア 学校安全教育指導者中央研修会

期 日 5月30日～6月3日

場 所 東京都

参加者 4人(小2、中1、高1)

イ 交通安全教育指導者講習会兼中央研修伝達講習会

期 日 6月24日

場 所 盛岡市

参加者 113人(小13、中14、高86)

ウ 防犯教室講習会

期 日 8月11日

場 所 盛岡市

参加者 195人

エ 防災教育・災害時の心の健康に関する研修会

期 日 9月6日

場 所 盛岡市

参加者 62人(小20、中20、高19、盲聾養護3)

オ 学校安全推進フォーラム

期 日 11月2日

場 所 東京都

参加者 9人(小3、中4、高2)

カ 学校安全研究大会

期 日 1月11日～12日

場 所 東京都

参加者 8人(小2、中1、高2、盲聾養護3)

学校安全優良校の表彰

雫石町立西根小学校

花巻市立花巻小学校

北上市立黒岩小学校

水沢市立水沢南小学校

衣川村立南股小学校

一関市立滝沢小学校

藤沢町立大籠小学校

陸前高田市立横田小学校

大槌町立大槌小学校

遠野市立達磨部小学校

山田町立織笠小学校

岩泉町立岩泉小学校

久慈市立久慈湊小学校
大野村立大野小学校
岩手県立岩谷堂高等学校
衣川村立衣里幼稚園
学校法人常盤学園常盤幼稚園
北上市立二子保育園

地域ぐるみの学校安全推進体制整備推進事業モデル地域
水沢市
矢巾町

交通安全教育地域実践事業（文部科学省）
岩手県立岩谷堂高等学校

学校安全研究推進事業（独立行政法人日本スポーツ振興センター）
久慈市立宇部小学校

(3) 食育・学校給食

平成17年度は、食育推進プロジェクトの一環として、食の安全安心親子探検隊事業を行った。これは、小学校5・6年生とその保護者が食品の生産、製造、流通の現場を訪問し、実地調査に基づき成果発表を行い、意識啓発を図ったものである。県内167小学校、909人が参加した。学校給食については、学校給食衛生管理の基準に基づいた衛生管理の徹底を図ると共に、学校給食施設・設備（ドライシステム）の整備促進に努めた。また、関係職員の資質向上を図るため、各種研修会、講習会を開催し、給食指導、食事内容の充実及び安全、衛生管理の充実に努めた。

ア 学校給食の普及状況

学校給食の普及状況は、第1表のとおりであり、中学校の完全給食実施率が低いのは、都市部における未実施校が多いためである。

また、調理方式別完全給食実施状況及び米飯給食実施状況は第2表及び第3表のとおりである。

第1表 学校給食実施状況 (17.5.1現在)

区 分	小 学 校		中 学 校		夜間定時制高等学校		特 殊 教 育 諸 学 校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数	学校数	生徒数 (受給人員)	学校数	児童生徒数 (受給人員)
完全給食	427校 (96.2)	75,690人 (96.9)	160校 (80.0)	30,910人 (72.5)	4校 (40.0)	124人 (71.7)	11校 (78.6)	905人 (81.2)
補食給食	9 (2.0)	1,293 (1.6)	4 (2.0)	739 (1.7)	6 (60.0)	49 (28.3)	- (-)	- (-)
ミルク 給食	8 (1.8)	1,159 (1.5)	36 (18.0)	10,983 (25.8)	- (-)	- (-)	3 (21.4)	210 (18.8)
計	444 (100.0)	78,142 (100.0)	200 (100.0)	42,632 (100.0)	10 (100.0)	173 (100.0)	14 (100.0)	1,115 (100.0)

注：1 小学校及び中学校は、市町村立学校、夜間定時制学校及び特殊教育諸学校は、県立学校分である。

2 ()内は実施率である。

第2表 調理方式別完全給食実施状況 (17.5.1現在)

区 分	単 独 調 理 方 式		共同調理方式 (69か所)		計	
	学 校 数	児童生徒数	学 校 数	児童生徒数	学 校 数	児童生徒数
小 学 校	85校 (19.5)	24,833人 (32.3)	351校 (80.5)	52,150人 (67.7)	436校 (100.0)	76,983人 (100.0)
中 学 校	10 (6.1)	2,100 (6.6)	154 (93.9)	29,549 (93.4)	164 (100.0)	31,649 (100.0)

注：() 内は実施率である。

第3表 米飯給食実施状況 (17.5.1現在)

区 分	自 校 (場) 炊 飯		委 託 炊 飯		「自校・共同調理場炊飯」「委託炊飯」併用		計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小 学 校	125校 (29.2)	23,436人 (31.0)	259校 (60.7)	43,380人 (57.3)	43校 (10.1)	8,874人 (11.7)	427校 (100.0)	75,690人 (100.0)
中 学 校	32 (20.0)	7,419 (24.0)	111 (69.4)	21,074 (68.2)	17 (10.6)	2,417 (7.8)	160 (100.0)	30,910 (100.0)

注：1 小学校及び中学校は、市町村立学校である。

2 () 内は実施率である。

イ 学校栄養職員及び学校給食調理員配置状況

学校栄養職員及び学校給食調理員 (17.5.1現在)

区 分	給与負担者別 設 置 者	職 員 数			計
		単独調理方式	共同調理方式	市町村教委	
栄 養 職 員	県 費	37人	85人	- 人	122人
	市 町 村 費	26	6	4	36
	計	63	91	4	158
調 理 員	市 町 村 費	247	479	-	726

注：国立私立、県立学校を除く本採用職員のみ。調理員は、常勤職員のみ。

ウ 学校給食費補助 (国庫補助金)

(ア) 要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金 (学校給食費) 58市町村 55,637千円

エ 学校給食費の状況

学校給食費 (保護者負担額)

(17.5.1現在)

区 分	1食あたり 平均単価	平均月額	年間実施 予定回数
小学校	247円21銭	3,995円	178回
中学校	283円80銭	4,548円	176回

注：小学校は中学年 (3・4年) 分である。

オ 学校給食関係職員の研修

学校給食における衛生管理に関する研修及び給食指導と食事内容の充実のため、研究協議・調理技術の研修等を実施した。

カ 学校給食優良学校等表彰

盛岡市立松園小学校
花巻市立太田小学校
水沢市立水沢小学校
一戸町立一戸小学校
金ヶ崎町立学校給食センター

学 校 給 食 関 係 研 修 会

主 催	研 修 会 名	期 日	会 場	参加者
日本スポーツ振興センター	学校給食衛生管理講習会（東日本）	6月1日～3日	埼玉県	1人
〃	学校給食調理員研究大会	7月28日～29日	東京都	7
〃	食に関する中央講習会	8月10日～12日	〃	1
文部科学省	第1回食に関するシンポジウム	8月19日	〃	3
日本スポーツ振興センター	学校給食衛生管理指導者養成講習会	9月14日～16日	〃	2
文部科学省・独立行政法人教員研修センター（共催）	食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修	7月11日～14日	〃	3
文部科学省	全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会	8月3日～4日	愛知県	7
〃	全国学校給食研究協議大会	9月8日～9日	青森県	14
岩 手 県	衛生管理推進等研修会	6月7日	盛岡市	99
〃	学校栄養職員講習会	9月2日	〃	45
〃	学校給食指導者研修会	11月2日	〃	51
給食会・岩手県（共催）	学校給食調理講習会	7月26日～27日	〃	44
（社）全国学校栄養士協議会岩手県支部	学校栄養職員研究大会	12月8日～9日	〃	157
給食会・岩手県（共催）	学校給食調理コンクール	1月6日	〃	(7チーム)21

6 体育・スポーツの充実

(1) 学校体育関係職員の研修

研 修 会 名	期 日	会 場	参 加 者
学校体育実技武道指導者講習会	11.8～10	盛 岡 市	剣道 中学校25人、高等学校2人
小学校体育実技指導者講習会	6.7～8	盛 岡 市	ゲーム、器械運動 表現 計38人
中学校体育実技講習会	9.6～8	盛 岡 市	体づくり運動、器械運動 ハンドボール 計27人
地区別小学校体育実技講習会	6月～8月	各教育事務所 管 内	356人
高等学校体育実技講習会	9.6～8	盛 岡 市	体づくり運動、器械運動 ハンドボール 計71人
高等学校冬山登山指導者講習会	12.12～14	松 尾 村	7人
小学校冬季体育実技（スキー）講習会	1.10～12	一 戸 町	19人
運動部活動指導者研修会	8.23～25	盛 岡 市	バレーボール、バドミントン 中学校25人、高等学校2人

(2) 運動大好き岩手っ子育成事業（実践期間=H17：指定の種類=県）

教育事務所名	小学校名	中学校名
盛 岡	岩手町立沼宮内小学校	盛岡市立飯岡中学校
	安代町立安代小学校	葛巻町立葛巻中学校
	玉山村立玉山小学校	安代町立安代中学校
	矢巾町立矢巾東小学校	紫波町立紫波第一中学校
花 巻	花巻市立桜台小学校	花巻市立花巻中学校
	花巻市立湯本小学校	花巻市立矢沢中学校
北 上	北上市立黒沢尻北小学校	北上市立上野中学校
	北上市立黒沢尻東小学校	北上市立北上中学校
水 沢	金ヶ崎町立金ヶ崎小学校	水沢市立東水沢中学校
	前沢町立古城小学校	江刺市立江刺東中学校
一 関	一関市立一関小学校	一関市立山目中学校
	一関市立萩荘小学校	平泉町立平泉中学校
千 厩	室根村立折壁小学校	千厩町立千厩中学校
	藤沢町立藤沢小学校	藤沢町立藤沢中学校
大船渡	陸前高田市立竹駒小学校	大船渡市立末崎中学校
	住田町立世田米小学校	陸前高田市立小友中学校
遠 野	遠野市立遠野北小学校	遠野市立遠野中学校
	遠野市立上郷小学校	遠野市立上郷中学校
釜 石	釜石市立小佐野小学校	釜石市立小佐野中学校
	大槌町立金沢小学校	大槌町立大槌中学校
宮 古	宮古市立山口小学校	宮古市立第一中学校
	岩泉町立岩泉小学校	岩泉町立岩泉中学校
久 慈	久慈市立大川目小学校	種市町立角浜中学校
	普代村立普代小学校	野田村立野田中学校
	大野村立向田小学校	山形村立山形中学校
二 戸	九戸村立江刺家小学校	二戸市立仁左平中学校
	一戸町立一戸小学校	軽米町立軽米中学校

(3) 主要研究大会

研 究 大 会 名	期 日	会 場
平成17年度岩手県高等学校保健体育研究大会	11.17～18	雫石町営体育館
平成17年度岩手県中学校保健体育研究大会	11.22	花巻市立花巻中学校
平成17年度岩手県小学校体育研究大会	10.19	矢巾町立矢巾東小学校

(4) 主要体育大会

体 育 大 会 名	期 日	会 場
第59回岩手県高等学校総合体育大会	6.3～5	盛岡市他
第52回岩手県中学校総合体育大会	7.15～18	盛岡市他
第55回岩手県高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会	11.27～12.14	盛岡市
第38回岩手県中学校スケート大会	11.27～12.11	盛岡市
第55回岩手県中学校スキー大会	1.14～16	八幡平市
第55回岩手県高等学校スキー大会	1.14～16	八幡平市

(5) 学校体育団体助成

団 体 名	助 成 金 額
岩手県高等学校体育連盟	56,944千円
岩手県中学校体育連盟	15,414千円

第3節 社会の変化に対応した教育の推進

1 情報教育の充実

社会の情報化に対応した教育を行うため、「教育の情報化」を推進することとし、情報機器の整備促進及びその活用充実等のための事業や、IT活用能力及び指導力の向上のための各種研修事業を積極的に実施した。

(1) 情報関連機器の整備状況

		1台あたりの児童生徒数		普通教室のLAN整備	
学校種別	平成12年整備基準	岩手県	全国平均	岩手県	全国平均
小学校	5.1人に1台	7.1人/台	9.6人/台	24.7%	43.7%
中学校	5.2人に1台	5.5人/台	6.9人/台	29.9%	48.0%
高等学校	7.4人に1台	4.1人/台	5.7人/台	96.8%	75.4%
盲聾養護	1.4人に1台	1.0人/台	3.3人/台	98.4%	61.1%
合 計	5.4人に1台	5.5人/台	7.7人/台	42.0%	50.6%

(平成18年3月末日現在)

平成12年度からの新基準				
学校種別	コンピュータ教室	普通教室	特別教室	総 合 (人数/1台当たり)
小学校	児童生徒 1人に1台 (42台程度)	各2台	学校6台	5.1人/台
中学校				5.2人/台
高等学校				7.4人/台
盲聾養護				1.4人/台

(2) 教員の指導力の向上

コンピュータで指導できる教員の割合

学校種別	岩手県		全国平均
	H16年度	H17年度	
小 学 校	74.2%	98.2%	85.6%
中 学 校	55.7%	96.6%	71.4%
高 等 学 校	75.4%	97.6%	67.3%
盲聾養護学校	85.3%	100.0%	68.6%
合 計	70.4%	97.7%	76.8%

教員情報活用能力向上研修

小・中・高・盲聾養護学校の教員505名を対象に、民間の情報処理技術者等を活用して、研修を行った。

ネットワーク管理者研修

県立学校の校内ネットワークの管理教員70名を対象として、ネットワークの管理・運営方法についての研修を行った。

初任者・教職経験者研修

初任者研修、教職経験者5年及び10年研修において、IT活用能力向上のための実技研修を行った。

教育情報化推進指導者養成研修

文部科学省が主催する指導者養成研修に、5名の教員を派遣した。

2 国際理解教育の充実

国際化の進展に対応し、国の外国青年招致事業による外国青年を招聘し、中・高校における外国語教育や国際理解教育の充実に努めた。

また、平成9年度から、高校生世界のかけ橋推進事業を実施し、高校生をテーマ別に、米国、ヨーロッパ等に派遣し、海外研修の充実を図っている。

(1) 外国青年招致事業

招致人員 71人

国籍

米国、英国、カナダ、ニュージーランド、アイルランド、フランス、オーストリア

配置先

事務局学校教育課 1人

各教育事務所 12人

総合教育センター 1人

県立高校等 57人

【配置高校名】

盛岡第一、盛岡第二、盛岡第三、盛岡第四、盛岡北、盛岡南、不来方、盛岡農業、盛岡工業、盛岡商業、沼宮内、雫石、紫波総合、葛巻、平舘、花巻北、花巻南、花巻農業、大迫、黒沢尻工業、黒沢尻北、北上翔南、西和賀、水沢、水沢工業、水沢商業、前沢、金ヶ崎、岩谷堂、一関第一、一関第二、大東、千厩、大船渡、大船渡工業、高田、釜石南、釜石商業、遠野、遠野緑峰、住田、大槌、山田、宮古、宮古工業、宮古商業、岩泉、久慈、久慈東、種市、大野、軽米、伊保内、福岡、福岡工業、一戸、盲学校

(2) 高校生世界のかけ橋推進事業

内容

課題（テーマ）別の短期海外研修が中心である。

なお、受入事業として、米国カンザス州及びノースカロライナ州から高校生を受け入れている。

短期派遣事業の特徴

学校教育における今日的テーマを取り入れた研修としている。

ア 平成17年度短期派遣事業

- 文学・民俗学コース（アイルランド）

17年10月8日～10月21日

- 芸術コース（フランス、オーストリア）

17年10月8日～10月21日

- ビジネス・サイエンスコース（アメリカ・ノースカロライナ州）

17年10月8日～10月22日

- 言語・コミュニケーションコース（アメリカ・カンザス州）

17年10月8日～10月22日

イ 派遣生徒

県内公立私立高校生（学年は問わない）

ウ 派遣人数

全コースで80名（引率各コース2名）

エ 派遣期間

約2週間

オ 内容

テーマ関連施設見学・講義、ホームステイ、教育文化施設見学、体験通学、高校生間の交流、テーマごとの研修

カ 自己負担額

約10万円

3 職業教育の充実

(1) 職業教育の現状

高等学校における職業教育は、専門高校を中心に行われている。平成17年5月現在、本県専門高校の生徒数は約1万3千人であり、高等学校の生徒数全体の30.2%を占めている。

専門高校は有為な職業人を多数育成するとともに、望ましい勤労観・職業観の育成や豊かな感性や創造性を養う総合的な人間育成の場としても大きな役割を果たしている。

しかし、近年、社会や産業構造等が大きく変化するとともに、入学してくる生徒の多様化も進んでおり、専門高校

の教育内容や指導方法等の一層の改善・充実が求められている。

平成10年7月の理科教育及び産業教育審議会答申においては、今後の専門高校における教育の改善・充実の方向として、専門性の基礎・基本の重視、社会の変化や産業の動向等に適切に対応した教育の展開、地域や産業界とのパートナーシップの確立等が示されている。

(2) 職業教育の活性化に向けて

新しい教育課程の実施

平成15年4月から学年進行で実施されている新しい高等学校学習指導要領では、職業に関する各教科について、専門性の基礎・基本を重視するため、科目数を全体として約2割削減し、各教科・科目の内容を厳選するとともに、内容の取扱いについて明確化がなされた。

生徒の選択幅の拡大を図るため、専門教科の必修単位数を30単位以上から25単位以上に削減するとともに、原則履修科目を各教科の基礎的な科目と「課題研究」の2科目とした。

また、各学校の創意工夫を生かした教育の展開を図るため、標準的な学科に関する基準を削除した。

さらに、社会の変化や産業の動向等への対応を図るため、特にバイオテクノロジーや製造技術のシステム化などの進展、ビジネスの国際化、情報化等の産業の動向に適切に対応するよう、農業・工業・商業等の既存の専門教科の改訂を行った。

また、高度情報通信社会の中で、システムの設計・管理やマルチメディアの作品制作等に関する基礎的な知識と技術を身に付けた人材を育成するため、専門教科「情報」を創設するとともに、高齢化の進展の中で、高齢者や障害者への介護サービスに対応できる知識と技術を身に付けた人材を育成するため、専門教科「福祉」を創設した。

本県では、新教科「情報」、「福祉」を担当する教員を養成し、現職教員等に免許を付与するために現職教員等講習会を平成12年度から3年間、開催した。

地域や産業界とのパートナーシップの推進

平成10年7月の理科教育及び産業教育審議会答申においては、専門高校と地域や産業界とのパートナーシップの重要性が提言されている。このため、本県では、高校生のインターンシップの促進や学校開放などの取組みを推進している。

また、広く国民に産業教育への理解を深めてもらうために、専門高校生の生徒の研究発表や作品展示等を行う「岩手県産業教育フェア」を毎年開催しており、平成14年度には全国産業教育フェア岩手大会を開催した。

4 高等学校教育の改革の推進

(1) 県立高等学校新整備計画

ア 概要

国際化、情報化、少子高齢化等著しい社会の変化に主体的に対応できる人材の育成が求められていることから、県立高等学校長期構想検討委員会（船越昭治委員長）の報告をもとに、生徒が活力ある環境の中で、一人一人の個性・能力を最大限に伸ばせるような学習環境を構築する観点から、平成12年度以降10年間を見通した学校・学科の適正な配置等について慎重に検討を進め、平成12年1月に「県立高等学校新整備計画」として、平成12年度から16年度（前期）の学校別の計画並びに平成17年度から21年度（後期）の計画の大まかな見通しを示した。

平成17年度から21年度の後期計画の策定では、16年1月に「県立高等学校新整備計画後期マスタープラン」として基本的な方針を示した後、8月に「県立高等学校新整備計画（後期計画）案」、17年1月に調整案、6月に再調整案を公表し、各段階において、パブリックコメントを実施したほか、各地で意見を聴く会や出前説明会などを重ね、7月に「県立高等学校新整備計画（後期計画）」を策定・公表した。

後期計画では、学科改編を含む学級数の取扱い、中学校卒業予定者数の状況、高校進学希望者の志望動向、各高校の定員充足状況等を勘案して毎年度調整するものとし、小規模校等の統合は、一定の基準を設けて実施することとした。

17年度においては、一戸高等学校を総合学科高校に改編し、新たな校史を刻み始めている。

イ 全体計画（後期計画による変更後）

年度	中 学 校	県 立 高 等 学 校			
	卒業予定者数	設置学級数	学 科 種 別	学 級 数	学 校 数
11	18,440	368	普 通 科	229	83 統合により ↓ 77 ↓ 統合により 61～68
			専 門 学 科	134	
			総 合 学 科	5	
17	14,857	301	普 通 科	177	
			専 門 学 科	91	
			総 合 学 科	33	
21	13,797	266	普 通 科	159	
			専 門 学 科	75	
			総 合 学 科	32	

（注） H12.1.24公表、H17.7.19変更

ウ 後期計画の総括表（H17.7.19公表）

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
総合的な 専門高校				高田（商業科） 広田水産（家政科） 大船渡農 大船渡工 } 統合	釜石工 } 統合 釜石商 }
普通科と 専門学科 併設高校		大東 } 統合 大原商 }	藤沢 } 統合 千厩 }	高田（普通科） 広田水産（水産科） 住田（ ） } 統合	
総合学科高校	一戸（改編）				岩谷堂 } 統合 岩谷堂農林 }
普通高校				釜石南 } 統合 釜石北 } 花巻北 } 統合 東 和 } 水沢 } 統合 胆沢 } 遠野 } 統合 情報ビ } 宮古 } 統合 川井 } 岩泉 } 統合 田野畑 } 久慈 } 統合 山形 }	伊保内 } 統合 福岡 } 浄法寺 }
定時制 （多部制・単位制）				久慈ブロック	
中高一貫教育校 コミュニティ・ス クール	胆江ブロックにおいてもできるだけ後期計画中に整備に努める 新しいタイプの学校である、中等教育学校・併設型中高一貫教育校やコミュニティ・ スクールについては、継続して検討する。				

住田高校については、県の中高一貫教育に関する検討委員会の検討結果等を踏まえ、別途検討する。

【学級数の取扱いについて】

学級数（学科改編を含む。）の取扱いは、中学校卒業予定者数、高校進学希望者の志望動向、各高校の定員充足状況等を勘案しながら毎年度調整する。

【1学年2学級校の取扱い】

- (1) 1学年2学級の募集定員に対し、1学級定員の半数を超える欠員が2年続いた場合には、原則として翌年度に学級減を行う。なお、通学困難な地域は、高校教育を受ける機会を確保するという観点から学級減を行わないことも検討する。
- (2) 募集定員に対して1学級相当程度の欠員が生じている場合には、原則として翌年度に学級減を行う。ただし、中学校卒業予定者数に回復の見通しがあれば、学級減を行わないことも検討する。
- (3) 各学年とも2学級を維持できない場合には統合を基本とするが、広大な県土を有する本県の通学事情等に鑑み、地域の実情に応じて分校（1学級規模）の設置も検討する。

【分校の取扱い】

入学者が募集定員の半数を下回る状況又は当該分校に進学した者のうち分校所在地の中学校からの進学者の割合が半数以下となる状況が、2年続いた場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合する。

(2) 中高一貫教育の導入について

中高一貫教育の在り方については、文部省からの研究の委嘱を受け、平成10年9月に「岩手県中高一貫教育研究会」（船越昭治委員長）を設置して検討を重ねるとともに、実践研究を行う研究推進校（高校2校、中学校6校）を指定し、「岩手県中高一貫教育実践研究委員会」においても検討を進め、平成12年3月に中高一貫教育研究会より報告書が提出された。

この報告を受け、軽米・葛巻地域は、連携型中高一貫教育の研究を行い、平成13年度には軽米地域が、平成14年度には葛巻地域が連携型中高一貫教育を導入した。

平成15年7月に「岩手県中高一貫教育検討委員会」を設置し、中等教育学校及び併設型中高一貫教育校の導入や連携型中高一貫教育校の推進について検討を進めた。平成17年9月には、この検討委員会を継承・発展した「岩手県新しいタイプの学校に関する検討委員会」を設置し、中高一貫教育を中心としたコミュニティ・スクールを含めた新しいタイプの学校の在り方について検討を行い、平成18年3月に報告書が提出され、新たな中高一貫教育の導入を検討している。

(3) 公立高等学校入学者選抜について

県教育委員会は、平成13年8月29日に「岩手県立高等学校入学者選抜方策検討委員会」（委員長：沼田俊昭県立大学教授）から「報告」が提出されたことを受け、平成13年11月12日の教育委員会議において県立高等学校入学者選抜の方針を次のように決定した。

入試事務日程を現行より全体的に1週間程度早める。

推薦入試を廃止し志願者全員に5教科の学力検査を実施し、英語にあっては「話すこと」の領域についても検査する。

志願者が記入する「自己アピールカード」と調査書の内容を踏まえた面接を実施する。

校長の裁量により小論文・作文、適正検査を実施する。

学力検査と面接等は連続する2日間で実施する。

校長の定める異なる評価尺度（A、B、C選考）による合否判定をする。

県教育委員会は、この方針をもとに、受験生の意欲や個性をより適切に評価できるよう、平成16年度入学者選抜から選抜方法や通学区域等を改善した。

選抜方法の変更

校長の定める異なる評価尺度（A、B、C選考）による合否判定をする。

通学区域（学区）の変更

普通科の通学区域（学区）について、平成6年度から県内19学区としてきたが、地域の意見を勘案して、8学区に改めた。

学区外許容率の変更

学区（通学区域）の拡大に伴って、学区外許容率を15%から10%に引き下げた。

今回の変更は、昭和53年に20%から15%に引き下げて以来の変更となる。

再募集の要件の変更

平成15年度まで「再募集人員が定員の30%より少ない場合は、再募集を行わないことができる」とした、ただし書きを平成16年度入学者選抜から撤廃した。

第4節 地域の特性を生かした魅力ある学校づくり

1 家庭、地域社会との連携と開かれた学校づくり

学校・家庭・地域社会が一体となって子供たちの生きる力を育むため、学校では、家庭や地域とともに子供たちを育てていくという視点に立って、家庭や地域に対して積極的に働きかけを行うとともに、学校運営についても、家庭や地域の意見等を把握しながら絶えず見直し、改善の努力をしていく「開かれた学校づくり」を推進した。

(1) 「開かれた学校づくり」の推進

学校評議員の設置

児童・生徒や保護者、地域住民の学校教育に対する意向を把握するとともに、学校運営などについて説明責任を果たすため、学校評議員の設置を推進した。ほとんどの県立学校では設置されたものの、小中学校における設置状況は5割前後である。

学校評価の実施

学校運営の改善や活性化を進め、教育活動に係る家庭や地域等への説明責任を果たすため、学校自己評価及び評価結果の公表を推進するとともに、外部評価について推奨している。小中高とも9割以上の学校が自己評価を行ったが、小中学校における外部評価の状況は6割前後である。

個性輝く学校づくりに係る委員会の設置

個性輝く学校づくり事業を円滑に展開するため、全ての県立高等学校と、高等部のある盲・聾・養護学校のうち実施を希望する4校において、生徒、教職員、保護者、学校評議員などによる委員会を設置している。

「学校へ行こう週間」の設定

地域住民にありのままの学校の教育活動を見てもらうため、全ての県立学校において、1週間程度「学校へ行こう週間」を設定した。小中学校では7割以上の学校が学校公開を行ったが、連続した複数日に公開している学校は小学校で約1割、中学校で約2割となっている。

ホームページの開設

学校からの情報発信力を強化するため、全ての県立学校においてホームページを開設しているが、小中学校における開設状況は4割程度にとどまっている。

開かれた学校づくり進捗状況

学 校 評 議 員	【目標】 児童・生徒や保護者、地域住民の意向を把握するとともに、学校運営などの説明責任を果たすため、すべての県立学校において、平成16年4月1日までに学校評議員を設置する。 なお、小中学校に対しては、各学校の実情に応じた積極的な取組について指導する。								
	【進捗状況】								
	公立小学校	公立中学校	県立学校	公立小学校		公立中学校		公立高等学校	
				岩手県	全国平均	岩手県	全国平均	岩手県	全国平均
	239(54.1%)	112(56.0%)	87(97.8%)	217(48.0%)	83.7%	103(51.5%)	84.5%	79(100%)	91.0%
	県調査（H17.5.1現在） 単位：設置校数（設置率）			文部科学省調査（H17.8.1現在） 単位：設置校数（設置率） 全国平均は設置率のみ					
学校評価 （自己評価）	【今後の取組】 学校評議員の積極的な活用を図るため、各校に学校評議員の活用状況等に係る情報を提供する。								
	【目標】 児童・生徒や保護者、地域住民の意向を把握するとともに、学校運営などの説明責任を果たすため、すべての県立学校において、平成16年度までに、全教職員による自己評価を行い、その結果を公表する。 なお、小中学校に対しては、速やかな実施について指導する。								
	【進捗状況】								
	公立小学校	公立中学校	県立学校	公立小学校		公立中学校		公立高等学校	
				岩手県	全国平均	岩手県	全国平均	岩手県	全国平均
	436(98.6%)	196(98.0%)	89(100%)	458(99.8%)	99.2%	202(98.0%)	98.0%	80(98.8%)	95.9%
県調査（H17.5.1現在） 単位：実施校数（実施率）			文部科学省調査（H16年度間） 単位：実施校数（実施率） 全国平均は実施率のみ						

学校 評価 (外部 評価)	公立小学校	公立中学校	県立学校	公立小学校		公立中学校		公立高等学校																					
				岩手県	全国平均	岩手県	全国平均	岩手県	全国平均																				
	333(75.3%)	149(74.5%)	89 (100%)	280 (61.1%)	84.7%	119(58.0%)	82.8%	63(77.8%)	76.7%																				
県調査(H17.5.1現在) 単位：実施校数（実施率）			文部科学省調査（H16年度） 単位：実施校数（実施率） 全国平均は実施率のみ。また、実施率の分母は自己評価実施校数。																										
【今後の取組】 すべての県立学校において、学校評価及び結果の公表が行われ、それが学校運営の改善につながるよう、各県立学校への指導を行う。 学校評価の先進事例等について各学校に配布するとともに、学校評価支援システムのモデル運用を行う。また、小中学校版「学校評価の手引き」の作成に取り組む。																													
学 校 へ 行こう週間 (学校公開)	【目標】 すべての県立学校において、平成15年度までに「学校へ行こう週間」を設定する。 なお、小中学校に対しては、各学校の実情に応じた積極的な取組について指導する。																												
<table><tr><th colspan="2">公立小学校</th><th colspan="2">公立中学校</th><th rowspan="2">県立学校</th><th rowspan="3"></th></tr><tr><th></th><th>連続複数日</th><th></th><th>連続複数日</th></tr><tr><td>322 (72.9%)</td><td>41 (9.3%)</td><td>130(65.0%)</td><td>36 (18.0%)</td><td>89 (100%)</td></tr><tr><td colspan="5">県調査（H17.5.1現在） 単位：実施校数（実施率）</td></tr></table>										公立小学校		公立中学校		県立学校			連続複数日		連続複数日	322 (72.9%)	41 (9.3%)	130(65.0%)	36 (18.0%)	89 (100%)	県調査（H17.5.1現在） 単位：実施校数（実施率）				
公立小学校		公立中学校		県立学校																									
	連続複数日		連続複数日																										
322 (72.9%)	41 (9.3%)	130(65.0%)	36 (18.0%)	89 (100%)																									
県調査（H17.5.1現在） 単位：実施校数（実施率）																													
【今後の取組】 「学校へ行こう週間」を保護者や地域住民が参加しやすいものとするため、県内の実施状況や活用事例について情報提供を行う。																													
ホ ー ム ペ ー ジ	【目標】 すべての県立学校でのホームページの開設及び完全リンクに取り組む。																												
<table><tr><th>公立小学校</th><th>公立中学校</th><th>県立学校</th><th rowspan="3"></th></tr><tr><td>172 (38.9%)</td><td>89(44.5%)</td><td>89 (100%)</td></tr><tr><td colspan="3">県調査（H17.5.1現在） 単位：開設校数（開設率）</td></tr></table>										公立小学校	公立中学校	県立学校		172 (38.9%)	89(44.5%)	89 (100%)	県調査（H17.5.1現在） 単位：開設校数（開設率）												
公立小学校	公立中学校	県立学校																											
172 (38.9%)	89(44.5%)	89 (100%)																											
県調査（H17.5.1現在） 単位：開設校数（開設率）																													
【今後の取組】 ホームページの充実を図るため、ホームページ運用に際しての掲載すべき内容を指導するとともに、先進事例を紹介する。																													

(2) 地域との交流の促進

地域におけるボランティア活動、伝統芸能等の継承、行事や祭事への積極的な参加、各社会福祉施設との連携等、地域に開かれた学校づくりを実践的に推進した。

また、各学校が道徳授業地区公開講座を開催し、地域と学校が一体となった道徳教育の推進に努めた。

(3) 地域の人材の活用

地域の伝統文化・芸能の継承活動等において、保護者や地域の方々を指導者として招き、児童生徒が地域を理解する学習の推進を図った。

また、日常の各教科や総合的な学習の時間等においても、保護者や地域の専門的な知識・技能を有する方々をゲストティーチャーとして積極的に活用するなど、地域の人材の活用を積極的に推進した。

(4) 学校の開放

地域住民の交流や学習の拠点としての役割を担う観点から、学校の体育施設等や学校図書館、空き教室等の積極的な開放を行った。

2 特色ある学校づくり

各学校は、教育改革の動向を踏まえ、創意工夫を凝らした特色ある教育を通じて魅力ある学校づくりを進め、生徒一人一人が在り方生き方を自覚し、将来の目標の設定や自己実現を図ることができるような、特色ある学校づくりを進める必要がある。

このため、学校における活動を支援する観点から、平成16年度までの「個性輝く学校づくり推進事業」に代わり、各学校の裁量を大きくし、地域の特性を活かした特色ある学校づくりを実現するために、「夢と活力あふれる学校づくり支援事業」を17年度から実施している。

3 小規模校の振興

本県のへき地指定校は、平成17年5月1日現在小学校148校、中学校50校となっている。
 へき地指定校の全学校数に占める割合は、小学校33.3%、中学校24.9%で、小中学校全体では30.7%となっている。
 また、複式学級を有する学校は、小学校155校（34.8%）、中学校11校（5.5%）である。

(1) 複式指導資料の作成

へき地・小規模複式指導ハンドブックを作成し、複式学級における学習指導の充実を図った。

(2) 複式指導等改善巡回講座の実施

複式学級の特性をいかした学習指導の充実を図るため、県下7地区において複式学級の実態に即した研修を実施し、指導力の向上を図った。

教 育 事 務 所	学 校 名	期 日	研 修 内 容
盛 岡	西根町立渋川小学校	6月10日（金）	授業、講話、協議
	岩手町立浮島小学校	6月21日（火）	授業、講話、協議
水 沢	江刺市立木細工小学校	6月24日（金）	授業、協議、講義・演習
千 厩	大東町立丑石小学校	6月22日（水）	授業、講義、協議
大船渡	陸前高田市立下矢作小学校	6月7日（火）	授業、講義、協議
釜 石	大槌町立小槌小学校	4月28日（木）	授業、講義、協議
宮 古	岩泉町立大川小学校	6月7日（火）	授業、協議、講義・演習
	川井村立小国小学校	6月24日（金）	授業、協議、講義・演習
久 慈	久慈市立枝成沢小学校	6月1日（水）	授業、協議、講義・演習

(3) へき地教育センターを中心とした事業の推進

県内17地区へき地教育センターを中心とした、研修事業の推進、学校訪問指導等を実施し学習指導の充実を図った。

第5節 社会参加・自立を支援する特別支援教育の推進

1 岩手県特別支援教育推進プランに基づく施策の推進

児童生徒等一人一人のニーズに応じた教育の充実という基本方針の下、平成15年12月、県教育振興基本計画の前期実施計画期間内（平成17年度まで）に重点的に取り組む施策を内容とした「岩手県特別支援教育推進プラン」を策定し、特別支援教育の一層の充実に力を注いでいる。

2 教育諸条件の整備充実

(1) 盲学校、聾学校、養護学校の教育諸条件の改善

平成16年から、教育委員会内に「盲・聾・養護学校の再編整備に関する検討委員会」を設置し、本県における今後の盲・聾・養護学校の在り方と各地域への配置等について、全県的な視野から検討を進めた。

(2) 高等部教育の拡充

平成17年度から、一関養護学校及び釜石養護学校に高等部を設置した。

(3) 校内医療的ケアの充実

養護学校7校（盛岡養護学校、松園養護学校、花巻養護学校、前沢養護学校、一関養護学校、釜石養護学校、宮古養護学校）に看護師を配置するとともに、校内における医療的ケアの実施体制を整備した。

(4) 昭和54年以前に就学猶予・免除を受けた方への教育の場の用意

平成17年3月、釜石養護学校及び一関養護学校の2校において、小学部6年に各3名の方を編入するとともに、同年11月に両校中学部に各1名の方の編入を行った。

これにより、平成17年度までの編入総数は、17名となった。

3 教育内容・方法の充実

(1) 交流教育の充実

「盲・聾・養護学校における特別支援教育センター機能充実事業」を実施し、小・中・高等学校と盲・聾・養護学校との交流や居住地交流を促進した。

また、国立特殊教育総合研究所の「交流及び共同学習推進指導者講習会」に小・中学校の教員を派遣し、小・中学校における交流教育を促進するとともに、障害のある児童生徒と地域の方々との交流を進めるため、地域の市町村教育委員会や学校などに積極的に働きかけを行った。

(2) 職業教育や進路指導の充実

各地方振興局に配置されているエリアジョブコーディネーターと連携を図りながら、生徒の実習先及び就職先の開拓を行ったほか、事業所向けの啓発リーフレットを作成するなど、進路指導の充実を図った。

(3) 学校評価の充実

17ある盲・聾・養護学校の全校において、自己評価を実施し、その結果を公表した。

4 教員の専門性の向上と研修の充実

(1) 盲学校、聾学校、養護学校教員の特殊教育教諭免許状保有率の向上

特殊教育教諭免許状取得のための単位認定講習会を継続的に開催したほか、放送大学等による単位認定講習会についても活用を促した。

(2) 地域の特別支援教育センター機能を担う盲学校、聾学校、養護学校教員の研修の充実

センター機能の中心的な役割を果たす特別支援教育コーディネーターの資質向上を目指して、特別支援教育教育課程研究協議会やLD、ADHD等指導法改善研修講座において、盲・聾・養護学校コーディネーターを対象とした部会を設置し、事例発表等の研修の機会を設定した。

(3) 小・中・高等学校の管理職研修の充実

小中学校の校長については、教育事務所で実施する校長研修、高等学校の校長は、教育委員会が行う新任校長研修、小中学校、高等学校の教頭については、新任教頭研修において、特別支援教育に関する講義を行った。

5 学習障害児、注意欠陥多動性障害（ADHD）児、高機能自閉症児に対する積極的な支援

(1) 学習障害児、注意欠陥多動性障害（ADHD）児、高機能自閉症児に関する理解啓発活動の充実

県立総合教育センターで実施する小・中・高等学校及び盲・聾・養護学校教員の基本研修（初任者、5年、10年、15年の教職経験者）で、学習障害児等に関する講義を行った。

また、モデル地区を指定し、小・中学校教員を対象とした特別支援教育に関する研修会の実施や、保護者を対象とした学習障害児等に関する理解及び啓発のためのパンフレットの作成、配布を行った。

更に、保護者や教員、一般県民を対象とした講演会やシンポジウムを開催した。

(2) 学習障害児、注意欠陥多動性障害（ADHD）児、高機能自閉症児に関する指導の充実

小・中学校における学習障害児等の実態把握や校内での支援体制の検討等を行うことを目的とした特別支援教育校内委員会の設置や、特別支援教育コーディネーターの配置を促進した。

また、学習障害児等が在籍する学校をより専門的にサポートすることを目的とした、学識経験者や指導主事等による専門家チームや巡回指導チームを設置するよう市町村教育委員会に働きかけを行った。

更に、優れた指導事例を「事例集」として配付し、普及を行った。

6 地域の特別支援教育センター機能としての盲学校、聾学校、養護学校の充実

(1) 地域における相談支援・研修支援センターとしての機能の充実

17ある盲・聾・養護学校全校を「特別支援教育相談・支援センター校」に指定し、相談・支援に関する担当分掌と担当者を明確に位置付けるとともに、相談窓口を開設した。

また、以下の取組を行った。

- 障害のある子どもをもつ保護者や小・中学校の教員、乳幼児期からの療育を担当する者等が教育相談を受けられるようにした。
- 小・中学校の教育等に特別支援教育に関する研修の機会を提供するほか、障害のある児童生徒等が在籍する幼稚園・保育所や小・中学校を対象とした巡回教育相談、教材・教具等の貸出し、指導内容・方法に関する助言など専門的な支援を行った。これらの取組を円滑に行うため県教育委員会は、17校中12校に、相談と支援を専門で担当する又は担当者の授業補充に当たる非常勤職員を配置した。

(2) 交流教育センターとしての機能の充実

17ある盲・聾・養護学校のうち11校（盲学校、盛岡聾学校、一関聾学校、松園養護学校、みたけ養護学校、みたけ養護学校奥中山校、花巻養護学校、前沢養護学校、気仙養護学校、宮古養護学校、久慈養護学校）を「交流教育の拠点校」に指定するとともに、交流活動の準備や交流活動実施のための経費について支援した。

7 各分野の機関が連携し一体となった相談・支援体制の充実

- (1) 障害児（者）の乳幼児期から学校卒業後までのニーズに対応した「個別の支援計画」に関する研究を行うとともに、教育、保健福祉、労働等の関係機関が連携し、一体となった相談・支援を推進するため、「個別の支援計画」作成研究等関係部局連携推進会議を設置し、「個別的教育支援計画の策定に向けて－ひな形と策定のヒント」を発刊した。

- (2) 17ある盲・聾・養護学校全校で（ ）特別支援教育コーディネーターを指名した。

（ ）特別支援教育コーディネーターとは、特別な教育ニーズを有する子どもやその保護者に対して適切な支援を行うため、学内又は福祉・医療等関係機関との連絡調整役、あるいは、保護者に対する学校の相談窓口の役割を担う教員をいし、校務として校内の教員を指名する。

(3) 6教育事務所（盛岡、花巻、水沢、千厩、宮古、二戸）管内で巡回教育相談を開催し、福祉関係者も相談に対応した。

第6節 優れた教員の確保と資質の向上

1 教員の適正配置

(1) 教員採用試験の改善等

教員としての資質・能力のみならず、多角的な視点から判断できるような面接試験、論文試験を行っている。
また、実践的、専門的な技術、技芸等を教えることのできる人材を確保するためのスポーツ・芸術・社会人特別選考を実施し、学校活性化のための人材の確保に努めている。
今後も優れた教員の確保を目指し、研究を続け、より良いものにしていきたい。

(2) 人事管理の改善

義務教育諸学校においては平成5年度からの第6次配置改善計画、高等学校においては第5次配置改善計画により、ティームティーチングや多様な教科・科目の開設など指導方法の改善に伴う加配措置がなされ、成果を上げてきた。第7次配置改善計画においては、きめ細やかな指導と基礎学力の向上を図るため、少人数指導を可能にする加配措置がなされている。
また、学級編制等については、国の動向や学校裁量の拡大等を十分に見極めながら、多様で弾力的な学習集団の編成をし、より効果的な学級編制について研究を続けていきたい。

(3) 司書教諭の養成

平成15年4月1日より12学級以上の学校には、司書教諭を配置することになったことから、計画的に司書教諭の養成に努めてきた。

＊ 平成17年度図書館司書教諭有資格者数

小学校	428名
中学校	140名
高等学校	158名
盲・聾・養護学校	73名

(4) 教職員の養成・免許・検定

教育職員で、その有する担当の免許状が二種免許状であるものは、相当の一種免許状の授与を受けるよう努めなければならないとされていることから県としても認定講習を開催するなどその条件整備に努めているところである。

(ア) 免許法認定講習

会 場	盛岡市内3会場
期 日	7月29日～8月16日
受講者	665名
単位授与者	665名
開設講座	12講座

(イ) 教育職員の免許状授与状況について

免許状の種類	件 数		免許状の種類	件 数	
	17年度	16年度		17年度	16年度
小学校教諭普通免許状	400	414	小学校助教諭臨時免許状	14	8
中学校 "	357	374	中学校 "	2	7
高等学校 "	533	508	高等学校 "	47	48
養護 "	27	39	養護学校 "	1	0
盲学校 "	7	8	盲学校 "	0	1
聾学校 "	8	5	養護 "	2	0
養護学校 "	80	81	盲学校特殊教科 "	0	1
特殊の教科 "	0	3	幼稚園 "	0	2
幼稚園教諭普通免許状	532	539	計	66	67
栄養教諭普通免許状	20	0	特別免許状	4	0
計	1,964	1,971	再交付	58	74
			書換え	164	246
			計	222	320
			合計	2,256	2,358
			免許状授与証明書	423	542

2 教員研修の充実

平成9年度に策定した、新教員研修体系により研修を実施してきた。

特に、ゆとりと充実の実現、新学習指導要領の趣旨や内容の徹底を図るとともに、児童生徒の学力向上・健全育成を中心課題として、教員の指導力の向上を目指し、研修を実施してきた。

(1) 平成17年度研修実績

(教職員課)

講座名	コース名	受講対象	講座内容	回数	受講日数	受講者数
校長研修講座	小中学校長	小中学校長	学校管理運営上の諸問題、指導行政上の諸問題研究協議、講話、演習	1	2 (6会場)	230
新任校長研修講座	小中学校 新任校長	小中学校 新任校長	指導行政の課題と学校経営、管理職としての心がまえ、新任校長に望む、学校組織マネジメント、教職員のメンタルヘルス、発表と研究協議、	1	2	93
新任教頭研修講座	小中学校 新任教頭	小中学校 新任教頭	学校の活性化と教頭の役割、新任教頭に望む、教職員の服務、指導行政の重点、教育委員会制度、学校経営と健康安全、特別支援教育、生涯学習と学校教育、教職員のメンタルヘルス、学校組織マネジメント、発表と研究協議、演習	1	4	87

初任者研修(小・中学校)

(学校教育室)

講座名	コース名	受講対象	講座内容	受講日数等	受講者数
初任者研修講座	総合教育センター研修	新採用教員	学習指導要領、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の意義と進め方、学校経営品質向上運動等	14	107
	教育事務所研修	新採用教員	身分と服務、教育課程の編成、授業実習と授業研究、課題研修の進め方、社会奉仕体験の心構え等	7	107
	市町村教育委員会研修	新採用教員	各市町村の教育課題、教科・領域授業研究、各実践課題への取組等	4	107
	校内研修	新採用教員	各種教育指導、学級経営、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導、生徒指導の実践等	300時間程度	107

初任者研修(高等学校・盲学校・聾学校・養護学校)

(学校教育室)

講座名	コース名	受講対象	講座内容	受講日数	受講者数
初任者研修	本庁研修	新採用職員	任用・服務、勤務、学習指導、生徒指導、教育相談、ボランティア活動等	25	60 (うち特殊は18)
初任者研修	所属校研修	新採用職員	学校の沿革、授業の倫理と実践、生徒指導、校務分掌の進め方等	60	60
新任教務主任研修	新任教務主任研修	新任教務主任	教務主任の役割、教育活動と教育法規、教育課程の編成、高校教育の現状と課題、文書事務等	5	31 (うち特殊は3)

(2) 平成17年度研修事業受講者一覧(教育センター実施分)

機関別研修講座数、受講者数

講座・所属	幼・保育所	小学校	中学校	高等学校	盲・聾・養護学校	計
研修講座数	13	66	65	48	47	130(延べ239)
受講者数	79	1,672	1,048	1,017	432	4,248

種別ごとの回数・人員

研修 修 名	講 座 名		研 修 者 数										計
			単 独					合 併					
			幼保	小	中	高	特	幼保	小	中	高	特	
基本 研 修	初 任 者 研 修			220	188	382	114						904
	教職経験5年研修			37	23	53	16						129
	教職経験10年研修			162	112	147	50						471
	教職経験15年研修			235	128	127	27						517
	小 計		0	654	451	709	207	0	0	0	0	0	2,021
特別 研 修	新任研修	新任者	66						183	94	30	3	785
		免外等			85	14			98	110	48	54	
	養成研修	教 科		13	17				16	8	8		525
		領 域							191	123	116	33	
	地域・ 専門研修	教 科				31					8	1	55
		領 域					15						
派 遣 研 修									23	10	3	2	38
小 計			66	13	102	45	15	0	511	345	213	93	1,403
希望 研 修	公開研修	教 科		204	54				6	4	12	4	824
		領 域		44				13	240	92	38	113	
	養成研修												0
	活用研修												0
	小 計			0	248	54	0	0	13	246	96	50	117
総 計			66	915	607	754	222	13	757	441	263	210	4,248

注(特=盲・聾・養)

3 教育研究等の充実

県立総合教育センターを中心に、本県教育における重要性・緊急性が高い諸課題について調査・研究を行った。

(1) 高等学校の学習指導の改善に関する研究

この研究は、指導に生かす評価を工夫し、学習指導の過程における評価を意図的に進めることにより、高等学校の学習指導の在り方を明らかにし、指導の改善に役立てようとするものである。

国語、数学、地歴・公民、外国語において、意図的な計画を位置付けた指導が、学習意欲を喚起し学力向上につながることを確認でき、年間指導計画及び評価シートを活用した指導と評価の計画の妥当性について明らかにすることができた。

(2) 少人数指導と少人数学級の指導の効果に関する研究

この研究は、少人数指導と少人数学級における学習指導のよさを検討し、効果的な取り入れ方を提案することにより、学習指導の改善に役立てようとするものである。

少人数学級については調査結果の分析・考察から、少人数指導については小学校国語科、算数/数学科、英語科の試案を作成し、それを基にした実践授業を行い、その結果の分析・考察から、少人数学級の指導の効果や少人数指導の試案の有効性が明らかになった。

(3) 知的好奇心を育成する理科の学習展開に関する研究

この研究は、児童生徒にとって身近で発展性のある学習教材の開発を行い、その活用を通して、知的好奇心を育成する理科の学習展開のあり方を明らかにし、学習指導の改善によって理科の学力向上に寄与しようとするものである。

高等学校物理・化学・生物・中学校理科において研究・実践し、身近で発展性のある教材を開発することができた。さらに、開発教材を活用した知的好奇心を育成する理科の学習展開の基本的な考え方を示すことができた。

(4) 衣川地域における地学的自然の教材化に関する研究

衣川地域を対象として地質調査を実施し、地学的自然の教材化を図った。観察露頭を選定し、野外観察の手引き、露頭写真、スケッチと地質解説、生徒用ワークシート、教師用ワークシートの5つからなる教師用露頭指導セットを作製した。地域の中学生を対象に地層の広がりを理解させるため野外観察授業実践を実施した。砕屑岩脈の延びを想像できた生徒は少なかったが、地層の境界に着目し

てスケッチできた生徒は8割であった。

(5) 小学校理科における基礎・基本の定着を図る学習指導に関する研究

基本は基礎の上に成り立つものと考え、小学校理科における基礎・基本を定義し、基礎・基本を明確化した。

「物の燃えかた」の実践において、基礎・基本を結びつける指導過程にキーワードを活用して見通しをもつ場面と工夫した教材を位置付けた指導は、基礎・基本の定着に有効であることが明らかになった。教材については、使い捨てカイロを利用した簡易酸素測定器、活性炭を利用した簡易二酸化炭素測定器を製作し、その有用性が確かめられた。

(6) 技術・家庭科における基礎的な知識と技術を習得させる学習指導に関する研究

昨年度は、食生活の学習における基礎的な知識と技術とは、栄養・食品・調理に関する認識や動作ととらえ、小学校家庭科との系統性をふまえた上で明らかにした。

今年度は、基礎的な知識と技術の確認を一調理実習題材ごとに計画、実習、まとめの段階で繰り返すことにより習得を図るよう食生活の学習手引書を作成し、活用して授業実践を行った。その結果、基礎的な知識と技術の習得状況の高まりが見られ、学習手引書の有効性が確かめられた。

(7) 地域社会との連携による学校経営の進め方に関する研究

この研究の目的は、「開かれた学校づくり」を構想していく際に手助けとなる、地域社会との連携による学校経営の進め方を明らかにすることである。

そこで、地域社会との連携に関する実態把握及び推進構想の検討等から「地域の学校経営参画を取り入れた推進プログラム案」を作成した。「同プログラム案」に基づく実践の分析・考察をとおして、研究の有効性を確認するとともに、改善・修正を加えた「地域の学校経営参画を取り入れた推進プログラム」を作成することができた。

(8) 小規模校における主体的に学ぶ力を育成する学習指導に関する研究

この研究は、小規模校の児童が主体的に生き生きと学ぶ力を育成することを目指したものである。

そこで、三つの自己決定場面を取り入れた指導過程を確立し、学びの場を学級・学校外へと広げた合同学習と集合学習の学習活動モデルプランを作成した。授業実践結果の分析・考察から、このモデルプランを活用した授業を行うことは、小規模校における主体的に学ぶ力を育成する上で有効であり、小規模校の指導充実に役立つものであることが明らかになった。

(9) 中学校における積極的な生徒指導の在り方に関する研究

この研究は、授業に生徒指導の機能を生かすにはどうあればよいか、具体的な手だてや注意すべき点などをまとめ、「手引き」として作成・提示し、積極的な生徒指導の充実に役立てようとするものである。

研究の結果、作成した「手引き」は、日常の教育活動の中心である授業において、生徒指導の機能を生かした指導をする上で有効あり、中学校における積極的な生徒指導の充実に役に立つものであることが認められた。

(10) 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究

この研究は、小・中学校における総合的な学習の時間を推進するに際して、学校の教育活動全体における位置付けを確かめ、全体計画作成のための要件を明らかにした「手引き」の作成を行い、確かな全体計画の構築に役立てようとするものである。

作成した「手引き」は、実践による考察を加えることにより具体化し、先進的な実践例を併せて収録しており、全体計画の構築、ひいては総合的な学習の時間の推進に役立つものであるという見通しをもつことができた。

(11) 学校不適応児童生徒に対する指導・援助に関する研究

この研究は、適確なアセスメントに基づく児童生徒理解の仕方、校内体制を生かした指導・援助の進め方、家庭や専門機関等との連携の在り方という3つの観点から、指導・援助のポイントを明らかにし、学校不適応児童生徒への対応に役立てようとするものである。

指導・援助のポイントは、実際の事例に沿って「事例解説」及び「キーワード解説」という形式で、学校で活用しやすいようにコンパクトに提示することができた。

(12) 中学校における予防的・開発的教育相談の在り方に関する研究

この研究は、ソーシャルスキルトレーニングを中心としたグループ体験をとおして、中学校における予防的・開発的教育相談の充実に役立てようとするものである。

本年度は、「他者とかかわること」と「適切なかわりを維持すること」を要素とした指導・援助試案に基づいた実践プログラムを、研究協力校において実践した。

その結果、傾聴を基本とし、他者とかかわるきっかけの作り方、自己主張の仕方をグループ体験に位置付けることは自己理解や他者理解を促し、受容的な関係を築き、生徒の対人関係の適応性を育むことができるということが確かめられた。

(13)地域の小・中学校と盲・聾・養護学校の連携の在り方に関する研究

この研究は、地域の小・中学校と盲・聾・養護学校の特別支援教育コーディネーターの交流を図るためのファイルを作成し、活用することにより、地域の小・中学校と盲・聾・養護学校の連携の在り方について明らかにし、特別支援教育の充実に役立てようとするものである。

「交流を図るファイル（地域版）」を作成し、指導実践を行い、その結果の分析と考察をとおして、「交流を図るファイル」の妥当性について確認することができた。

(14)小・中学校においてコンピュータやネットワークを安全に利用するための研究

本研究は、小・中学校でコンピュータやネットワークを安全に利用するため、「コンピュータやネットワークを利用する一人一人の意識と行動」に視点を置いて進めたものである。

一人一人が理解し、実行しなければならないことを「意識する段階」、「理解する段階」、「実行する段階」に分け、ネットワーク運用マニュアルとしてまとめ、研究協力校において安全な利用に役立つことを確かめることができた。

(15)小学校における教育用コンテンツを活用した授業に関する研究

この研究は、指導内容に即した教育用コンテンツを開発し、その活用場面をカリキュラムに位置付け、授業実践をとおして、小学校における教育用コンテンツの活用を明らかにし、学習指導の充実に役立てようとするものである。

各教科の指導内容に即したコンテンツの開発とカリキュラムへの位置付けを進め、研究協力校での授業実践をとおして、その有用性が明らかになった。また、センタ・Webで研究推進状況の発信も随時行っている。

(16)中学校国語科における確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究

この研究は、中学校国語科において、論理的な思考を促す学習指導の展開をとおして、生徒の確かな「読むこと」の力の育成を図るものである。

本年度は、確かな「読むこと」の力を育む指導に関する研究の基本的な考え方を検討し、その基本構想を立案した。

また、それに基づいて論理的な思考を促す学習指導の具体的な手だてとして、思考を促す発問の構成と、指導過程に個人思考と集団思考を効果的に組み込んだ試案を作成した。

(17)中学校英語科における書く力を高める指導に関する研究

この研究は、コミュニケーションを支える基礎的能力を培う継続的な指導と4領域を関連させた総合的言語活動の工夫をとおして、中学校英語科における書く力を高める指導の改善をねらうものである。

本年度は、基本構想を立案後、それに基づき、コミュニケーションを支える基礎的能力を培う指導方法の具体的手だてを盛り込んだ試案を作成し、研究協力校において実践した。今後は総合的な言語活動と連動させ、書く力の向上をねらう予定である。

(18)命を大切にすることを育む小学校道徳教育に関する研究

この研究は、生命尊重にかかわる価値を高めるために、道徳的实践プログラムの作成をとおして、命を大切にすることを育むための指導の在り方を明らかにし、小学校道徳教育の充実に役立てようとするものである。

本年度は、命を大切にすることを育む小学校道徳教育についての基本的な考え方とそれに基づいた基本構想を立案し、小学校の教育活動を道徳的实践プログラムとして位置付けるための試案を作成した。

(19)将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究

本研究は、特別活動を中心として展開する小学校キャリア教育のモデルカリキュラムの提示をめざしたものである。

本年度は、キャリア教育の意義や学校教育における位置付け、めざすべき児童像、育成すべき諸能力等を明らかにし、キャリア教育全体構想としてキャリア教育学習プログラムの枠組み、キャリア教育全体計画、全体指導構想表及びキャリア教育の視点を位置付けた学級活動・学校行事等の題材一覧を作成することができた。

(20)小学校における予防的・開発的な教育相談の在り方に関する研究

この研究は小学校高学年を対象とし、集団体験活動をとおして人間関係の適応性を高めることで、「自分のよさを

他者や集団のために発揮しようとする」児童の育成をめざし、学校教育相談の充実に役立てようとするものである。
本年度は、集団体験活動を「集団の中で互いに考えを伝え合い、肯定的に評価をし合いながら、児童が友達や集団のために役に立ったと実感のできる活動」と捉え、児童の実態調査・分析を基に指導・援助試案を作成することができた。

(21) 中学校・高等学校における特別支援教育校内体制の確立に関する研究

この研究は、中学校・高等学校におけるLD、ADHD等の生徒に対する具体的な教育的支援についての検討、実践等をとおして、既存の校内体制の活用・発展を柱とした特別支援教育校内体制の在り方を明らかにしようとするものである。

本年度実施の全県調査の結果、障害を適切に判断するための体制を整えることの必要性、既存の組織を活用・発展させた校内体制構築の必要性、機動性の優れた体制の必要性、が明らかとなり、手だての方向性について見通しをもつことができた。

(22) 特殊学級における教科指導の在り方に関する研究

この研究は、小・中学校の特殊学級における算数・数学科の指導の現状と課題を踏まえ、教材分析に視点を当てた教科指導の在り方と実生活との関連性について実践を通して明らかにし、特殊学級における教科指導の充実に役立てようとするものである。

本年度は、実態調査を行い、その結果の分析と考察を基に、実態把握・系統性・実生活の視点から算数・数学科の指導と実生活との関連性を明らかにするための手だての方向性について見通しをもつことができた。

(23) 小学校におけるデジタル教材を活用した授業の在り方に関する研究

この研究は、小学校の学習活動においてデジタル教材を活用した指導計画を作成するとともに、授業において効果的な活用ができるような展開例集の作成をとおして学習指導の改善に役立てようとするものである。

1年次は4年生理科、2年生算数科の教材を作成し、授業実践を行った。さらに、その分析と考察をとおして、次年度への研究の方向性をもつことができた。

(24) 中学校数学科における教育用コンテンツの活用に関する研究

この研究は、学習定着度状況調査の分析をふまえた単元の展開を中心に、中学校数学科における教育用コンテンツの活用を明らかにし、授業実践をとおして、中学校数学科の学習指導の充実に役立てようとするものである。

本年度は、学習定着度状況調査の誤答分析を行い、教育用コンテンツが有効と思われる単元を明らかにするとともに、手だての試案に基づき、開発した教育用コンテンツを活用し、授業実践を行った。

(25) 岩手県における学校教育に関する実態調査

本年度行った教育調査Aは、平成14年度に行った教育調査Aとほぼ同じ質問内容で行い、経年比較を行ったものである。

調査対象は、県内小学校、中学校、高等学校、盲聾養護学校66校の児童生徒約2,000名及びその保護者、学級担任、合わせて約5,000名である。調査内容は学習面と生活面の両面である。

「家庭で30分以上学習している児童生徒の割合は、小学生が一番多い」など、本県の基本的なデータとして、今後の学校・関係機関等における活用が望まれる。

(26) 岩手県教育史資料に関する調査

この研究は、岩手県の藩政時代以降の教育面における県民の歩みや本県の教育制度施行の実状を、時間的経過と社会的状況に即して客観的に理解することを目的として、昭和9～11年について、学事関係文書など連綿として保存されてきている岩手県の近代教育史に関する資料を調査収集し、「岩手県教育史資料」第65集、第66集、第67集として編纂したものである。

第7節 社会の変化に対応した学校施設・設備の整備充実

(1) 市町村立幼稚園の整備

平成17年度に、国庫補助金を受けて整備した園舎はなし。

(2) 市町村立小中学校の整備

ア 校舎及び屋体の整備

(ア) 平成17年5月1日現在における校舎及び屋体の保有等の状況は第1表のとおりである。

第1表 公立学校施設の保有状況（換算前）（単位：㎡、％）

区 分	必要面積 (1)	保 有 面 積				鉄 筋 化 率 (2)+(3) /(5) (6)	整備資 格面積 (7)	(7)/ (1) (8)	危険面積 R・S5,000点 以下 W5,500点 以下 (9)	(9)/ (5) (10)
		鉄筋造 (2)	鉄骨その 他造(3)	木 造 (4)	計 (5)					
小 学 校	校舎	1,359,768 (89.3) 1,071,246	(3.5) 41,971	(7.2) 86,471	(100.0) 1,199,688	92.8	216,102	15.9	9,445	0.8
	屋体	449,277 (15.1) 50,449	(81.7) 272,543	(3.2) 10,703	(100.0) 333,695	96.8	118,613	26.4	1,268	0.3
	計	1,809,045 (73.2) 1,121,695	(20.5) 314,514	(6.3) 97,174	(100.0) 1,533,383	93.7	334,715	18.5	10,713	0.6
中 学 校	校舎	720,880 (91.7) 634,513	(3.6) 24,766	(4.7) 32,684	(100.0) 691,963	95.3	71,614	9.9	14,384	2.0
	屋体	245,350 (19.2) 38,740	(77.9) 157,116	(2.9) 5,926	(100.0) 201,782	97.1	53,053	21.6	4,948	2.0
	計	966,230 (75.3) 673,253	(20.4) 181,882	(4.3) 38,610	(100.0) 893,745	95.7	124,667	12.9	19,332	2.0
合 計	校舎	2,080,648 (90.2) 1,705,759	(3.5) 66,737	(6.3) 119,155	(100.0) 1,891,651	93.7	287,716	13.8	23,829	1.1
	屋体	694,627 (16.7) 89,189	(80.2) 429,659	(3.1) 16,629	(100.0) 535,477	96.9	171,666	24.7	6,216	0.9
	計	2,775,275 (74.0) 1,794,948	(20.4) 496,396	(5.6) 135,784	(100.0) 2,427,128	94.4	459,382	16.6	30,045	1.1

注：1 平成17年度の公立学校施設台帳を集計したものである。

2 ()書は構成比である。

3 整備資格面積とは、各学校ごとに必要面積から保有面積を差し引いた面積である。ただし、差し引きが負数となる場合は0とするものである。

4 危険面積とは、耐力度点数が、鉄筋造及び鉄骨造にあつては5,000点以下、木造にあつては5,500点以下の建物の面積である。

(イ)平成17年度において国庫負担(補助)金を受けて整備した校舎及び屋体等の状況は第2～4表のとおりである。

第2表 事業別の状況 (単位: m²、千円)

区 分	単 年			国 債			計			備 考
	事業数	補助対象面積	負担(補助)金額	事業数	補助対象面積	負担(補助)金額	事業数	補助対象面積	負担(補助)金額	
小校	1	57	5,094	1	510	44,401	2	567	49,495	国債のうち17年度歳出化分 17,760千円
中校	0	0	0	2	510	44,596	2	510	44,596	国債のうち17年度歳出化分 17,839千円
小屋	1	138	14,634	1	357	35,335	2	495	49,969	国債のうち17年度歳出化分 14,134千円
中屋	1	28	2,573	0	0	0	1	28	2,573	
危険	3	3,075	234,833	5	7,762	486,254	8	10,837	721,087	国債のうち17年度歳出化分 194,501千円
統合	1	1,133	99,842	0	0	0	1	1,133	99,842	
不適格	2	132	11,808	2	537	31,500	4	669	43,308	国債のうち17年度歳出化分 12,600千円
大規模改造	28		233,436	0	0	0	28		233,436	
地震補強	2		62,918	0	0	0	2		62,918	
屋外環境	1		18,255	0	0	0	1		18,255	
合計	40	4,563	683,393	11	9,676	642,086	51	14,239	1,325,479	国債のうち17年度歳出化分 256,834千円

第3表 市町村別の状況（単年度事業分）

市町村名	学校名	小校	中校	小屋	中屋	小中危険		統合		不適格		合計		大規模 改造	地震補 強	屋外環 境	負担金 補助金
						校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体				
		m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	千円	千円	千円	千円
盛岡市	黒石野中											0	0	74,502	12,974		87,476
八幡平市	松尾中				28		1,039				95	0	1,162				117,220
紫波町	彦部小											0	0	437			437
"	紫波一中											0	0	312			312
花巻市	矢沢小											0	0	883	49,944		50,827
"	湯口小											0	0	14,181			14,181
"	矢沢中											0	0	388			388
"	谷内小											0	0	2,100			2,100
奥州市	水沢小											0	0	388			388
"	羽田小											0	0	70			70
"	玉里小											0	0	665			665
金ヶ崎町	三ヶ尻小	57				1,274				37		1,368	0				83,215
"	永岡小											0	0	3,890			3,890
"	第一小											0	0	33			33
一関市	山目小											0	0	1,467			1,467
"	本寺中											0	0	842			842
"	花泉中											0	0			18,255	18,255
平泉町	平泉中											0	0	471			471
大船渡市	吉浜中											0	0	1,446			1,446
"	末崎小											0	0	3,912			3,912
"	越喜来小											0	0	695			695
釜石市	釜石中								1,133			0	1,133				99,842
"	平田小											0	0	1,727			1,727
"	甲子小											0	0	274			274
遠野市	上郷小			138			762					0	900				68,507
"	宮守中											0	0	2,298			2,298
田野畑村	田野畑中											0	0	2,473			2,473
久慈市	久慈湊小											0	0	12,455			12,455
"	久慈中											0	0	10,946			10,946
洋野町	大野小											0	0	9,482			9,482
軽米町	軽米中											0	0	87,099			87,099
計		57	0	138	28	1,274	1,801	0	1,133	37	95	1,368	3,195	233,436	62,918	18,255	683,393

第4表 市町村別の状況（国債事業分）

市町村名	学校名	小校	中校	小屋	中屋	小中危険		統合		不適格		合計		大規模 改造	地震補 強	屋外環 境	負担金 補助金
						校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体	校舎	屋体				
		m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	千円	千円	千円	千円
陸前高田市	第一中		510			3,900				494		4,904	0				298,817
遠野市	上郷小					3,031						3,031	0				175,923
宮古市	亀岳小	510		357		513	318			43		1,066	675				167,346
計		510	510	357	0	7,444	318	0	0	537	0	9,001	675	0	0	0	642,086

イ 校地の整備

校地の保有状況（17.5.1現在） 単位：㎡

区分	保有校地				面積		借用校地面積
	建物敷地	運動場	実験実習地	その他	計		
小学校	2,686,661	3,642,719	1,387,496		7,716,876		172,211
中学校	1,699,834	2,798,933	869,414		5,368,181		93,891
計	4,386,495	6,441,652	2,256,910		13,085,057		266,102

(3) 高等学校校舎等整備施設整備
平成17年度における整備状況

補助・単 独の別	高等学校名	事業内容	構造	全体事業 (㎡)		工事費 (千円)	備考
				実施面積	左のうち 国庫補助 対象面積		
国庫補助	大 東	産振棟建設	鉄筋	756		23,179	H17～18工事
県 単 独	盛岡第二	校舎建設	鉄筋	7,800		864,806	H17～18工事
	一関第一	"	"	8,546		217,243	"
	大 船 渡	"	"	6,328		201,892	"
	盛岡工業	校舎大規模改造	鉄筋	4,024		149,651	H16～17工事
	軽 米	"	"	2,499		55,156	
	福 岡	"	"	3,776		103,009	
	黒沢尻工業	産振施設大規模	"	3,475		115,670	
	一関第二	校地整備		26,000		97,784	
	紫波総合	"		21,000		24,822	

補助・単 独の別	高等学校名	事業内容	構造	全体事業 (㎡)		工事費 (千円)	備考
				実施面積	左のうち 国庫補助 対象面積		
	該当なし						

(4) 産業教育施設整備

産業教育施設の状況 (平成17.4.1現在) 単位: ㎡、%

基準面積(A)	現有面積(B)	現有率 (B/A)
345,801	162,168	46.9%

(5) 特殊教育設備

県立学校の状況

平成17年度事業実施内容			単位: 千円
区 分	事 業 内 容	学 校 名	金 額
屋外自立活動設備充実事業	校庭に野外活動設備を整備し自立活動の一層の充実を図るための設備を整備する事業	一関養護、気仙養護	2,026
特 別 活 動 設 備 充 実 事 業	勤労生産的、体育的及び学術的な学校行事を実施するために必要な設備を準備する事業	盛岡高等養護、一関養護	1,885
集 団 補 聴 設 備 充 実 事 業	聾学校において、学級単位で集団補聴設備を整備するための事業	一関聾	252
幼 稚 部 設 備 充 実 事 業	幼稚部において必要な設備を整備するための事業	一関聾	174
高等部職業教育設備充案事業	高等部において、職業教育を実施するために必要な設備を整備する事業	盲、盛岡養護、気仙養護、久慈養護	3,194
重複障害教育設備設備充実事業	重複障害学級の教育効果向上を図るために必要な設備を整備する事業	松園養護、前沢養護、一関養護	398
寄 宿 舎 設 備 充 実 事 業	寄宿舎生活を充実に過ごすために必要な設備を整備する事業	盛岡高等養護、久慈養護	560
計			8,489

(6) 高等学校産業教育設備

産業教育設備の整備状況

(平成17年4月1日現在)

基準金額	現有金額	現有率
28,312,744,000円	6,169,594,998円	21.8%

教材設備の充実状況

高等学校名	種 別	科 目 群	補助事業に要する経費		
			総 額	国庫負担金	設置者負担金
黒沢尻工	特 別 装 置		19,577	3,333	16,244

(7) 理科教育等設備

ア 市町村立小中学校の状況

平成17年度補助金交付状況

(単位：千円)

市町村名	理科設備	算数・数学設備	計	市町村名	理科設備	算数・数学設備	計
盛岡市	2,383	0	2,383	藤沢町	500	0	500
岩手町	542	0	542	大船渡市	558	61	619
葛巻町	500	0	500	陸前高田市	516	0	516
八幡平市	485	15	500	住田町	400	100	500
滝沢村	437	63	500	釜石市	508	188	696
紫波町	516	0	516	宮古市	605	233	838
矢巾町	452	193	645	山田町	774	0	774
花巻市	975	25	1,000	岩泉町	956	59	1,015
北上市	412	104	516	久慈市	738	0	738
奥州市	2,619	892	3,511	洋野町	500	0	500
金ヶ崎町	774	0	774	一戸町	500	0	500
一関市	1,393	0	1,393	軽米町	791	48	839
				合 計	18,834	1,981	20,815

イ 公立高等学校理科教育設備整備状況

(単位：千円)

高等学校名	国庫補助交付額	設置者負担額	特殊学校名	国庫補助交付額	設置者負担額
盛岡第二	400	400	気仙養護	43	43
盛岡第四	400	400	宮古養護	72	72
花 巻 南	400	400			
水沢農業	400	400			
遠 野	400	400			
釜石工業	430	430			
大 槌	400	400	小 計	115	115
小 計	2,830	2,830	計	2,945	2,945

学 校 種 別 現 有 状 況

区 分	学 校 種 別	学校数	基 準 総 額	平 成 1 7 年 度 末 に お け る 現 有 の 状 況		平成17年度補助 金交付金学校数
				現 有 金 額 (B)	現 有 率 (B / A)	
第 一 項 第 一 号 に 基 づ く 補 助	理 科 設 備	校	千円	千円	%	校
		小 学 校	435 6,417,105	1,083,726	16.9	144
		中 学 校	199 5,422,318	932,773	17.2	84
		高 等 学 校	79 6,207,224	785,255	12.7	7
		特殊教育諸学 校	17 861,793	46,587	5.4	1
		計	730 18,908,440	2,848,341	15.1	236
	特 算 数 別 ・ 設 数 備 学	小 学 校	435 879,486	118,280	13.4	25
		中 学 校	199 799,419	75,473	9.4	21
		高 等 学 校	79 1,038,236	31,618	3.0	0
		特殊教育諸学 校	17 108,564	13,354	12.3	1
		計	730 2,825,705	238,725	8.4	47

(8) 情報処理教育設備

ア 平成17年度設備整備校 (単位：千円)

高等学校名	整備金額	高等学校名	整備金額
平 館	2,930	宮古川井	2,867
胆 沢	2,930	岩泉田野畑	2,892
大船渡	3,545		
釜石北	3,541		
山 田	2,791	計	21,496

イ 情報処理教育設備整備状況

昭和60年度から平成17年度までの整備校は 54校で1,289,926千円である。

第8節 管 理 部 門

1 市町村立学校の管理部門

(1) 教職員の人事異動

平成17年度公立小・中学校教職員定期人事異動は、全県的視野に立って、教職員の適正配置に人事の刷新を図り、もって本県教育の一層の活性化と充実向上を期する事を目的として進められてきた。

ア 公立小・中学校教職員定期人事異動方針並びに人事異動要領に基づき、学校現場の活性化のため、全県的視野に立って、交流を進めるとともに、教職員の構成等にも配慮する適正な配置に努めた。

イ 県南と県北・準県北地区との交流を積極的に行った。

ウ 県南地区教育事務所間・県北地区教育事務所間異動を行い、交流をより一層活発にした。

エ ヘキ地学校とその他の学校との交流を行い、3級以上のヘキ地学校に3年以上勤務した者の配置換えを行った。

オ 小・中学校併設校13校のうち、9校については小中学校を兼務する教頭を置き、地域における学校運営体制の充実を図った。

カ 新採用教員の配置については、全教育事務所に配置し、初任者研修の効果的な実施に配慮した。教諭の新規採用は107名であった。

キ 管理職の登用については、広く有為な人材の発掘に努め、積極的に若手、女性を登用した。新たに93人の校長と82人の教頭が登用された。

ク 退職者215人のうち、校長は103人、教頭は13人であった。

(2) 教育相談員

教育相談員は、公立小・中学校の教育に関する事項について、教職員の相談に応じ助言を与え、もって教育効果の向上を図る目的のもとに各教育事務所に設けられている。

教育相談の状況は、各相談員とも、年度当初訪問計画を立て、積極的に学校訪問をしており、一人当たりの平均訪問学校数は50.6校となっている。相談内容も多岐にわたるが、特に新任校長、新任教頭やヘキ地学校の教職員に対しては貴重な相談機会であり、好評を得ている。

今後とも相談指導体制の一層の充実を図る必要がある。

第1表 平成17年度公立小・中学校教職員定期人事異動集計表

(平17.3.18現在)

区 分		小学校	中学校	計
同 一 市 町 村 異 動	校長	29	12	41
	教頭	22	10	32
	教諭	209	124	333
	養護教諭	15	8	23
	学校栄養職員	7	0	7
	事務職員	37	23	60
	計	319	177	496
市 町 村 越 異 動	校長	140	54	194
	教頭	113	62	175
	教諭	595	375	970
	養護教諭	72	25	97
	学校栄養職員	7	8	15
	事務職員	72	49	121
	計	999	573	1,572
小 計	校長	169	66	235
	教頭	135	72	207
	教諭	804	499	1,303
	養護教諭	87	33	120
	学校栄養職員	14	8	22
	事務職員	109	72	181
	計	1,318	750	2,068
市町村教委等転出者		21	18	39
計		1,339	768	2,107

上記集計表には事務局、県立学校への転出者(小27名、中24名、計51名)は、含まれていない。

第2表 退職者数

区 分	小学校	中学校	計
校長	75	28	103
教頭	10	3	13
教諭	39	38	77
養護教諭	3	2	5
学校栄養職員	5	2	7
事務職員	8	2	10
計	140	75	215

(注) 上記には、県教委等への転出者数は含まれていない。

第3表 校種間異動者数及び新校長・新教頭任用者数

区 分	小学校	中学校	計
中から小へ	16		16
小から中へ		15	15
新校長 管内から	5	0	5
管外から	62	29	91
計	67	29	96
新教頭 管内から	2	3	5
管外から	47	30	77
計	49	33	82

(注) 新校長及び新教頭の管内からとは同一教育事務所管内での起用である。管外からとは教育事務所を越えての起用であり、転入者も含む。

第4表 新規採用者数

区 分	小学校	中学校	計
教諭	58	49	107
養護教諭	1	0	1
学校栄養職員	4	0	4
事務職員	0	0	0

2 県立学校の管理部門

(1) 教職員の人事異動

平成17年度県立学校教職員定期人事異動の概要は次表のとおりである。

区 分	退職	昇 職 配 転	任 置 換 出	転 入 採 用	計
高校教員	98		440	62	600
盲・聾・養教員	24		114	23	161
実習助手	2		14	2	18
寄宿舎指導員	6		18	3	27
事務職員	15		81	30	126
学校栄養職員	0		0	0	0
技労・海事職員	9		21	0	30
計	154		688	120	962

このうち、校長は退職24人、転出1人、任命換、昇任、転入及び採用は37人であった。

ア 校長・教頭の異動について

学校・学科の別にとらわれることなく、適材を適所に配置し、17人を校長に抜擢するとともに、広く全県の視野に立って20人の中堅職員を教頭に登用した。

イ 一般職員の異動について

次の観点から交流を行い、教員組織の活性化を図った。

(ア) 沿線地域に勤務する教員と、それ以外の地域に勤務する教員との交流、特に、人事上のへき地及び県北地域に勤務する教員の異動に重点をおいた。

(イ) 全日制と定時制・通信制、また、普通高校と専門高校の間の教員の交流を図った。

(2) 盲・聾・養護学校の学級再編

平成17年度盲・聾・養護学校再編計画の基本方針を次のとおり定めた。

盲、聾、養護学校対象児童生徒の完全就学を図るよう努めるとともに、障害児のそれぞれの障害の種類や程度に応じた適切な教育を行う。

障害児の望ましい成長発達を図るため必要に応じた早期教育を促進する。

また、社会的適応力を高めるため、能力特性に応じた後期中等教育の充実を図る。

以上の基本方針に基づく学級再編は次のとおりである。

- 県立盛岡聾学校高等部産業技術科新設（1学級）
- 県立盛岡聾学校高等部専攻科産業技術科新設（1学級）
- 県立一関聾学校高等部産業技術科新設（1学級）
- 県立釜石養護学校高等部普通科学級増（1学級）
- 県立盛岡高等養護学校普通科臨時学級増（1学級）
- 県立青山養護学校高等部普通科訪問教育学級増（1学級）
- 県立花巻養護学校高等部普通科特別学級増（1学級）
- 県立前沢養護学校高等部普通科特別学級増（1学級）
- 県立釜石養護学校しゃくなげ分教室中学部学級増（1学級）
- 県立一関養護学校あすなろ分教室中学部学級増（1学級）

第9節 就学奨励

1 特殊教育就学奨励費補助金

(特殊学級分)

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

(単位：人、円)

区 争		給 与 人 員			給 与 額		
		小学校	中学校	計	小 学 校	中 学 校	計
学 校 給 食 費		449	217	666	8 , 957 , 147	3 , 800 , 126	12 , 757 , 273
交通費（通学費）		202	35	237	4 , 782 , 226	3 , 068 , 604	7 , 850 , 830
磯場実習交通費・		0	0	0	0	0	0
交流学习交通費		23	5	28	5 , 109	3 , 891	9 , 000
修 学 旅 行 費		68	62	130	671 , 393	1 , 660 , 047	2 , 331 , 440
校 外 活 動 費	宿泊を伴わ ないもの	303	89	392	198 , 227	83 , 453	281 , 680
	宿泊を伴 うもの	55	35	90	35 , 239	52 , 616	87 , 855
学 用 品 購 入 費		453	218	671	2 , 462 , 279	2 , 260 , 572	4 , 722 , 851
観入学児童・生徒 学 用 品 費 等		70	70	140	699 , 450	777 , 335	1 , 476 , 785
通学用品購入費		343	137	480	370 , 402	141 , 738	512 , 140
体育実技 用具費	柔 道	0	1	1	0	1 , 800	1 , 800
	剣 道	0	0	0	0	0	0
	ス キ ー	23	10	33	225 , 420	117 , 405	342 , 825
	スケート	0	0	0	0	0	0
拡 大 教 材 費		0	0	0	0	0	0
合 計		599	227	826	18 , 406 , 892	11 , 967 , 587	30 , 374 , 479

(2) 市町村別補助金交付額

(単位：千円)

市 町 村 名	国庫補助金額	市 町 村 名	国庫補助金額
盛 岡 市	3,233	住 田 町	33
岩 手 町	62	釜 石 市	374
雫 石 町	24	遠 野 市	289
葛 巻 町	40	大 槌 町	91
八 幡 平 市	315	宮 古 市	805
滝 沢 村	314	山 田 町	0
紫 波 町	174	岩 泉 町	62
矢 巾 町	159	田 野 畑 村	0
花 巻 市	708	川 井 村	0
北 上 市	1,029	久 慈 市	286
西 和 賀 町	51	洋 野 町	149
奥 州 市	898	野 田 村	54
金 ヶ 崎 町	78	普 代 村	53
一 関 市	1,234	二 戸 市	226
平 泉 町	8	一 戸 町	162
藤 沢 町	73	軽 米 町	106
大 船 渡 市	342	九 戸 村	35
陸前高田市	208	合 計	11,675

2 要保護児童生徒援助費補助金

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額

(単位：人、円)

区 分		給 与 人 員			給 与 額		
		小学校	中学校	計	小 学 校	中 学 校	計
学 用 品 費 通 学 用 品 費 校 外 活 動 費 (宿泊を伴わないもの)							
校 外 活 動 費 (宿泊を伴うもの)							
新入学児童生徒 学 用 品 費 等							
修 学 旅 行 費		81	92	173	1 , 708 , 223	6 , 356 , 755	8 , 064 , 978
通 学 費							
体 育 実 技 用 具 費	柔 道						
	剣 道						
	ス キ ー						
	ス ケ ー ト						
	計						
医 療 費		179	64	243	3 , 942 , 912	1 , 678 , 451	5 , 621 , 363
学 校 給 食 費							

(注) 平成17年度から準要保護児童生徒援助費補助金が廃止され、市町村へ税源移譲されている。

(2) 市町村別補助金交付額

(単位：円)

市 町 村 名	国 庫 補 助 金 確 定 額			
	学 用 品 費 等	医 療 費	学 校 給 食 費	計
盛 岡 市	1,469,000	798,000	0	2,267,000
岩 手 町	22,000	39,000	0	61,000
雫 石 町	31,000	30,000	0	61,000
葛 巻 町	11,000	42,000	0	53,000
八 幡 平 市	152,000	11,000	0	163,000
滝 沢 村	117,000	303,000	0	420,000
紫 波 町	43,000	38,000	0	81,000
矢 巾 町	38,000	121,000	0	159,000
花 巻 市	234,000	150,000	0	384,000
北 上 市	126,000	46,000	0	172,000
西 和 賀 町	0	0	0	0
奥 州 市	107,000	107,000	0	214,000
金 ヶ 崎 町	26,000	0	0	26,000
一 関 市	182,000	52,000	0	234,000
平 泉 町	9,000	0	0	9,000
藤 沢 町	19,000	0	0	19,000
大 船 渡 市	27,000	0	0	27,000
陸前高田市	0	0	0	0
住 田 町	0	0	0	0
釜 石 市	71,000	29,000	0	100,000
遠 野 市	0	0	0	0
大 槌 町	279,000	107,140	0	386,140
宮 古 市	204,000	179,000	0	383,000
山 田 町	68,000	216,000	0	284,000
岩 泉 町	97,000	30,000	0	127,000
田 野 畑 村	78,000	0	0	78,000
川 井 村	0	0	0	0
久 慈 市	151,000	230,000	0	381,000
洋 野 町	150,000	73,000	0	223,000
野 田 村	80,000	13,000	0	93,000
普 代 村	0	0	0	0
二 戸 市	162,000	40,000	0	202,000
一 戸 町	0	6,000	0	6,000
軽 米 町	66,000	0	0	66,000
九 戸 村	0	0	0	0
計	4,019,000	2,660,140	0	6,679,140

3 ヘき地児童生徒援助費等補助金

(1) 経費の種類別給与人員及び給与額等

(単位：人、円)

区 分	給 与 人 員			給 与 額		
	小 学 校	中 学 校	計	小 学 校	中 学 校	計
スクールバス購入費 (台)	-	-	13	-	-	122,661,005
寄宿舎居住費 (人)		49	49	-	11,747,340	11,747,340
高度へき地修学旅行費 (人)	2	11	13	46,690	1,070,000	1,116,690
遠距離通学費 (人)	53	13	66	3,839,820	1,705,460	5,545,280

(2) 市町村別補助金交付額

(単位：千円)

市 町 村 名	スクールバス 購 入 費	遠 距 離 通 学 費	寄 宿 舎 居 住 費	高度へき地 修学旅行費	保健管理費	計
盛 岡 市				18		18
岩 手 町					250	250
葛 巻 町					412	412
八 幡 平 市					82	82
西 和 賀 町					42	42
奥 州 市	6,080				202	6,282
一 関 市	10,752					10,752
藤 沢 町		633				633
住 田 町					33	33
釜 石 市		341			240	581
遠 野 市	3,040				43	3,083
岩 泉 町		932		416	91	1,439
田 野 畑 村		185	4,677		293	5,155
川 井 村					253	253
久 慈 市	1,890				466	2,356
洋 野 町	3,040				32	3,072
一 戸 町	3,040				292	3,332
軽 米 町					57	57
合 計	27,842	2,091	4,677	434	2,788	37,832

第10節 育英・奨学（（財）岩手育英奨学会）

県内に住所を有する者の子弟で、有能な素質を有しながら経済的理由により高等学校等への修学が困難なものに対し、学資の貸与その他育英奨学上必要な事業を行っている。

1 奨学金の種類と額

(1) タイプA（予約・在学・緊急採用共通）

区 分		貸与月額（円）
国公立	自 宅 通 学	18,000
	自 宅 外 通 学	23,000
私 立	自 宅 通 学	30,000
	自 宅 外 通 学	35,000

(2) タイプB（予約採用）

区 分		貸与月額（円）	入学一時金
一般貸与奨学生（自宅通学）		12,000	12,000
特別貸与奨学生 （自宅外通学）	へき地3級以上の 中学校出身者	23,000	23,000
	そ の 他 の 者	17,000	17,000

在学採用（緊急奨学対策事業）について …… 貸与月額は予約採用と同額であるが、入学一時金はない。

2 奨学生の採用

(1) タイプA（平成17年度採用）

採 用 人 数		奨 学 生			
		国公立 自 宅	国公立 自宅外	私 立 自 宅	私 立 自宅外
予 約	265 人	220 人	19 人	19 人	7 人
在 学	238 人	118 人	10 人	92 人	18 人
緊 急	16 人	9 人	0 人	4 人	3 人
合 計	519 人	347 人	29 人	115 人	28 人

(2) タイプB（平成17年度採用）

採 用 人 数	奨 学 生			区 分			
	一 般	特 別		高 度 へき地	へき地	母 子・ 父子家庭	経済困難
		高 度 へき地	その他				
（予約）7人	7人	0人	0人	0人	0人	3人	4人
（在学）14人	13人	0人	1人	0人	1人	7人	6人
（合計）21人	20人	0人	1人	0人	1人	10人	10人

表中、「高度へき地」とは、へき地3級以上の中学校出身者をいう。

3 奨学金の貸与状況

(1) タイプA（平成 17 年度）

区 分		貸与人数	奨 学 金
国公立	自 宅 通 学	345 人	74,304 千円
	自宅外通学	29 人	7,590 千円
私 立	自 宅 通 学	115 人	40,980 千円
	自宅外通学	28 人	11,690 千円
合 計		517 人	134,564 千円

未貸与で辞退 2 名を除く。

(2) タイプB（平成 17 年度）

区 分		貸与人数	奨 学 金
一 般 貸 与		99 人	14,184 千円
特別貸与	高度へき地	2 人	552 千円
	そ の 他	4 人	816 千円
合 計		105 人	15,552 千円

「附」 私立学校

1 私立学校審議会

委員名簿（平成17年5月1日現在）

盛岡市医師会附属盛岡看護学院長	臼井康雄	学校法人龍澤学園理事長	龍澤正美
元岩手県教育委員会教育長	大隅英喜	盛岡白百合学園高等学校長	千葉佳子
聖パウロ幼稚園長	坂水かよ	岩手大学教育学部附属教育実践総合センター助 教 授	塚野弘明
学校法人内丸学園理事長	坂本洋	岩手県立大学社会福祉学部助教授	中尾美知子
学校法人岩手女子奨学会理事長	澤野桂子	学校法人スコーレ理事長	毛利二郎
協和学院水沢第一高等学校長	滝澤昭弘	学校法人宮古泉学園理事長	横田大樹

五十音順

2 私立学校審議会の状況

私立学校審議会が知事の諮問により審議し、原案を可として答申した案件は次のとおりである。

(1) 平成17年9月15日答申

学校の収容定員に係る学則変更認可について

盛岡女子高等学校

協和学院水沢第一高等学校

みどり幼稚園

専修学校の廃止認可について

オームラ洋裁専門学校

専修学校の目的の変更認可について

盛岡医療福祉専門学校

(2) 平成18年3月9日答申

専修学校の廃止認可について

久慈文化高等専修学校

各種学校の廃止認可について

萩原珠算学校

宮古医師会立宮古看護学院

気仙文化服装学院

3 私立学校等認可の状況

平成17年度中に、知事が認可した件数は次のとおりである。

- | | |
|----------------------|-----|
| (1) 学校の廃止認可 | 5件 |
| (2) 学校の収容定員に係る学則変更認可 | 3件 |
| (3) 専修学校の目的の変更認可 | 1件 |
| (4) 寄附行為変更認可 | 49件 |

4 助成の状況（平成17年度最終予算）

(1) 県費補助

ア 私立学校運営費補助

幼稚園・小・中・高等学校補助 4,337,986千円

過疎地域私立高等学校特別補助 3校 161,330千円

特殊教育費補助（養護学校・幼稚園） 39校（園） 125,608千円

教育改革推進特別経費 190,650千円

専修学校補助 13校 107,774千円

イ 私立学校教職員退職金給付事業費補助 164,396千円

ウ	日本私立学校振興・共済事業団補助	46,100千円
工	私立幼稚園施設整備費補助	17,480千円
オ	私立幼稚園教材費助成事業費補助	1,421千円
カ	私立専修学校設備整備費補助	1,400千円
キ	私立高等学校等授業料減免補助	68,986千円
ク	私立学校教職員研修全国大会開催費補助	400千円

(2) 岩手県私学教育振興会貸付金

経営資金貸付

90,500千円

5 私学教育表彰の実施

岩手県私学教育表彰実施要綱(昭和58年岩手県告示第1076号)の規定に基づき、本県の私学教育に関し功労のあった次の者に対し、平成17年11月7日知事表彰を行った。

(団体)

学 校 名	一関学院高等学校
-------	----------

(個人)

所 属	職 名	氏 名
学校法人ひまわり学園	理事長	関 秀
岩手中・高等学校	教 頭	高 橋 一 義
花巻東高等学校	教 頭	似 内 利 正
専修大学北上高等学校	教 頭	高 木 敬 蔵
一関学院高等学校	教 頭	高 橋 康 夫
一関修紅高等学校	教 諭	熊 谷 政 子
松の丸幼稚園	園 長	國 分 一 彦

〔参考〕学校教育統計

(平成17年5月1日現在)

区 分			学 校 数		学級数	在 学 者 数			本 務 教 職 員 数	本 務 教 員 数			本 務 職 員 数				
			計	うち 分校		計	男	女		計	男	女	計	男	女		
幼 稚 園	計	()	158	0	706	15,154	7,691	7,463	1,163	1,006	86	920	157	89	68		
	国 立		1		5	148	82	66	10	8	1	7	2	1	1		
	公 立		68		206	3,231	1,680	1,551	325	303	19	284	22	12	10		
	私 立		89		495	11,775	5,929	5,846	828	695	66	629	133	76	57		
小 学 校	計	()	447	3	3,584	78,989	40,547	38,442	6,336	5,833	2,263	3,570	503	219	284		
	国 立		1		21	752	384	368	32	27	15	12	5	3	2		
	公 立		445	3	3,557	78,142	40,163	37,979	6,296	5,798	2,245	3,553	498	216	282		
	私 立		1		6	95	0	95	8	8	3	5	0	0	0		
中 学 校	計	()	204	1	1,511	43,263	22,051	21,212	3,674	3,453	1,930	1,523	221	105	116		
	国 立		1		12	476	239	237	23	21	16	5	2	2	0		
	公 立		201	1	1,490	42,632	21,778	20,854	3,631	3,414	1,907	1,507	217	102	115		
	私 立		2		9	155	34	121	20	18	7	11	2	1	1		
高 等 学 校	本 科	計	(8)	93	5	1,269	43,835	22,260	21,575	4,340	3,511	2,553	958	829	595	234	
		計	(8)	91	4	1,214	43,092	21,835	21,257	4,178	3,378	2,454	924	800	571	229	
		全 日 制	県 立	(8)	77	4	943	34,832	17,771	17,061	3,518	2,829	2,075	754	689	506	183
			市 立		1	0	24	973	484	489	72	61	42	19	11	5	6
		私 立		13	0	247	7,287	3,580	3,707	588	488	337	151	100	60	40	
	定 時 制	県 立	(8)	10	1	55	(364)	(199)	(165)								
							743	425	318	162	133	99	34	29	24	5	
		専 攻 科	計		2	0	4	101	9	92	0	0	0	0	0	0	0
			県 立		1		2	9	9	0	0	0		0	0		
		私 立		1		2	92	0	92	0	0		0				
	特 別 専 攻 科 別 科	県 立		1		2	22	19	3	0	0		0				
		私 立		0						0	0		0				
(参考)専攻科、特別専攻科、別科を含む総数		(8)	93	5	1,275	43,958	22,288	21,670	4,340	3,511	2,553	958	829	595	234		
通信制課程		県 立		1		1,917	1,069	848	41	36	19	17	5	3	2		
盲・聾・養護学校	計			19	2	372	1,478	948	530	1,219	872	337	535	347	146	201	
	盲 学 校	県 立		1	0	17	52	37	15	77	46	26	20	31	7	24	
		聾 学 校	県 立		2	0	22	56	33	23	109	64	25	39	45	28	
	養 護 学 校	計		16	2	333	1,370	878	492	1,033	762	286	476	271	122	149	
		国 立		1	0	10	57	45	12	31	28	12	16	3	0	3	
県 立			14	2	318	1,257	793	464	976	710	260	450	266	121	145		
	私 立		1	0	5	56	40	16	26	24	14	10	2	1	1		
大 学	計	(1)	5	0	0	13,404	8,421	4,983	3,320	1,275	1,100	175	2,045	668	1,377		
	国 立		1			6,340	4,075	2,265	713	424	397	27	289	218	71		
	県 立		1			2,216	1,125	1,091	261	206	139	67	55	43	12		
	私 立	(1)	3			4,848	3,221	1,627	2,346	645	564	81	1,701	407	1,294		
短 期 大 学	計		5	0	0	1,507	213	1,294	160	118	58	60	42	23	19		
	県 立		2			435	109	326	55	45	30	15	10	6	4		
	私 立		3			1,072	104	968	105	73	28	45	32	17	15		
高 等 専 門 学 校		国 立		1			877	739	138	112	66	64	2	46	36	10	
専 修 学 校	計		38	0	0	5,727	2,107	3,620	431	321			110				
	県 立		4			326	24	302	29	25			4				
	私 立		34			5,401	2,083	3,318	402	296			106				
各 種 学 校		私 立		12			632	159	473	47	41		6				

注) 1 「学校基本調査」の数値(速報)による。ただし、大学、短期大学及び高等専門学校は、県教育委員会の調査による。

2 公立小・中学校の職員数は、負担法による県費負担職員数である。(国立及び私立の小・中学校については総数。)

3 高等学校の学校数欄左の()内は、全日制課程と定時制課程が併設されている学校数で再掲である。

4 定時制課程の在学者数の()内は、単位制の生徒数で再掲である。また、通信制課程は、別掲としている。

5 大学の数は、県内に本部が設置されている数である。(()内は県外に本部を置く大学数の外計。)ただし、在学者数及び教職員数

第4章 魅力ある社会教育の推進

第4章 魅力ある社会教育の推進

第1節 たくましい岩手っ子を育てる家庭教育の支援

1 学習機会の提供

家庭教育支援の充実を図るため、親等に対する様々な機会を活用した家庭教育に関する学習機会を提供した。

(1) 父親の家庭教育の参加を考える集い（フォーラム家庭教育）

ア 目的

家庭における父親の役割が重要であることから、家庭教育への父親の関心を高めるため、父親の参加を啓発し、家庭教育の充実を図る。

イ テーマ 開催地区ごとに設定

ウ 開催時期 平成17年7月～12月

エ 会場（県内6会場）

安代町 花泉町 大槌町 一戸町 金ヶ崎町 宮古市

オ 対象

親、これから親になる青年、企業関係者、子育てに関心のある人、地域で子育てに関係する人等

(2) 子育て学習事業

ア 目的

地域特有の課題等に即し、地域に密着した形で、家庭教育や子育てに関する講座や父と子のふれあい事業などを実施する。（市町村、協議会等へ再委託）

イ 再委託事業の内容

- ・就学時健診等を活用した子育て講座の実施
＜各市町村等で780講座 計1,046回実施＞

(3) 子育てサポーター養成講座

ア 目的

子育てに関する専門的な知識や技能を有し、地域における子育てサークルの育成や、子育てネットワークの構築に指導的な立場で携わる子育てサポーターを養成する。

イ 受講者48人（セター38人 県北10人）

ウ 講座内容（1泊2日 4回講座）

子育て支援の重要性

子どもの発達とカウンセリング

子育て支援の実際

これからの子育て支援

エ 岩手県子育てサポーターの認定

本講座の受講者で全日程の7割以上受講した者を「岩手県子育てサポーター」として認定、登録する。

岩手県子育てサポーター登録者数

101人（平成17年度末現在）

2 学習情報の提供と相談体制の充実

様々なメディアを活用して、家庭教育・子育てに関する情報を全ての親に提供するとともに、家庭教育に悩む親等が気軽に相談できる窓口を設置し、周知に努めた。

(1) 家庭教育資料の作成

ア 目的 幼児の保護者を対象に、家庭教育に関する資料を作成し、情報提供を行うことにより、家庭教育の充実に資する。

イ 内容

「いわてっ子ばんざい（幼児編）」幼児期の問題と課題や心と体の健康・遊びなどの情報を紹介。

ウ 体裁 A4判 4C 24頁 20,000部発行

(2) 家庭教育テレビ放送

ア 目的

家庭教育に関するテレビ番組を制作し、放送をとおして学習機会及び育児、子育て情報の提供を行い、家庭教育への啓発及び充実に資する。

イ 番組名「いわてっ子ばんざい」

ウ 番組制作 株式会社いわてめんこいテレビ

エ 放送期日

平成17年10月1日～12月17日、毎週土曜日

オ 放送回数12回（1回15分）

(3) 子育てサポーター交流会の実施

ア 目的

子育てサポーターの資質の向上を図るとともに、子育てサポーター相互の連携を図ることにより、本県の家庭教育の充実に資する。

イ 対象 H12～H17までの子育てサポーター養成講座修了者

ウ 内容

子育て支援に関する講演・情報交換

(4) 子育て電話相談「すこやかダイヤル」

ア 目的

県民を対象に、家庭教育、特に子育てに関する悩みや不安を抱く親に対して、電話による相談を行い、家庭教育の充実に資する。

イ 内容

県教育委員会が委嘱した相談員が、県立生涯学習推進センターに設置する専用電話「すこやかダイヤル」により、親等の家庭教育に関する相談に応ずる。

ウ 実施方法

昼の電話相談(平日10:00～17:00)

開設場所 岩手県立生涯学習推進センター

開設期間 通年(祝日、年末・年始は除く。)

電話番号 0198-27-2134

夜間・休日は同番号でFAX、留守番電話対応

エ 相談件数 929件

すこやかダイヤル相談受理状況

相談領域	相談件数
健康・安全	56
しつけ全般	125
遊び・友達	76
家庭・環境	94
知能・ことば	19
いじめ・不登校	53
虐待・育児不安	33
心理・性格	184
集団生活・社会性	89
その他	200
計	929

第2節 いつでも、どこでも、だれでも 学べる学習活動の支援

1 青少年の学習活動の支援

ふるさと学習や地域活動、自然体験や生活体験を深める活動を積極的に推進するとともに、読書活動の推進にも取り組み、子どもたちの「生きる力」の育成が図られるように努めた。

また青少年の家の利用促進を図り、情操、社会性の涵養と心身を鍛練するとともに、少年団体活動の計画的な養成と確保に資する事業を展開した。

さらに、地域社会が一体となって子どもたちを育むための体制整備を進めるため、次の事業を行った。

(1) いわて再発見「青少年銀河鉄道体験交流事業」

異年齢集団での多様な活動を通して、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、県内を三陸鉄道やバスなどで一周し、さまざまな訪問地での活動、交流を通じて、郷土を愛し主体的に生きていこうとする活動意欲に満ちた青少年の育成を図った。

	期日・場所	参加者	内 容
高校生リーダー 事前研修会	8月6日～7日 国立岩手山青年の家	高校生44名	講話、アイスブレイキング、本研修に向けて、ワークショップによる創作活動
本研修	9月16日～19日 県立3青少年の家を 宿泊場所とする県内 一周コース（浄法寺 町、宮古市、平泉町）	小・中・高・聾・ 養護学校生185人	郷土学習、自然体験活動、交流活動、創作活動 ・浄法寺町 ...結団式、風力発電所見学、組別体験活動（天台寺護摩供養体験、昔懐かしおやつづくり体験、漆染め体験、ミニトマト等収穫体験） ・宮古市 ...浄土ヶ浜乗船体験、三陸大津波体験談、ワカメの芯抜き体験 ・平泉町 ...中尊寺、毛越寺ウォークラリー

(2) 地域の教育力向上支援事業

完全学校週5日制の円滑な定着を図るため、学校教育と社会教育の連携をコーディネートする「地域教育推進員配置事業」の成果を踏まえ、地域連携窓口教員に対する研修の機会の充実を通して地域全体の教育力向上を支援した。

ア 公立小中学校の校内体制への「地域教育担当（地域連携担当）」系の位置付け推進

「学校教育指導指針」に明記するなど、系の位置付けを推進

位置付け率（平成17年9月調査）

- ・公立小学校 99.1%（前年比+3.0）
- ・公立中学校 97.5%（前年比-0.1）

イ 地域と学校の連携セミナー

期日 6月10日

場所 生涯学習推進センター

対象 小・中・高・養護学校等の地域連携窓口教員（104名）

内容 講話、説明、講義、ワークショップ

ウ 地域連携窓口教員研修会

期日 6月～8月

場所 各教育事務所

対象 全小・中学校の地域連携窓口教員（770人）

エ 教員への周知・啓発強化

12教育事務所等で実施した初任者研修及び教職10年研修において実施

- ・初任研受講者 102名
- ・10年研受講者 304名

県立学校の教職10年研修においても実施

- ・1月（総合教育センター）111名

(3) 子どもの読書活動の推進

岩手県子どもの読書活動推進計画から「いわて子ども読書プラン」(H16.3月策定)を受け、子どもの読書活動推進事業を実施した。

- ・「子どもの読書活動推進事業」

内容

ア 読み開かせキャラバンの展開

地域の読書ボランティアグループによる保育所、幼稚園、学校、児童館等での「読み開かせキャラバン」の展開(6グループ)

読書ボランティア研修会(6カ所)

中高生のための読書ボランティア研修会

イ 読書活動の推進体制整備

学校図書 の推進体制整備

県及び各地区の推進体制の整備

ウ 読書活動の普及奨励

「いわて子ども読書プラン」実践事例集の作成

読書フェスティバルの開催(2月)

(4) 教育振興運動

教育振興運動は、「青少年教育の充実」の施策体系に位置付けられ、子どもたちの「生きる力」の育成に向けて地域の異年齢集団における切磋琢磨や豊富な体験活動、読書活動などの機会を確保するとともに、地域における幅広い活動や学習の機会を充実することが期待されている。

平成17年度は、昨年度に開催した40周年記念大会において集約した運動の成果と課題を踏まえ、「みんなで教振!10か年プロジェクト」を立ち上げ、その第1段階である「再構築の3年」に次の事項を重点事項として運動を推進した。

ア 「みんなで教振!10か年プロジェクト」の周知啓発を図る。

イ 組織の見直しや課題の掘り起こしを進めるとともに、モデルプログラムの開発及び実践研究を行う。

ウ 教員の意識高揚と研修機会の充実を図る。

県段階における推進活動

(ア) 幹事会(年3回)

幹事会では、「みんなで教振10か年プロジェクト」の推進の方策について検討を行った。

また、各教育事務所で開催した実践区等リーダー研修会及び地域懇談会に出席し、地域の実態把握に努めた。

(イ) 市町村担当者会議

「みんなで教振!10か年プロジェクト」について運動の推進について共通理解を図るとともに、地域の教育課題の掘り下げ等を通し、運動推進についての研修を行った。

・期日 5月23日:会場 県庁講堂

・参加者 86人

・内容 教育振興運動の基本理念について、「みんなで教振!10か年プロジェクトについて」、本県の青少年の現状について、ワークショップの実施

(ウ) 教育推進運動実践区リーダー等研修会

・事業名	趣 旨	実 施 状 況
教育振興運動実践区リーダー等研修会	教育振興運動の一層の推進を図るため、「みんなで教振!10か年プロジェクト」について共通理解を図るとともに、地域の教育課題の掘り下げ等を通し、運動推進の在り方についての研修を行う。	ア 期日、会場 ・盛岡地区 6月1日 ・花巻地区 6月3日 ・北上地区 6月14日 ・水沢地区 6月17日 ・一関地区 6月21日 ・千厩地区 6月22日 ・大船渡地区 6月22日 ・遠野地区 6月23日 ・釜石地区 6月21日 ・宮古地区 6月23日 ・久慈地区 7月4日 ・二戸地区 6月26日 イ 内容 ・10か年プロジェクトについて ・本年度重点等 ・演習 ・講演、事例発表等 ウ 参加状況 1,557人

(I) モデルプログラム研究事業

教育振興運動が今後取り組むべき課題を分析し、その解決を図るモデルプログラムの開発と実践研究を進めた。

- ・検討委員会（年3回）
- ・ワーキンググループ会議（年3回）

市町村段階における推進活動

(ア) 推進組織の状況

教育振興運動推進組織

教育振興運動 の単独組織	他の運動体や組織 と合わせて推進	その他
40市町村	13市町村	5市町村

市町村合併を行った市町村においても、組織が旧市町村単位で存在する場合は1市町村分としてカウントした。

(イ) 実践組織の状況

実践区の規模

区 分	実践区数（割合）	計
小学校区	339（53.1%）	639
中学校区	84（13.1%）	
公民館区	24（3.8%）	
町内会区	154（24.1%）	
そ の 他	38（5.9%）	

主題別実践区数

内 容	実践区数	内 容	実践区数
学 習 活 動	615	世 代 間 交 流	687
社 会 参 加	897	勤 労 体 験	328
自 然 体 験	333	国 際 理 解	73
郷 土 芸 能	274	スポーツ・レクリエーション	460
文 化 芸 能	190	そ の 他	122
生 活 健 康	678	計	4,667

(5) 地域教育力再生事業

地域の教育力の再生を図る多様な機会を提供するため、安全・安心して活動できる子どもの居場所（活動拠点）づくりの支援、地域資源を活用したボランティア活動や、スポーツ及び特色ある様々な文化の体験活動などの促進を通じて、地域の教育力の再生を図った。

ア 岩手県地域教育力再生事業運営協議会

運営協議会の開催（6月7日、3月7日）

安全管理に関する研修会の開催（7月5日）（206人）

運営に関する研修会の開催（9月1日）（191人）

事業報告書の作成（1,100部）

実地調査（金ヶ崎町、湯田町、大迫町）

イ 市町村教育委員会を中心とする実行委員会の設置

実 行 委 員 会 名	子 ど も 教 室	ボ ラ ン テ ィ ア	文 化 体 験	実 行 委 員 会 名	子 ど も 教 室	ボ ラ ン テ ィ ア	文 化 体 験
盛岡市子どもの居場所づくり実行委員会	5	0	0	川崎村放課後子どもクラブ実行委員会	1	0	0
くずまき子どもの居場所づくり実行委員会	2	0	0	陸前高田市	0	1	0
八幡平市地域教育力再生委員会（旧西根町）	0	1	1	住田町	6	0	0
洪民村寺子屋実行委員会（旧玉山村）	1	0	0	遠野市子どもの居場所づくり実行委員会	1	0	0
紫波町教育振興運動推進委員会	4	0	0	宮守元気アップクラブ実行委員会（旧宮守村）	2	0	0
矢巾町教育振興運動地域子ども教室推進事業実行委員会	1	0	0	釜石市子どもの居場所づくり実行委員会	1	0	0
荒屋子どもの居場所作り実行委員会（旧安代町）	1	0	0	宮古市地域子どもの居場所づくり実行委員会	2	0	0
花巻市子どもの居場所実行委員会	3	0	0	ジュニア体験広場実行委員会（田老町）	1	0	0
大迫町子どもの居場所づくり運営協議会	5	2	0	やまだ週末チャレンジ教室実行委員会（山田町）	1	0	0
いしどりやっ子体験活動推進協議会（旧石鳥谷町）	1	0	0	岩泉町子どもの居場所づくり実行委員会	2	0	0

東和町子ども体験活動推進協議会	7	0	0	新里地区子どもの居場所づくり実行委員会（旧新里村）	4	0	0
北上市子どもの居場所づくり実行委員会	3	0	1	川井村教育振興運動推進委員会	1	0	0
湯田子どもの居場所づくり実行委員会	2	0	1	久慈市地域教育力再生プラン実行委員会	6	1	0
沢内地域子ども教室推進事業実行委員会（旧沢内村）	4	0	0	普代村地域子ども教室推進実行委員会	5	0	0
水沢市子どもの居場所運営委員会	4	0	0	地域で子どもを育てる会運営協議会（旧種市町）	5	0	0
江刺市地域教育力・体験活動推進協議会	2	0	0	野田村子どもの居場所づくり運営協議会	2	0	0
ユートピア金ヶ崎町建設協議会	1	1	0	山形村子どもの居場所づくり実行委員会	2	0	0
前沢町地域教育力推進委員会	2	1	0	大野村教育振興連絡会議	2	0	0
南都田子どもの居場所づくり実行委員会（旧胆沢町）	1	0	0	二戸市教育振興運動推進協議会	4	2	0
一関地域・家庭教育力活性化推進委員会	4	0	0	軽米町地域教育力再生事業実行委員会	5	1	0
花泉町教育振興運動推進委員会	7	0	0	九戸村子どもの居場所づくり実行委員会	1	0	0
平泉町子ども活動推進協議会	2	0	0	浄法寺町教育振興運動推進協議会	1	0	0
大東町地域子ども教室推進委員会	1	0	0	いちのへ子ども居場所づくり実行委員会（一戸町）	1	1	0
藤沢町黄海地区子どもの居場所づくり実行委員会	1	0	0	特定非営利活動法人まつぞのスポーツクラブ（盛岡市）	2	0	0
千厩町子どもの居場所づくり実行委員会	5	0	0	特定非営利活動法人いわてマリニフィールド（宮古市）	1	0	0
東山町子どもの居場所づくり実行委員会	1	1	0	特定非営利活動法人スポレクRネットいわて（滝沢村）	1	0	0
室根村子どもの居場所づくり実行委員会	2	1	1		132	13	4

(6) 少年団活動の助長

ア 子ども会等少年団体の組織状況

（平成17年6月1日現在）

団体名	団体数	会員数
ボーイスカウト	26	1,139
ガールスカウト	14	423
地域子ども会（県子ども会育成連合会加盟分）	1,150	34,434

イ 少年団体の活動状況

団体名	主な事業	団体名	主な事業	団体名	主な事業
ボーイスカウト岩手連盟	1 指導者育成事業 2 プログラム活性化事業 3 その他	ガールスカウト日本連盟岩手県支部	1 リーダー養成講習会 2 スカウトフォーラム 3 その他	岩手県子ども会育成連合会	1 子ども会活動促進事業 2 指導者世話人研修会 3 その他

(7) 青年団体活動の助長

ア 青年団体の組織状況

団体名	団体数	会員数
県青年団体協議会	19	1,224

イ 事業内容

区 分	主 な 事 業
地域開発 実践活動	活動家研修会、青年問題研究集会、地域づくり運動事業等
第54回 岩手県 青年大会	（体育部門） 期日 7月30日～31日 場所 盛岡市、滝沢村 種目 ソフトボール、フットサル、軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、剣道、相撲、柔道 （文化部門） 期日 7月16日～17日 場所 遠野市 種目 郷土芸能、意見発表、美術、生活文化、人形劇、将棋、のど自慢、合唱

第54回 全 国 青 年 大会	期日 11月11日～14日 場所 国立競技場、日本青年館他 種目 陸上競技、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、軟式野球、ソフト ボール、卓球、柔道、相撲、剣道、弓道、水泳、綱引き、フットサル、演劇、人形劇、 合唱、郷土芸能、美術展、将棋、意見発表等
-----------------------	--

(8) 青年教室・講座

項目	開設数	参加者	内容
30人以上で 20時間以上	6教室 (2市町村)	384	1 人間関係に関すること 2 市民性、社会性に関すること
上記以外 (自立開設)	89教室 (22市町村)	4,847	3 職業、家庭に関すること 4 郷土理解に関すること
合計	95教室 (23市町村)	5,231	

(9) 青少年教育施設の利用状況

ア 運営の基本方向

次代の担い手である青少年に、恵まれた自然環境の中で魂律ある共同準活を体験させ、友情・共同・奉仕等の相互扶助の精神を養い、地域社会の発展に寄与し得る自主的で創造性豊かな青少年の育成を図った。

イ 生活方針

「規律」「友情」「共同」「奉仕」

利用者数と利用団体数

施設名	県南青少年の家	陸中海岸青少年の家	県北青少年の家
団体数	575	436	378
実人数	26,173	18,626	16,222
延人数	46,864	31,384	25,979

スケート場利用者

対象	研 修 利 用 者				普 通 利 用 者					利用者数 (A+B)
	一 般	高・ 大学生	小・ 中学生	計 (A)	一 般	高・ 大学生	小・ 中学生	幼 児	計 (B)	
利用者数	1,641	788	4,567	6,996	2,974	317	6,124	681	17,092	24,088

累計別利用者数(実人数)

		県南青少年の家	陸中海岸青少年の家	県北青少年の家
勤労 青年	地域団体・学習講座	815	223	120
	グループ・サークル	203	151	205
在 学 青 少 年	大 学 短 大	93	93	95
	各 種 学 校	187	0	90
	高 等 学 校	3,022	769	1,124
	中 学 学 校	4,400	1,882	1,473
	小 学 学 校	2,850	1,581	3,992
指 導 者	社 会 教 育	164	12	21
	学 校 教 育	1,065	471	699
	そ の 他	276	57	184
企 業 体		1,615	305	290
そ の 他		11,483	13,082	7,929
合 計		26,173	18,626	16,222

2 成人の学習活動の支援

(1) 一般成人教育

ア 学級講座（成人大学講座等）

	主体	学級数	受講者数
成人大学講座	市町村		人
	20	117	4,709
成人学級・講座	33	737	24,380
その他	25	239	15,872

イ 生涯学習ボランティア活動推進事業

県民の学習成果を地域社会における諸活動の中で生かすことのできる環境の整備に資する。

事業内容					
項 目	期 日	場 所 等	参加者	内 容	
ボランティア登録者数 1,361人		県立図書館・12生涯 学習ボランティアセ ンター		読み開かせ生涯学習全般、紙芝 居、創作活動、福祉活動等	
ボランティア登録者活 動回数 2,286回	4月～3月	県立図書館・12生涯 学習ボランティアセ ンター			
岩手県読書をすすめる つどい	2月11日	サンセール盛岡	330	・講演 ・事例発表	

ウ 成人団体活動の助長

(ア) P T A

区 分	補助対象事業	内 容	補 助 額
(社)岩手県P T A 連合会	家庭教育セミナー	・10月15日、11月12日 ・滝沢村（250人）釜石市（250人） ・講演及びパネルディスカッション	270千円
	県PTA中央研修会 （単位PTA代表者 研修会）	・7月10日 ・岩手県立大学 ・講演、パネルディスカッション（660人）	
	市町村PTA連合会	・58市町村（17年6月現在） ・青少年の健全育成	
	会報発行（3回）	・「PTAいわて」50,000部	
岩手県高等学校PTA 連合会	研究協議会	・5月31日 ・サンセール盛岡 ・研究協議（287人）	150千円
	会長研修会	・10月20月～21日 ・花巻市ホテル紅葉館 ・研究協議・講演（66人）	
	事務局長研修会	・11月10～11日 ・花巻市ホテル紅葉館 ・研究協議・講演（68人）	
	母親委員研修会	・7月12日 ・ホテルルイズ ・研究協議・講演（258人）	
岩手県国公立幼稚 園PTA連絡協議会	研究大会	・6月30日・ ・軽米町農村環境改善センター ・講演、分科会（266人）	150千円
	ブロック研修会	・6月～11月 ・6ブロック ・講演、実践交流会（572人）	
	会報発行（1回）	・300部×1回	

(1) 岩手ユネスコ協会連盟

事業名	実施期日	実施場所	対象及び人数		事業内容
			対象	人数	
2005東北ブロック・ユネスコ活動研究大会 岩手県大会 in 大船渡	10月15日 ～ 16日	大船渡市	東北・県ユネスコ協会会員、その他関係者	327名	記念講演「悲しみを希望に」 国連ボランティア名誉大使 中田武仁氏 分科会（4分科会）
ユネスコ活動顕彰事業（第10回いわてユネスコ賞）	10月7日 10月～11月	サンセール盛岡（選考） 県内各所（表彰伝達）	ユネスコ賞選考委員会	7名	科学賞： 県立広田水産高等学校、県立盛岡農業高等学校、県立宮古水産高等学校 文化賞： 北上市立岩崎小学校、一戸町立一戸南小学校、県立水沢農業高等学校 活動奨励賞： 一戸町立一戸中学校、陸前高田市立竹駒小学校、盛岡市立厨川小学校、北上市立飯豊中学校、県立黒沢尻工業高等学校
国際交流活動研修会	2月2日～3日	国立岩手山青年の家	ユネスコ関係者、高校教員、行政担当者等	88名	講演 「高校生にできることやるべきこと」 太田原 弘氏 分科会 「環境」「国際貢献」「多文化共生」「識字」 全体発表
高校ユネスコ活動充実事業	8月3日～6日	広島市 国立江田島青年の家	県内高校生	5名	第51回全国高等学校ユネスコ大会に 県高文連国際理解専門部ユネスコ専門委員会と生徒を派遣
国際理解・国際協力のための 高校生の主張 コンクール	9月28日	盛岡市勤労福祉会館	県内の高校生	80名	最優秀賞： 「世界平和と国連」～世界に「真」の橋を架けるために～ 県立盛岡第一高等学校2年 大久保 貴裕 優秀賞： 「世界平和と国連」～ラン科植物の増殖から学んだ世界平和の大切さ～ 県立盛岡農業高等学校2年 齋藤 俊 優良賞 「世界平和と国連」 県立盛岡商業高等学校2年 菅原 聡子 「日本の常任理事国入りについて」 ～好きといえること～ 専修大学北上高等学校3年 庄子 美香 「世界平和と国連」 県立水沢農業高等学校3年 佐々木 普美
国際理解作文コンテスト	9月中旬審査	県国際交流プラザ	県内の中学生	9校	最優秀賞大船渡市立吉浜中学校2年 柏崎 彩子 「世界平和と国連」優秀賞 二戸市立金田一中学校2年 伊藤 美香 「国際協力と日本」優良賞 遠野市立青笹中学校3年 佐々木 綾 「国際協力と日本」奨励賞 二戸市立金田一中学校2年 尾形 瑞紀 「国際協力と日本」

ユネスコ国際理解推進講師派遣事業	6月8日	宮古市	宮古ユネスコ協会等	60名	「花輪の殿様を語る」 澤内建志
	7月23日	浄法寺町	浄法寺ユネスコ協会	30名	「夢高くして足地にあり」 安藤 厚
	11月17日	花巻市立花巻中学校	中学生、教職員、一般、ユネスコ協会員	600名	「日本人の歴史認識と中国人の歴史認識」 毎日新聞論説委員 金子秀敏
ユネスコ運動普及奨励事業	5月1日 8月17日 12月26日	県内及び東北大会にて配布	ユネスコ協会、各種団体、教委、公民館等	各300部	会報発行第8号、第9号、第10号発行
全国大会準備	各月1回 2月18日	花巻ユネスコ会館等 サンセール盛岡	日本ユネスコ協会役員、 県ユネスコ協会、花巻ユネスコ協会役員	各回 約20名 33名	第62回全国大会準備 講師の決定、企画、運営の検討、全国案内 第2回運営委員会の開催
市町村ユネスコ活動促進	年間	紫波町	国際交流関係者、市町村ユネスコ関係者		新たなユネスコ協会の設立拡充 市町村ユネスコ活動の活性化

(2) 女性教育

女性の地位向上と充実した人生の創造のため、多様で高度な学習機会を提供するとともに、女性の持つ豊かな感性を地域づくりに役立てる社会参加を促進した。

また、自主的な団体活動を促進するための指導者の養成に努めた。

ア 男女共同参画セミナー

女性の自立と社会参加を促進し、新たなライフスタイルに沿った生涯学習への取り組みを推進するため、市町村における女性教育の指導者養成を図るとともに、男女共同参画社会の形成に資する。

期日・会場・参加者

9月7日

県生涯学習推進センター

内容

- ・講義
- ・ワークショップ
- ・シンポジウム
- ・意見交流等

イ 女性学級・講座

女性のライフスタイルや家庭生活の変化に伴い、女性の学習志向が一層高まり、婦人問題、生活上の課題を中心に、市町村を主体として計画的な学習が一定期間にわたり、継続して行われた。

学級・講座開設状況

区 分	市町村	学級数	学級生
女性学級・講座	35	572	27,250人
その他	18	128	5,678人

ウ 女性団体活動の助長

本県の女性団体は、女性の地位と福祉の向上及び相互の連携を図ることを目的とし、岩手県婦人教育連絡協議会を組織している。なお、県教育委員会は、岩手県地域婦人団体協議会が行う社会的、公共的に意義のある事業に対してその経費の一部を補助し、また、その団体の自主性を尊重しつつ求めに応じて助言指導を行うなど、その活動の助長を図った。

平成17年度の組織状況		
団 体 名	単 位 団体数	会 員 数
岩手県地域婦人団体協議会	50	14,000

指導者研修及び活動

・リーダー研修会

期日・会場・参加者

7月13日～14日 青少年会館 150人

(内容)

講演 「政治・世相あれこれ」元岩手日報編集委員佐藤 剛

ワークショップ 「広げよう 婦人会活動の輪を」、パネルディスカッション

大会

・岩手県婦人大会第50回記念大会

期日・会場・参加者

10月5日～6日 ホテル紅葉館(花巻温泉) 450人

(内容)

記念講演「少年から学んだこと」

盛岡少年院 院長 松本 哲 リレートーク「婦人会活動の今間で・現在・これから」

3 高齢者の学習活動の支援

ア 高齢者学級・講座

高齢者の高度で多様なニーズに対応するため、各市町村において現在の課題に関する講座や世代間交流事業などが、一定期間にわたり、継続して行われた。

区 分	市町村	学級数	学級生(人)
高齢者学級・講座	42	638	46,497
そ の 他	17	117	17,436

イ いわてシルバーカレッジ

高齢者に対して、総合的で体系的な学習機会を提供するとともに、高齢者の交流を深め、地域活動の指導者として資質を養成し、高齢者の社会参加型活動の促進に資するため、いわてシルバーカレッジを開設した。

会場

a 県央キャンパス 国立岩手山青年の家

b 県南キャンパス 県立県南青少年の家

c 沿岸キャンパス 県立陸中海岸青少年の家

d 県北キャンパス 県立県北青少年の家

期間

6月～1月(2泊3日×7回)

県外研修(2泊3日×1回)

受講者

a 県央キャンパス 108名

b 県南キャンパス 158名

c 沿岸キャンパス 125名

d 県北キャンパス 73名

4 視聴覚教育

教育関係者には、視聴覚教材、機材を適切に活用し、学習効果を高めるとともに、放送など視聴覚メディアの活用と併せ、メディアの研究開発による教育の機会の拡充を図ることが要請されている。

指導者養成に当たっては、機器の操作や指導方法等について、専門的研修を実施し、指導法の浸透を図った。

ア 視聴覚教育指導者研修(社会教育関係)

視聴覚教育総合全国大会(東京都)

8月27日 1名参加

イ 視聴覚ライブラリー専任職員研修会

6月23日～24日

県立生涯学習推進センター

12名参加

ウ 16ミリ映写機操作技術講習会

教育事務所	回 数	修了者数
盛 岡	4	68
花 巻	3	31

北 上		
水 沢	3	33
一 関		
千 厩		
大 船 渡	1	7
遠 野	1	5
釜 石		
宮 古	1	11
久 慈	0	0
二 戸	1	6
計	13	156

エ 教材フィルム利用状況

A V L	利用状況（本）	観覧音数（人）
中 央	1,552	32,788
中 部	575	15,037
県 南 第 一	856	26,981
沿 岸 第 一	118	6,427
沿 岸 第 二	248	4,481
久 慈 市	129	5,342
県 北 第 二	265	7,961
二 戸	637	8,974
合 計	4,380	107,991

第3節 生きがいをはぐくむ社会教育推進体制の充実

1 指導体制の充実

(1) 人的体制

ア 社会教育主事派遣事業

市町村における社会教育の充実、振興を図るため、市町村教育委員会の求めに応じて、必要と認められる場合、県が社会教育主事を派遣するもので、昭和49年度から実施している。派遣期間は1市町村2年を原則として計画的に派遣している。

派遣社会教育主事は、現在12人（うちスポーツ担当2人）を12市町村に派遣しており、市町村の社会教育行政に関する事務に従事しながら、専門的立場で助言、指導を行っている。

人員	派遣先市町村（スポーツ担当を除く）
10人	西根町、東和町、沢内村、千厩町、平泉町、住田町、川井村、野田村、山形村、大野村

イ 専任社会教育主事等の配置

社会教育活動を総合的、効果的に推進するため市町村に社会教育主事が43人、社会教育指導員が65人配置されている。

(2) 現職教育

県民の学習要求が高度化・多様化、社会教育関係職員の専門性が一層強く求められてきており、現職教育は重要な領域となっている。

ア 新任社会教育関係職員研修講座

(ア) 期日・会場・参加者

5月12日～13日

県立生涯学習推進センター 131人

(イ) 内容

生涯学習及び社会教育に関する基本的な事項及び職務に関する研修

イ 生涯学習推進専門研修講座

(ア) 期日・会場・参加者

6月29日～30日

県立生涯学習推進センター

プログラム作成コース 25人

生涯学習推進計画コース 17人

(イ) 内容

- ・新規事業や学習プログラムの立案・展開・評価に関する研修
- ・推進計画策定のための諸条件や施策の体系化・構造化に関する研修

ウ 地域と学校の連携セミナー

(ア) 期日・会場・参加者

6月10日

県立生涯学習推進センター

104人

(イ) 内容

生涯学習の理念や地域と学校の連携の在り方に関する研修

エ 教育メディア利用専門研修講座

(ア) 期日・会場・参加者

6月22日～24日

県立生涯学習推進センター

パソコン専修コース 45人

VTR専修コース 8人

(イ) 内容

生涯学習推進や事業運営に効果的な活用を図るための各教育メディアの知識・技術に関する専門的研修

オ 社会教育指導員研修講座

(ア) 期日・会場・参加者

5月24日～25日

県立生涯学習推進センター

145人

(イ) 内容

社会教育指導員としての任務、各分野における専門的事項に関する研修

カ 公民館職員研修講座

(ア) 期日・会場・参加者

6月1日～2日

県立生涯学習推進センター

103人

(イ) 内容

公民館の経営及び事業の運営に必要な専門的知識・技術に関する研修

キ 図書館等職員研修

(ア) 新任図書館長等研修会

・研修期日 4月21日

・場所 サンセール盛岡

・参加者 9名

・研修内容 新任の図書館長及び公民館図書室等の長を対象にした図書館長としての基礎的研修
市町村立図書館等の運営と課題

(イ) 図書館新任職員体験研修

・研修期日 6月8日

・場所 県立図書館

・参加者 宮古教育事務所管内の図書館職員 14名

・研修内容 ・希望する市町村の新任図書館職員を対象に随時行う、図書館業務の基礎を習得させるための県立図書館における体験研修
・著作権・図書情報システム・施設見学等

(ウ) 図書館等初任職員研修

・研修期日 6月9日～10日

・場所 サンセール盛岡

・参加者 32名

・研修内容 ・図書館及び公民館図書室の経験年数3年未満の職員を対象にした図書館の実務に関する研修
・接遇等について
・資料の整理・著作権・図書情報システム・レファレンス

(エ) 図書館等中堅職員研修

・研修期日 7月21日～22日

・場所 サンセール盛岡

・参加者 32名

・研修内容 ・図書館及び公民館図書室の経験年数3年以上の職員を対象にした図書館の実務に関する専門研修
・資料の補修
・映像資料の選定と著作権
・児童室の運営
・生涯学習と図書館

(オ) 国立国会図書館総合目録ネットワーク参加館担当者研修会

・研修期日 9月22日

・場所 県庁

・参加者 市町村立図書館 6館 6名

・研修内容 ・県内の国立国会図書館総合目録ネットワーク新規参加館に対し、同ネットワークの概要等を習得させるための研修
・同ネットワークの概要説明及び演習

- (カ) 図書館長・公民館長合同会議兼図書館協議会委員連絡協議会研修会
 - ・研修期日 9月28日
 - ・場所 サンセール盛岡
 - ・参加者 61名
 - ・研修内容
 - ・図書館運営の今日的課題、図書館振興方策等に関する研修
 - ・市町村合併と図書館
 - ・ボランティアの活用と協同
- ク 文部科学省・国立教育政策研究所研修講座
 - (ア) 公民館職員専門講座
 - 公民館職員に求められる専門的・実践的な知識技術についての研修
 - ・期日 7月4日～8日
 - ・場所 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
 - ・内容 講義等
 - ・参加状況 2人（前沢町、生涯学習推進センター）
 - (イ) 新任図書館長研修
 - 公共図書館の管理運営の向上及び情報提供サービスの高度化を図る
 - ・期日 8月30日～9月2日
 - ・場所
 - ・（主）国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
 - ・（副）岩手県立図書館
 - ・内容 講義等
 - ・参加状況 1人（県立図書館長）
 - (ウ) 社会教育主事専門講座
 - 国の生涯学習施策についての理解をもとに研究協議を行う。
 - ・期日 9月26日～28日
 - ・会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
 - ・内容 講義・事例研究等
 - ・参加状況 1人（生涯学習文化課）
 - (エ) 社会教育事業の評価に関する研究セミナー
 - 社会教育・生涯学習における評価についての具体的・実践的な研究
 - ・期日 11月7日～11日
 - ・会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
 - ・内容 講義、演習、研究協議等
 - ・参加状況 2人（前沢町、生涯学習推進センター）
 - (オ) 生涯学習機関等の連携に関する実践研究交流会
 - 生涯学習関係機関・団体の関係者がそれぞれの実践と研究成果をもとに交流し、連携協力の推進方策について研究協議する。
 - ・期日 11月16日～18日
 - ・会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
 - ・内容 講義、事例研究等
 - ・参加状況 1人（生涯学習推進センター）
 - (カ) 生涯学習の情報化に関する研究セミナー
 - ITを活用した新しい学習サービスなど、生涯学習の情報化に関して、実践事例をもとに研究協議等を行う。
 - ・期日 10月3日～10月7日
 - ・会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
 - ・内容 講義、研究協議、事例研究、演習等
 - ・受講者数 1人（生涯学習推進センター）
 - (キ) 全国社会教育主事研究協議会
 - 都道府県・政令市の社会教育主事が一堂に会し、研究協議を行う。
 - ・期日 6月9日～10日
 - ・会場 国立女性教育会館WEC

- ・内容 行政説明、講義、研究協議、演習等
- ・参加状況 2人（生涯学習文化課）
- (7) 美術館・歴史博物館学芸員専門研修会

公私立の美術館・歴史博物館の学芸員や学芸業務を担当する専門職員等を対象に、学芸業務に関する専門的知識・技能の向上を図る研修を行い、もって美術館・歴史博物館の活動の充実に資する。

 - ・期日（2か年に分けて実施）

第1年次 平成17年2月21日～25日

第2年次 平成18年1月23日～27日
 - ・会場 京都国立近代美術館
 - ・内容 講義、研究討議等
 - ・受講者数1人（県立美術館）
- (7) 社会教育主事講習への派遣

岩手大学社会教育主事講習

 - ・期日 7月19日～8月10日
 - ・場所 岩手大学、国立岩手山青年の家
 - ・内容 講義・演習・グループ研究等
 - ・参加状況24人

市町村職員 14人

教員：小学校4人、中学校3人 高校1人

その他：2人

（スガ振、国立岩手山青年の家）

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立生涯学習推進センター

ア 運営の基本方針

本県生涯学習推進の中核機関として、県民の学習活動を支援、促進するため、生涯学習に関する情報提供、調査研究及び指導者養成等の事業を総合的、効果的に促進するとともに、市町村及び関係機関・団体との連携強化に努め、本県生涯学習の振興を図る。

イ 運営の重点

(ア) 学習情報の提供

生涯学習情報システムなど、多様なメディアを活用した総合的な学習情報の提供及び学習相談の充実に努めた。

- ・学習情報データベースの充実と生涯学習情報提供及び学習相談の充実
- ・家庭教育に関する情報提供及び相談の充実
- ・生涯学習に関する広報活動の充実

(イ) 調査・研究

生涯学習に関する各種調査を実施するとともに、生涯学習推進上の諸課題に関する研究を推進し、本県生涯学習の振興に役立てた。

- ・生涯学習及び社会教育の推進状況等に関する調査の実施
- ・生涯学習推進上の諸課題に関する研究の推進
- ・生涯学習推進研究発表会の開催

(ウ) 指導者の養成・研修

生涯学習関係職員及び有志指導者を対象とした研修を充実し、関係職員の資質の向上と指導者の養成を図った。

- ・生涯学習推進上の課題を踏まえた基本研修、領域別研修、専門研修及び課題別研修の充実
- ・有志指導者の養成研修の充実
- ・希望研修の充実

(エ) 学習機会の提供

市町村、生涯学習関係機関・団体等との連携・協力体制を整備し、広域的学習機会と情報の提供に努め、県

民の学習活動を支援促進した。

- ・連携協力体制の充実
- ・広域学習サービスの充実
- ・学習機会情報の充実

ウ 事業等の実施状況

(ア) 生涯学習情報提供システムの管理運用

- ・学習情報の提供

インターネットを活用し、各種の生涯学習情報を県民に提供した。
情報提供システムの利用状況

分 野	情 報 数	利用件数
学 習 機 会	7,313	5,950
施 設	1,517	1,622
団体・グループ	2,768	1,631
指 導 者	2,266	2,590
教 材	6,734	1,598
見 学 先	0	365
問い合わせ先	0	151
イ ベ ント	0	1,035
合 計	20,598	14,942

(イ) 学習メニューブックの発行

内容「各種講座等、学習機会の情報」 5,000部

配布先 県民

(ロ) 子どもの読書活動推進ハンドブック

内容「読書活動推進に関する事例」 2,000部

配布先 県、市町村教育委員会、関係機関及び施設等

(ハ) 生涯学習情報紙の発行

内容「推進センターや県内市町村の情報等」500部

配布先 県、市町村教育委員会、関係機関及び施設等

(ニ) 学習相談事業「マナビコール」

生涯学習の推進に関する事業や学習活動に関する相談

開設日 月曜～金曜

時間 9:00～17:00

対象 県民、県、市町村教育委員会、関係機関及び施設等

利用件数 196件

(ホ) 子育て相談「すこやかダイヤル」

子育てに関する悩みや不安について電話及び面接による相談

開設日 月曜～金曜

時間10:00～17:00

(上記以外は、留守番電話及びFAXによる対応)

対象 県民、県、市町村教育委員会、関係機関及び施設等

相談件数 929件

(ヘ) テレビ放送

名称「いわてっ子ばんざい」

放送 土曜日 17:15～17:30

15分×12回

(コ) 調査・研究

- ・三つの研究テーマについて取り組み、成果を研究報告書「いわての生涯学習」として発行した。
研究項目及びテーマ

・研究発表会

期日 平成18年2月14日～15日

区 分	研 究 主 題	研 究 目 的	研究期間
生涯学習援助システムに関する研究	学習情報提供・相談システムの在り方に関する研究	生涯学習情報提供システムによる県民への情報提供サービスを充実するため、国、県、市町村の各施設や関係機関・団体とのネットワーク化の方策を探る	16～17年度
生涯各期の学習課題及び学習プログラムの開発に関する研究	青少年の自然体験学習プログラムに関する研究	青少年の学習課題を把握し、それに対応した自然体験学習プログラムを探る	17～18年度
生涯学習の基盤整備に関する研究	生涯学習推進のための民間との連携に関する研究	多様な学習活動に対応するため、民間との連携による効果的な事業推進の在り方について探る。	17～18年度

参加者 256人（延べ390人）

(ケ) 生涯学習推進センターの利用状況及び県市町村の関係職員及び有志指導者を対象とした各種研修事業の実施状況は、以下のとおりである。

施設利用状況

項 目	事業・団体数	人 数
主 催 事 業	51	3,567
随 時 研 修	5	237
施 設 利 用	25	2,545
視 察	1	17
そ の 他	0	0
計	82	6,366

各種研修の実施状況

区 分	研修・講座名	定員	受 講 者 数
基本研修	新任社会教育関係職員研修講座（2日）	60	70 (131)
	社会教育指導員研修講座（2日）	80	86 (145)
	地域教育力再生事業担当者・指導者研修会	前期（1日） 後期（1日）	200 206 (206) 200 191 (191)
	高齢者教育指導者研修会（2日）	60	43 (57)
	子育て支援ネットワーク研修会（1日）	122	95 (95)
	家庭教育子育て電話相談員研修会（2日・2回）	-	7 (14)
	地域と学校の連携セミナー（1日）	70	104 (104)
領域別研修	生涯学習情報提供システム担当者研修会	第1回（1日） 第2回（2日） 第3回（1日） 第4回（1日） 第5回（1日）	15 15 15 15 15 74 (83)
	岩手県社会教育主事・公民館職員研修会（1日）	-	40 (40)
	岩手県視聴覚教育協議会専任職員等研修会（2日）	-	12 (21)
	岩手県社会教育委員・公民館運営審議会委員研修会（1日）	-	135 (135)
専門研修	事業・プログラム開発専門研修講座（2日）	30	13 (25)
	生涯学習・社会教育推進計画専門研修講座（2日）	30	9 (17)
	教育メディア「パソコン」専門研修講座（3日）	20	17 (45)
	教育メディア「VTR」専門研修講座（3日）	20	5 (8)
課題別研修	男女共同参画セミナー（1日）	120	175 (175)
	心豊かな人づくりフォーラム（1日）		

区 分	研修・講座名			定員	受講者数
養成研修	家庭教育子育てサポーター養成講座	センター会場	第1回(2日)	20	38 (281)
			第2回(2日)	20	
			第3回(2日)	20	
			第4回(2日)	20	
	二戸会場	第1回(2日)	15	11 (37)	
		第2回(2日)	15		
希望研修	随時研修			-	3,719
	出前研修			-	1,302
岩手県生涯学習推進研究発表会(2日)				200	256 (390)
計					6,608 (7,221)
受講者数()は延べ数					

学習機会の提供(広域学習サービス事業「いわて学びらんど」)

区 分	研修・講座・名		定員	受 講 者 数	
広域学習サービス事業	いわて学講座（１日・10回）		60	194	(948)
	推進センターセミナー	なるほどパソコンセミナー（２日・３回）	各15	46	(46)
		なるほどマナビセミナー（１日・３回）	各30	24	(24)
	移動講座（１日）	宮古地区（田野畑村会場）	50	62	(62)
		二戸地区（九戸村会場）	50	31	(31)
		大船渡地区（大船渡市会場）	50	184	(184)
計				541	(1,295)
受講者数()は延べ数					

(2) 県立図書館

ア 運営方針

生涯学習推進の中核的施設としての使命を踏まえ、より広範な資料の収集に努め、県民の多様で高度な学習要求に迅速かつ的確に対応するとともに、情報化・国際化・生涯学習社会の到来等、時代や社会の変化に対応したサービスの提供に努める。

また、県内読書施設、関係機関、団体等との連携を強化するなど、「図書館の図書館」としての機能の充実に努めるとともに、本県教育の推進と文化の振興に寄与する。

イ 重点項目

(ア) 運営体制の充実と広報活動の推進

「図書館の図書館」としての機能を十分発揮するため、司書等専門職員の積極的養成を図るなど、運営体制の充実に努めるとともに、図書館活動の情報を多くの県民に広く提供するため、館報の発行、ホームページや報道機関を通じた広報の充実を図る。

また、今年の秋に竣工予定の新しい「岩手県立図書館」への移転に万全を期する。

(イ) 図書資料、視聴覚資料の収集・整理・保存と活用

収集方針に基づき、図書資料及び視聴覚資料を収集し、その保存と活用に努める。

特に、郷土資料については、網羅的な収集・保存に努めるとともに、その他の資料についても、新館の開館に向けて蔵書の整備・充実に努める。

また、図書情報システムにより資料の検索や利用手続きの簡素化を図るとともに、貸出・返却などのカウンター業務に民間活力を導入するなど、利用しやすい環境づくりに努める。

(ロ) 相談機能の強化、調査研究の推進

県民のニーズに応えレファレンス機能を強化するとともに、二次資料の作成等書誌情報を積極的に提供するなど、県民の生涯学習の支援に努める。

(ハ) 学習機会の提供

展示会等各種学習機会を提供し、開かれた図書館として利用の促進に努める。

また、図書館ボランティア活動を支援し、県民の学習活動成果の積極的な活用を図る。

(ニ) 市町村支援と職員研修の充実

協力レファレンス、図書資料・視聴覚資料の団体・協力貸出及び施設運営の助言指導等を通し、市町村立図書館等を積極的に支援するとともに、図書館資料等の搬送体制を整備し、県内全域に及び図書館サービスの向上に努める。

また、市町村立図書館等の職員研修等を実施し、職員の資質の向上を図るとともに、学校図書館等の職員研修にも積極的に対応し、市町村支援に努める。

(ホ) 読書推進活動の促進と関係機関団体との連携

「岩手の読書週間」を中心に、県民の読書活動を促進するとともに、関係機関・団体との連携を強め、読書推進活動の質的向上に努める。

また、「いわて子ども読書推進プラン」の推進を図る。

ウ 県立図書館協議会開催状況

区 分	期 日	協 議 事 項
第 1 回	10 / 7	新館に対応した図書館資料の利用に関する基本方向について 新県立図書館の管理運営について
第 2 回	3 / 10	新県立図書館の運営方針について 新県立図書館の事業体系及び指定管理者との業務分担について 新資料収集方針の制定について

エ 施設・設備の整備

施設、設備の維持修繕に努めた。

オ 図書資料の収集

岩手県立図書館資料収集方針に基づき、図書資料を収集した。

なお、図書資料の収集に当たっては、新刊図書情報や新聞・雑誌などの情報に基づき購入したほか、寄贈の受入れを行った。

また、行政資料、郷土資料及び本県出身者の著作は、網羅的な収集に努めた。

(フ) 図書資料

区 分	購 入	寄 贈	除 籍	年度末総冊数
館 内 用	2,987 冊	6,481 冊	272 冊	490,244 冊
団 体 貸 出 用	10,379 冊	-	28 冊	123,222 冊
計	13,366 冊	6,481 冊	300 冊	613,466 冊

(イ) 新聞・雑誌

3,968 タイトル

(ウ) マイクロフィルムの整備

区 分	数 量
・岩手日報（平成 17 年）	20 巻
・官 報（平成 17 年）	33 巻

カ 利用者サービス

(フ) 利用状況（平成 17 年度は 12 月 1 日から 3 月 31 日まで新館移転作業のため休館）

区 分	人 数
入 館 者 数	179,829 人
館 外 貸 出 登 録 者 数	2,711 人
館 外 貸 出 冊 数	64,469 冊

(イ) 参考調査業務

電話、口頭、メール又は文書による質問に対応しているものや図書相談に応じているもので、延べ 2,613 回（県内 1,923 回、県外 690 回）あった。

(ウ) 二次資料の作成

参考調査業務の能率化を図るため、次の二次資料を作成した。

- ・岩手日報記事索引
- ・レファレンス事例集
- ・郷土関係雑誌目次集
- ・岩手県関係文献目録
- ・県人台帳
- ・書評多掲載図書一覧

- ・啄木、賢治文庫目録
- ・主な文学賞受賞図書一覧
- ・県内新聞雑誌所蔵目録

キ 市町村への支援協力

図書資料の協力貸出・団体貸出等により、市町村立図書館等の自主的な活動を支援するとともに、全県的な図書館サービスと読書普及活動の推進を図った。

(ア) 図書資料の相互貸借

貸し出しは 527 件、934 冊、借り受けは 179 件、256 冊であった。

(イ) 団体貸出

利用施設は 30 団体、延べ 45,757 冊であった。

(ウ) 展示資料の施設貸出

県立図書館で展示した図書資料を、一定期間を定め、希望する市町村立図書館へ貸し出した。

「大型絵本展」「賢治資料展」「文学賞受賞図書展」「手づくり絵本展」他展示資料

延べ 64 館 383 点

(エ) 県立図書館等実態調査

県内図書館、公民館等の図書施設の実態を把握するため平成 17 年 4 月 1 日現在で調査した。

ク 視聴覚資料

(ア) 資料の収集

区 分	購 入	寄 贈	自 作
1 6 mm 映 画 フィ ル ム	1 本	0 本	0 本
ビ デ オ テ ー プ	439 本	60 本	0 本
D V D	656 枚	32 枚	0 枚
C D	2,297 枚	148 枚	0 枚
レ コ ー ド	0 枚	0 枚	0 枚
録 音 テ ー プ	0 本	0 本	0 本
レ リ ー フ ・ 工 芸 画	0 本	0 本	0 本

(イ) 利用状況

区 分	利 用 点 数
1 6 mm 映 画 フィ ル ム	43 点
ビ デ オ テ ー プ	16,090 点
D V D	1,587 点
C D	0 点
レ コ ー ド	0 点
録 音 テ ー プ	0 点
レ リ ー フ ・ 工 芸 画	34 点

(ウ) 図書館映画会

平成 17 年度は、移転作業のため休止した。

ケ 集会・展示事業

区 分	開 催 期 間
第 47 回 こどもの読書週間	4 / 23 ~ 5 / 12
2005 雑 誌 愛 読 月 間	7 / 21 ~ 8 / 20
第 59 回 読 書 週 間	10 / 27 ~ 11 / 9
第 46 回 岩手の読書週間	2 / 1 ~ 2 / 14

コ 読書週間等行事

(ア) 岩手の読書週間推進標語

「きりひらく 岩手の未来 読書から」

(イ) 岩手県読書をすすめるつどい

平成 18 年 2 月 11 日

(ウ) 作品募集

区 分	応募点数	入賞点数
読 書 推 進 標 語 募 集	2,009 点	10 点
エ ッ セ イ 募 集	21 編	7 編
手 づ く り 絵 本 募 集	188 点	12 点

2月11日に開催された「平成17年度岩手県読書をすすめるつどい」の席上において表彰された。

サ 図書館職員研修

第3節 - 1 - (2) - キ参照

(3) 図書情報総合センター整備事業

新県立図書館の移転開館に向けて、図書館資料及び図書情報システムの移転作業を行った。

また、図書館資料の整備、図書情報システムの追加整備、図書館資料のデータベース化、図書館資料等搬送体制の整備を行った。

(4) 青少年の家

ア 県南青少年の家

(ア) 主催事業

- ・自然環境や地域の特性を生かした研修内容の充実を図った。
- ・ボランティアの育成と活用による研修活動の充実を図った。
- ・青少年団体リーダーの養成を図った。
- ・関連施設・団体との連携による機能の活用を図った。

(イ) 利用状況

- ・関係教育機関、団体との連携による年間にわたる効果的な利用の促進に努めた。
- ・施設開放と利用形態の多様化に対応した。
- ・親しみ易い施設運営と利用者層の拡大に努めた。

(ウ) 研修活動

- ・団体等の研修目的や活動計画に対応した弾力的な運営に努めた。
- ・研修プログラム作成のための事前協議の奨励に努めた。
- ・ボランティアの育成と活用による研修活動の充実に努めた。
- ・職員研修を計画的な推進と利用団体に対する助言・指導の充実を図った。

(エ) 環境の整備

- ・施設・設備の計画的な補修整備を行った。
- ・掲示資料等の収集と研修環境の整備を図った。
- ・施設・設備の点検と安全の確保に努めた。

主催事業

No	事業名	目的	内 容	期日・期間	対象・人数	実績
1	親子の共同体験交流事業 「かるがも親子体験教室」	様々な環境にある家庭の親子が共同体験や交流活動を行い、親子の相互理解を深め、親子の交流を通して連帯感を形成し、子育てをする仲間作りを、促進する。	第1回 親子で遊ぼう 第2回 親子で逆ぼう 第3回 親子で創ろう	6月26日 (1日) 9月3日～4日 (1泊2日) 12月10日 (1日)	幼児、小学生の子供を持つ家族 = 20家族 (40人程度)	89人 50人 61人
2	自然ワンダークラブ	四季を通して様々な活動を体験することにより、環境についての考えを深め、自然を大切にすることを育てる。	第1回 春の自然探しに挑戦 第2回 水辺の自然に挑戦 第3回 秋のきのこ狩りに挑戦 第4回 冬の自然に挑戦	6月4日～5日 (1泊2日) 8月27日～28日 (1泊2日) 10月8日～9日 (1泊2日) 2月4日～5日 (1泊2日)	小学校4年生以上中学生 = 25人 高校・大学生 ボランティア	33人 27人 29人 28人

No	事業名	目的	内容	期日・期間	対象・人数	実績
3	水と緑のフレンドシップ	異年齢集団による野外活動を通して、主体的に活動する心豊かでたくましい青少年の育成を図る。 [仲間づくりレク、キャンプ、野外炊事、創作活動]		8月1日～5日 (4泊5日)	小学校5年生以上中学生=30人ボランティア	36人
4	施設開放事業 みどりのキャンパス ふれあいフェスティバル	スポーツや創作体験・宿泊体験を通して、県南青少年の家に対する理解と親しみを撮める。 [ニュースポーツ教室、創作活動、少年サッカー大会]		10月1日～2日 (1泊2日)	定員無し ボランティア	1,752人
5	みんなdeスクラム	親子が気軽に様々な体験活動を行い、活動の喜びを共有体験しながら経験の拡大と参加者相互の交流を図る。 第1回 初夏を感じて[乗馬体験・自然体験等] 第2回 実りの秋を体験しよう! [収穫体験等]		6月25日 (1日) 10月15日 (1泊2日)	特殊学級・養護学校児童・生徒とその保護者=30人 ボランティア	24人 23人
6	冬のおもしろ体験ランド	冬の自然に触れながら、野外活動の喜びを体験するとともに、創作活動等を通じて参加者相互の交流を図る。[仲間づくり、レク、スケート、スキーハイク他、創作活動等]		1月7日～9日 (2泊3日)	小学校4年生以上 中学生=30人 高校・大学生 ボランティア	28人
7	アドバイザースタッフ 養成講座	児童・生徒の学校外活動を援助する高校生・大学生等の育成を図り、施設におけるボランティア活動を推進する。		5月7日～8日 (1泊2日)	高校生・大学生 ボランティア =30人	20人
8	集団宿泊指導研修会	宿泊研修を効果的に実施するための活動プログラムの作成と展開に必要な知識・技術についての研修を行う。 [野外活動の技術、事前指導]		5月10日 (1日)	利用団体関係者等	28人
9	いわでシルバーカレッジ [県南キャンパス]	高齢者に対して、総合的で体系的な学習機会を提供するとともに、高齢者の交流を深め、地域活動の指導者としての資質を養成し、高齢者の生きがいの充実に資する。[講義、移動研修、自主活動]		6/19～20 7/13～15 8/24～26 9/14～16 10/19～20 11/15～17 12/14～16 県外9/27 28	60歳以上の県民=100人	91 87 104 62 77 73 91 26 計611人
10	ホットタイムin県南	さまざまな体験活動を通して、余暇の充実を図る。	トレッキング 創作活動	7月6日 (1日) 12月17日 (1日)	各一般 =20名	32人 36人
11	読書ボランティア研修会	地域における読書活動の推進・向上にあたって、その活動の担い手となる中学生及び高校生の活動ボランティアを育成する。[講話、ワークショップ、情報交換、発表会]		1月28日～29日 (1泊2日)	中学生・高校生=20人	10人

イ 陸中海岸青少年の家

(ア) 主催事業

- ・活動内容の充実と参加者層の拡大に努めた。
- ・関係機関・施設等との連携事業を推進した。
- ・新規事業としての活動プログラムの開発と効果的な運営に努めた。
- ・家族ふれあいの事業の充実を図った。

(イ) 研修活動

- ・利用団体との相談体制及び事前協議を充実した。
- ・施設・設備の効果的活用と柔軟な運営を図った。
- ・冬季期間の活動プログラムの充実を図った。
- ・自然環境を生かした特色のある研修内容の普及に努めた。

(ウ) 利用状況

- ・関係機関・団体との連携強化を図った。
- ・未利用団体に対して利用促進に努めた。
- ・生涯学習活動に対応し施設運営に努めた。
- ・効果的な情報の提供と広報活動を推進した。

(エ) 環境の整備

- ・施設・設備の計画的な整備充実を図った。

- ・活動環境の保全と美化促進に努めた。
- ・情報、資料の収集整備と提供に努めた。
- ・活動エリアの施設等点検と安全確認に努めた。

主 催 事 業

No	事業名	目 的	期日・期間 募集期間	対象・人数	実績
1	五日制対応事業 わくわくサタデー	青少年の余暇利用として、創作活動や野外活動等の機会を提供し、親子のふれあいや友達、参加者相互の交流を深める。 [創作、自然体験、釣り、菓子作り、又ケート等]	4月23日 8月27日 10月15日 11月12日 12月10日 12月17日 1月28日 2月11日	小学生～ 一般家族 各30人	92人 52人 80人 103 44人 117 73人 76人 計 637人
2	読書ボランティア研修会	地域における読書活動の推進・向上にあたって、その活動の担い手となる中学生および高校生の読書ボランティアを育成する。 [講話、ワークショップ、情報交換、発表会]	11月5日～6日 (1泊2日)	中学生・高校生20人	15人
3	ワンダフルネイチャー	登山をとおりて、身近な自然に対する興味や関心を深める。親子、参加者相互の交流やふれあいを深める。	新緑の鯨山トレッキング 重茂半島・トドが崎灯台 遠野市・六角牛山	5月16日 5月29日 10月16日	小学生～ 一般家族 30人 96人 111人 52人
4	海釣り道場	自然の中で、海釣り(船、堤防)の醍醐味を滞喫する。親子ならびに参加者相互の交流やふれあいを深める。	6月11日～12日 9月10日～11日	小学生～家族一般10家族30人	64人 59人
5	イーハトーブ自然交流事業・海の子野外教室	海洋体験や野外活動をとおりて、思いやりの心や自炊を大切にすることを育む。 [テント泊、野外炊飯、いかだ体験、キャンプファイア等]	8月1日～8月5日 (4泊5日)	小学5年生～高校生	29人
	なかよし自然塾	冬季自然体験や宿泊体験を通し、逞しさや自立心・社会性を養うとともに、参加者相互の交流を図る。	1月11日～13日 (2泊3日)	小学6年生～高校生	31人
6	利用団体担当研修会	宿泊研修を効果的に行うため、プログラムの作成と展開に必要な知識・技術を習得する。[テント設営、野外炊事、創作活動、鯨山登山]	5月13日	学校、利用団体の担当者	30人
7	親子の共同体験交流事業 「家族ふれあい塾」	野外での自然体験アウトドア料理と潮干狩り 活動をとおりて、親子のふれあいを深める。どきどき親子チャレンジ 親同士の交流を通じて連帯感を醸成し、子育てをする仲間づくりを促進する。体験	5月7日～8日 (1泊2日) 7月16日～17日 (1泊2日) 11月26日～27日 (1泊2日)	原則として家族単位各回20家族60名	56人 45人 19人
8	いわてシルバーカレッジ、	高齢者に対して、総合的で体系的な学習機会を提供する。地域活動の指導者としての資質を養成し、高齢者の生きがいの充実に資する。 [講義(生活科学、産業・社会等)、移動研修創作等]	6/14～16 7/13～15 8/23～25 9/14～16 10/19～21 11/15～17 12/14～16 10/3～5(県外研修) 2/26(特別公開講座)	おおむね60歳以上の県民70人	96人 73人 85人 81人 59人 69人 85人 14人 818 計1380人

No	事業名	目的	期日・期間 募集期間	対象・人数	実績
9	マリナランド陸中 「感謝まつり」	施設を開放し、ニュースポーツ、野外活動、創作活動等の体験を通して、生涯学習の拠点施設としての理解を深めてもらう。 [創作体験、自然体験、ニュースポーツ、餅つき体験、大槌中ミニコンサート]	10月9日	制限なし	601人
10	マリナランド陸中杯交流 「ミニバスケット大会」	大会をとおり、心身の健全な発達と技能の向上を図るとともに、参加者相互の親睦・交流を深める。 [ミニバスケット交流試合]	11月27日	沿岸地区スポ少	486人
11	地域の教育力推進支援事業・ 「マリナランドやまびこキャラバン」	各地域での集会活動や各地域での教育力推進を支援するために、地域に出向き創作等を紹介し、ものづくりの楽しさ等を体験してもらう。	近隣地区については随時、周辺地区については関係機関と協議のうえ実施。	小学生～一般家族60名 宮古・釜石教育事務所管内のこどもおよび一般家族（団体等含む）	815人
12	社会参加促進団体 MVS（マリナランド・ボランティア・シニア）支援事業	社会参加活動の一環として、グランドゴルフ大会等を実施するにあたり、その円滑な事業推進のために支援を行う。創作支援等をとおり、世代間の交流を図る。 [グラウンドゴルフ大会、ゲートボール大会、IT講習会]	5月14日 9月13日 11月2日 5月25日 11月24日 2月2日 7月19日 12月2日	沿岸地域在住の概ね60歳以上の方 （ 160名 100名 は各回約10名	547人 239人 24人

ウ 県北青少年の家

(ア) 主催事業の充実

- ・自然環境や地域の特性を生かした研修内容の充実に努めた。
- ・活動プログラム（総合的な学習）の周知と実践・検証に努めた。

(イ) 研修活動の充実

- ・新しいプログラムの情報提供と指導資料の整備につとめた。
- ・職員研修の計画的な推進と利用団体に対する助言・支援に努めた。

(ウ) 利用の促進

- ・広報活動の組織的展開に努めた。
- ・親しみやすい施設運営と利用者層の拡大に努めた。

(エ) 環境の整備充実

- ・施設・設備の点検と安全の確保に努めた。
- ・活動の多様化に対応した施設・設備の充実に努めた。

主 催 事 業

No	事業名	目的・内容	期日・期間	対象・人員	実績
1	S・Sサミット	各市町村の社会教育・生涯学習関係職員が生涯学習についての具体的方策や社会教育推進上の課題などについて協議し、それぞれの地域の社会教育・生涯学習推進の推進を図る。[各市町村事業計画・創作活動等]	4月22日～23日 (1泊2日)	二戸・久慈管内及び隣接の青森県南部の市町村の生涯学習及び社会教育関係職員	24人
2	野外活動研修会・利用説明会	【前期】活動プログラムの作成と展開に必要な知識・技術についての研修を行う。 [野外活動技術、事前指導] 【後期】スケート利用団体の指導者のスケート技術の基本について [スケート利用の技術研修を行う。事前指導]	【前期】5月10日 【後期】10月28日	【前期】5月から3月までの利用団体の担当者 【後期】11月から3月までのスケート利用団体担当者	47人 24人

№	事業名	目的・内容	期日・期間	対象・人員	実績
3	子育てエイジのワイワイ研修会	子育て中野母親の悩みや、疑問等について、研修を通し解決の方法を図るとともに、親同士の交流場を提供する〔講義、創作活動、VTR視聴、情報交換会、ワークショップ、野外自炊、散策〕	8月27日～28日 (1泊2日)	小学校1年～3年の子を持つ母親 30人	11家族 31人
4	ステラパルの日	県北青少年の家を開放し、生涯学習の拠点として青少年の理解と親しみを深めてもらう。	【施設開放の日】 9月23日 【スケート場無料開放の日】 11月3日 3月26日 【氷上フェスティバル】氷上綱引きをと おして、冬期間の運動不足の解消と青少年の健全育成を図る。 2月19日	子どもから大人まで 子どもから大人まで 子どもから大人まで	634人 850人 154人
5	夏休みまるごと体験教室	恵まれた自然環境の中での野外活動や異年齢集団での多彩な活動を通して、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、活動意欲に満ちた青少年の育成を図る。	7月28日～31日 (3泊4日)	小学校4年生～6年生 30人	42人
6	親子で冬をまるごと体験	恵まれた自然環境の中で親子が拳動体験や交流活動を行い、親子の相互理解を深めるとともに、親同士の交流を通して連帯感を形成し、子育てをする親の仲間づくりを促進する。	1月28日～29日 (1泊2日)	小学校1年生～6年生とその親 30人	6人
7	わんぱく広場	豊かな野外活動を体験しながら、自然に対する理解を深めるとともに、友達や親子のふれあいを深める。	6月11日	子どもから大人まで100人	65人
8	プラネ星空コンサート	春夏秋冬の星座を広く紹介し、青少年の家への理解と親しみを深めてもらう。	4月30日 5月1日 7月2日 7月3日 10月8日 10月9日 12月17日 12月18日	子どもから大人まで120人	85人 95人 30人 26人 中止 中止 32人 62人
9	プラネタリウム天体観測の夕べ	夏の星座についての知識を得、実際に観察することにより、天文学に対する興味を喚起し、豊かな感性を育てる。	8月5日	子どもから大人まで30人	24人
10	ジェエアフォレスト大作戦	森林に関する学習や体験活動等を行うことにより、自然を大切にする心と環境の健全保護に向かおうとする実践意欲を育てる〔・・・自然観察、野外炊事、環境保護活動体験等〕	5月14日～15日 10月1日～2日 1月7日～8日	小学校4年生～小学校6年生30人	23人 41人 41人
11	いわてシルバーカレッジ 〔県北キャンパス〕	高齢者に対して、総合的で体系的な学習機会を提供するとともに、高齢者同士の交流を深め、地域活動の指導者としての資質を養成し、60歳以上の高齢者の生きがいの充実に資する。 〔講話、移動研修、実技、自治会活動等、県外研修〕	6月14日～16日 7月12～14日 8月9日～11日 9月13日～15日 11月15～17日 12月13～15日 1月17日～19日 10月11～13日 (県外研)	60歳以上の県民100人	57人 53人 50人 45人 46人 39人 50人 9人
12	読書ボランティア研修会	地域における読書活動の推進・向上にあたって、その活動の担い、主体となる中学生及び高校生の読書ボランティアを育成する〔講話、ワークショップ、情報交換、発表会〕	7月9日～10日 (1泊2日)	中学生・高校生20人	14人

(5) 市町村の社会教育施設

ア 公民館

(ア) 施設

	本 館			分 館
合 計	計	中央館	地区館	計
428	271	34	237	157
公民館未設置市町村数				3村

公民館を設置していないのは、田野畑村、普代村、野田村の3村で、それぞれコミュニティセンター等関連施設を活用して社会教育諸活動を実施している。

(イ) 職員

社会教育活動の中心的役割を果たす公民館職員は、本務・兼務合わせて482人である。1館当たり平均1.13人で、市町村合併の関係もあり、昨年と比べ0.05人増加している。しかし、そのうち兼務職員は210人であり、依然として兼務職員に頼る傾向が強い。

(17.10.1現在)

区 分	計(職員数)	館 長	補佐・係長	社会教育主事	主 事 等
中 央 館	計 141人	27	43	16	55
	本 務 61	8	17	4	32
	兼 務 80	19	26	12	23
地 区 館	計 314	112	114	2	100
	本 務 207	75	70	2	60
	兼 務 107	37	44	0	40
分 館	計 27	24	0	0	3
	本 務 4	4	0	0	0
	兼 務 23	20	0	0	3
合 計	計 482	163	157	18	158
	本 務 276	87	87	6	92
	兼 務 210	76	70	12	66

(ウ) 第53回岩手県公民館大会

生涯学習社会の構築が求められ、公民館の果たすべき役割がますます重要になってきている今日、広く県内の公民館関係者や社会教育関係者が一堂に会し、今後の公民館のあり方や具体的な運営方策など今日的な課題について話し合い、研究を深めることにより、本県公民館活動の新たな展開を図るため、次のとおり開催した。

○期日・会場

7月14日～15日

久慈市文化会館(アンバーホール)

○分科会

第1分科会 公民館の管理と運営

第2分科会 生涯学習社会における公民館活動

第3分科会 これからの公民館事業の展開

第58回優良公民館の表彰

○一関市立油島公民館

地域の教育振興運動連絡会議の事務局として、「親子読書」「公民館・学校図書館の利用促進」等、青少年の健全育成の中心的な役割を担っている。家庭教育学級の成果として、「絵本のメリーゴーランド」と称し、絵本を持ち回りしての読み聞かせ活動を油島小学校に通う全ての家庭で進めている実践が評価された。

○盛岡市都南公民館

少子高齢化等、現在の社会的な課題を的確に捉え、これに対応した各種講座を開設し、市民に生涯学習の機会を提供するとともに、文化会館併設館としての特色を生かし、少年少女合唱教室や市内の合唱団体が集う合唱祭、思い出の校歌を歌う会を開催するなど、芸術文化活動の伸展にも力を注いでいる実践が評価された。

(6) 県立博物館

岩手県立博物館は、本県における教育、学術及び文化の発展と、新しい郷土を築く県民意欲の高揚に寄与することを基本姿勢として運営に努めてきた。本年度は、「義経展」ほか企画展、テーマ展、移動展の開催、各種講演会、セミナーの開催など、館の内外にわたる積極的な活動を展開した。

ア 博物館協議会開催状況

- ・平成17年度岩手県立博物館協議会
期 日 平成18年2月15日（水）
会 場 岩手県立博物館会議室
報告事項 ・指定管理者の指定について
・平成17年度博物館事業実施状況について
審議事項 ・平成18年度博物館事業実施計画について

イ 平成17年度利用状況

区分 月別	個人利用				団体利用				免除利用				総利用人員				開館 目数	1日 平均利 用 人月
	一般	高大 学生	小中 学生	計	一般	高大 学生	小中 学生	計	一般	高大 学生	小中 学生	計	一般	高大 学生	小中 学生	計		
4	936	39	341	1,316	94	0	0	94	404	35	235	674	1,434	74	576	2,084	26	80
5	1,375	70	462	1,907	201	28	16	245	568	40	1,287	1,895	2,144	138	1,765	4,047	26	156
6	760	15	213	988	55	0	0	55	689	53	670	1,412	1,504	68	883	2,455	26	98
7	3,122	119	754	3,995	448	33	115	596	935	87	590	1,612	4,505	239	1,459	6,203	27	230
8	11,418	487	2,044	13,949	953	21	34	1,008	2,554	527	230	3,311	14,925	1,035	2,308	18,268	26	677
9	4,614	176	783	5,573	769	0	3	772	1,409	0	558	1,967	6,792	176	1,344	8,312	17	489
10	948	38	434	1,420	202	0	21	223	429	27	273	729	1,579	65	728	2,372	26	88
11	882	63	520	1,465	415	0	0	415	1,245	23	370	1,638	2,542	86	890	3,518	26	135
12	358	35	178	571	44	46	0	90	380	5	141	526	782	86	319	1,187	24	51
1	508	35	316	859	0	0	0	0	268	0	91	359	776	35	407	1,218	24	53
2	651	23	281	955	186	0	29	215	474	0	208	682	1,311	23	518	1,852	24	74
3	1,031	64	609	1,704	50	0	0	50	420	1	275	696	1,501	65	884	2,450	27	94
計	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501	39,765	2,090	12,081	53,966	299	180

ウ 博物館活動

(ア) 資料の収集保管活動

- ・資料の収集整理
平成17年度の資料登録数は、5,361点で、これについての受け入れ、登録事務を行った。

平成17年度資料登録状況

	地質	生物	考古	歴史	民俗	計
16年度末 累計	8,178	84,835	29,276	20,934	14,301	157,524
17年度計	148	1,694	1,242	2,248	29	5,361
計	8,326	86,529	30,518	23,182	14,330	162,885

- ・資料の貸出状況
他の博物館、美術館などに展示や研究等の目的で貸出した資料は、次のとおりである。
地 質 アサヒトアガキ 一種複製ほか 14点
考 古 大台野遺跡出土旧石器レプリカほか 132点
歴 史 太刀ほか 64点
民 俗 雛人形ほか 45点
- ・文化財科学
資料の保存と活用のため、適切な環境の維持、調整に努め、また、資料の保存管理のために必要なくん蒸消毒と科学的保存処理を行った。

(イ) 調査研究活動

博物館における調査研究活動は、共通テーマのほか地質、考古、歴史、民俗、生物、美術、文化財科学の各分野ごとに行う研究テーマと全分野で取り組む総合調査とがあり、平成17年度は31テーマについて年次計画に従い研究を進めた。

平成17年度調査研究テーマ

分 野	詞 査 研 究 テ マ
地 質	「北上山地、奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究」 他 2 テーマ
生 物	「北東北三県のブナ林を中心とした森林生態系の生物相に関する研究」 他 4 テーマ
考 古	「貝塚出土遺跡の研究」他 4 テーマ
歴 史	「古代『えみし』社会とその文化の系統的位置付けについての研究」 他 4 テーマ
民 族	「岩手の相撲文化の研究」他 5 テーマ
文化財科学	「環境負荷を抑制した文化財の湿度環境保全方法の開発 他 6 テーマ

(ウ) 展示活動

・常設展示の充実

総合展示室：「古美術」等コーナー展示替え

ミュージアム・コレクション・ギャラリー：「地質」コーナー 毎月の誕生石入れ替え他

レプリカ製作：鳥獣剥製標本製作ほか

共 通：視聴覚機器・ハイビジョン設備保守点検ほか

・企画展・特別企画展・テーマ展等の開催

・特別展示等の開催

種 別	名 称	会 期
テーマ展	「えみし」社会の誕生	平成17年 3月2日(水)～5月5日(木)
テーマ展	岩手の実業家 金田一勝定・国土～ 銀行・電気・花巻温泉～	平成17年 5月21日(土)～7月3日(日)
特別展	義経展～源氏・平氏・奥州藤原氏の 至宝～	平成17年 7月23日(土)～9月4日(日)
第54回企画展	縄文北緯40°～前・中期の北東北～	平成17年10月9日(日)～11月27日(日)
テーマ展	新収蔵資料展 2003-2005	平成17年12月10日(土)～平成18年 1月15 日(日)
テーマ展	ハザードマップ～減災から共生へ～	平成18年 1月28日(土)～3月12日(日)
第55回企画展	生と死と～「死」を見つめ「生」と向き 合う	平成18年 3月26日(日)～5月7日(日)
移動展(総合型)	博物館がやってきた(浄法寺町)	平成17年11月11日(金)～11月13日(日)
移動展(パネル型)	岩手県の自然環境と絶滅危惧植物 (千厩町、一戸町、室根町)	平成17年 8月30日(火)～9月4日(日) 平成17年 9月14日(水)～9月20日(火) 平成17年11月5日(土)～11月6日(日)

(エ) 教育普及活動

・講演会、観察会等の開催

a 長期開催事業

事 業 名	実施期日	実施場所 (担当者)	参加人数	概 要
博物館セミナー 秋 期	(3回) 10月30日 11月6日 11月13日	教室 (考古部門)	のべ 104名	企画展「縄文北緯40°～前・中期の北東北～」に関連したテーマで、県内外の専門家が講演した。
県博日曜講座	4月17日～ 3月19日 (毎月第三日 曜日・12回)	講堂 (学芸第三 課)	のべ 655名	岩手県の歴史・文化や自然について、当館館長等の館職員及び外部講師のべ5名による講座を開催した。

事業名	実施期日	実施場所 (担当者)	参加人数	概要
学芸員講座	4月23日～3月25日(毎月第四土曜日・14回)	教室・講堂(学芸第三課)	のべ 280名	岩手の歴史や文化・自然について、当館学芸員による講座を開催した。
チャレンジ!博物館	第二土曜日(12回)	展示室	のべ 150名	いくつかのテーマでオリエンター与ング形式のワークシートを作成し、博物館資料に対する理解を深めた。学校5日制対応事業。
博物館どう探偵団	毎月第三土曜日(11回)	実技室ほか(学芸第三課)	のべ 184名	学芸員の調査・研究内容を子ども向けに紹介した体験型プログラム。自然系・人文系部門に分け、事前申し込み者を対象に実施した。学校5日制対応事業。
ミュージアムシアター	第一土曜日(12回)	講堂	のべ 135名	博物館資料や岩手県に関連する内容について、16ミリ映画を上映した。学校5日制対応事業。
展示解説会	日曜日を除く毎日	総合展示室(解説員)	のべ 204名	観覧者の展示に対する理解を深めるために、総合展示室の展示資料について解説した。
展示資料カード「これなあに」	毎月第一土曜日発行(12回)、24資料	総合展示室等(解説員)		展示資料に対してより詳しい理解が得られるように、資料解説シートを作成し、来館者に配布した。
体験教室「みんなでためそう」	毎週日曜日(50回)	実技室ほか(解説員)	のべ 985名	解説員及び学芸員等が、年中行事や昔の暮らしの体験、自然観察等、博物館に親しむためのプログラムを実施した。
やってみ体験	随時(計2回)	実技室(解説員)	のべ 43名	体験教室のプログラムの中から、希望団体に予約制で実施したもの。
古文書解読会	5月14日～2月11日(毎月第二土曜、計10回)	教室(歴史部門)	のべ 190名	古文書の解読の読解力を高め、古文書資料への関心や保存の意識を養うため、「南部九戸軍記」をテキストとして、解読を実施した。
古受書初心者入門講座	6月18日～7月3日、11月19日～12月4日(土・日曜、計12回)	教室(歴史部門)	のべ 153名	崩し字で記された近世史料の読解に興味関心を持つ県民を対象に、古文書読解の基礎的な力を養成する。江戸時代の寺子屋教科書や藩政史料をテキストにして古文書解読を行った。
瞳夷地目親を読む会	4月16日～3月11日(12回)	教室(歴史部門)	のべ 248名	細井計氏(東北福祉大学教授)を講師として、毎月例会をもち、将来の刊本化に備え解読を行った。(文化財愛護協会と共催)
ミュージアムいわて 地元学支援	6月7日 7月2日 8月11日 8月19日 10月16日	サンセー ル盛岡 西根町公 民館 岩手県北 青少年の家 北上市黒 沢尻東公民 館 大槌町金 沢支所	のべ 261名 71名 40名 70名 40名 40名	地域や団体、機関などの要請に応じて博物館職員を派遣し、学習の支援を行った。

b 短期間催事業

事業名	実施期日	実施場所 (担当者)	参加人数	概要
文化講演会「円筒土器文化と大木式土器文化」	11月3日 (文化の日)	講堂 (考古部門)	91名	企画展「縄文北緯40°～前・中期の北東北～」に関連して、前秋田県立博物館長富樫泰時氏による講演会を実施した。
冬期文化講演会 「カマン・カコホレック遺跡からみた中央アナトリアの文化編年」	2月2日	講堂 (文化財科学部門)	61名	文化財等取扱講習会の関連事業として、中近東文化センター主任研究員、アナトリア考古学研究所所長木村幸弘氏による講演を実施した。
第49回地質観察会 「衣川村北股川流域の地質と化石～カキやホタテが住んだ豊かな入江」	6月25日	衣川村 (地質部門)	54名	衣川村の北股川中流域において、その地層とカキやホタテなどの貝類の化石を観察した。講師島本昌憲氏(東北大学総合学術博物館助教授)、根本潤氏(東北大学総合学術博物館技官)
第50回地質観察会 「宮守のペグマタイトと蛇紋岩」	10月8日	遠野市【旧宮守村】 (地質部門)	23名	宮守において岩石と鉱物の観察を行った。案内：小向裕明氏(遠野市立博物館副館長)、前川さおり氏(遠野市立博物館学芸員)
文化財等取扱講習会	2月2日～ 2月4日	教室ほか (文化財科学部門)	のべ90名	岩手県内の市町村の文化財担当職員及び博物館・資料館等職員を対象に、文化財等の取扱に関する基礎的な知識の理解を深め、保存と公開、調査研究の一助とした。
第49回自然観察会	7月10日	岩泉町櫃取湿原 (生物部門)	18名	岩手を代表する大湿原・櫃取湿原を訪ね、植物及びそこに依存する鳥獣や昆虫などを観察した。講師：畠山茂雄氏(植物地理・分類学会会員)
第50回自然観察会	9月25日	葛巻町袖山高原 (生物部門)	23名	葛巻町袖山高原において、森を散策しながらそこに住む昆虫や植物、キノコなどを観察した。講師：佐竹邦彦氏(北上市立博物館専任研究員)
民俗講座 「南部相撲について」	11月12日	講堂 (民俗部門)	63名	藩政時代から知られている「南部の相撲」を支えた行司、藩お抱え力士、角土俵についての講演会を実施した。 講師：立谷仁氏(岩手県相撲連盟名誉顧問)
伝統芸能鑑賞会 「神楽を楽しむ会」	7月24日	講堂 (民俗部門)	110名	「義経展」にちなんだ演目を含め、県指定幸田神楽(花巻市)の上演を実施した。
岩手県内博物館等 連携事業 「いわての博物館 交流セミナー」	4回 6月5日 7月3日 10月1日 12月2日	講堂 講堂 一関市博物館 花巻市博物館	のべ80名 21名 18名 21名 20名	県立博物館学芸職員の相互交流によって、各館が個別には有していない専門分野に関しての講演等を実施した。
考古学セミナー	5月29日 6月12日	講堂 (考古部門) 北上市周辺 (考古部門)	101名 49名 12名	講演会「考古学から見た北上周辺の古代文化」 講師：沼山源喜治氏(前北市埋蔵文化財センター所長) 北上周辺の古代文化関連遺跡見学会 講師：杉本良氏(北上市教育委員会)
義経の笛を聴く会	8月25日	グランドホール	200名	「義経展」にちなみ、義経が愛用したと伝えられる同展出品中の笛を使った演奏会を開催した。奏者：赤尾三千子(フリー演奏者)
平家琵琶実演会	9月3日	ハイビジョン室	200名	「義経展」にちなみ、平家琵琶の実演講習会を実施した。 奏者：後藤光樹(故館山甲午門人)

〔参考〕博物館等設置状況

(1) 博物館法第2条の登録博物館

(18.3.31現在)

名 称	設 置 者	登録年月日	所 在 地
陸前高田市博物館	陸 前 高 田 市	昭和34年1月20日	陸前高田市高田町字砂畑61 - 1
大船渡市立博物館	大 船 渡 市	昭和41年8月1日	大船渡市末崎町大浜221 - 86 .
北上市立博物館	北 上 市	昭和50年10月7日	北上市立花14 - 59
遠野市立博物館	遠 野 市	昭和55年6月13日	遠野市東館町3 - 9
岩手県立博物館	岩 手 県	昭和55年10月1日	盛岡市上田字松屋敷34
宗教法人碧禅寺立博物館	宗 教 法 人 碧 禅 寺	昭和57年1月20日	西和賀町沢内太由3 - 32
盛岡市子ども科学館	盛 岡 市	昭和58年7月1日	盛岡市本宮字蛇屋敷13 - 1
盛岡市先人記念館	盛 岡 市	昭和62年12月4日	盛岡市本宮字蛇屋敷2 - 2
萬鉄五郎記念美術館	花 巻 市	平成2年12月11日	花巻市東和町土沢5区135
北上市立鬼の館	北上市	平成7年10月30日	北上市和賀町岩崎16 - 131
奥州市牛の博物館	奥州市	平成8年8月30日	奥州市前沢区南陣場103 - 1
社団法人深澤紅子 野の花美術館	社団法人 深澤 紅子野の花美術館	平成9年9月5日	盛岡市紺屋町4二号
一関市博物館	一 関 市	平成11年3月1日	一関市巖美町字押野々215
岩手県立美術館	岩 手 県	平成13年12月4日	盛岡市本宮字松幅12 - 3
御所野縄文博物館	一 戸 町	平成15年3月24日	二戸郡一戸町岩館字御所野2
花巻市博物館	花 巻 市	平成16年6月22日	花巻市高松26 - 8 - 1
盛岡市遺跡の学び館	盛 岡 市	平成16年9月17日	盛岡市本宮字荒屋13 - 1

(2) 博物館法第29条の博物館相当施設

(18.3.31現在)

名 称	設 置 者	登録年月日	所 在 地
岩手大学農学部 附 属 植 物 園	国	昭和27年4月17日	盛岡市上田3丁目18 - 18
宮沢賢治記念館	花 巻 市	平成3年6月26日	花巻市矢沢1 - 1 - 36
久慈琥珀資料館	久慈琥珀株式会社	平成4年3月31日	久慈市中久慈町19 - 56 - 133
陸前高田市海と貝の ミュージアム	陸 前 高 田 市	平成16年12月24日	陸前高田市高田町字下宿55
早池峰山岳博物館	花 巻 市	平成17年12月27日	花巻市大迫町大迫3 - 39

第5章 豊かなスポーツ ライフの実現

第5章 豊かなスポーツライフの実現

第1節 誰もが親しめるスポーツの振興

県民の多様化、高度化しつつあるスポーツ・レクリエーションのニーズに対応するため、「岩手県スポーツ振興計画」に基づき生涯スポーツを推進した。

また、各市町村の生涯スポーツ推進体制の整備充実に努めるとともに、スポーツ・レクリエーション人口の拡大と実践活動の一層の充実を図るため、全国スポーツ・レクリエーション祭や生涯スポーツ推進研究大会、体力づくり運動指導者研修会を実施した。

さらに、県スポーツリーダーバンク登録指導者の拡充を図るとともに、指導者の養成確保に努めた。

県民が、日常的にスポーツを行う場となる総合型地域スポーツクラブの普及推進とクラブマネージャーの養成講習会を実施した。

県、地区（教育事務所単位）の生涯スポーツ推進協議会、市町村の生涯スポーツ推進組織により各関係機関・団体等と一体となった生涯スポーツ種が実施され、成果を収めた。

1 推進体制の整備充実

(1) 平成17年度各種登録指導者数

地域スポーツ指導者	950名
競技力向上指導者	172名
商業スポーツ施設指導者	57名
レクリエーション関係指導者	1,304名
県スポーツリーダーバンク登録者	733名
県スポーツ少年団指導者	5,328名

(2) 生涯スポーツ関係事業等実施状況

事業名	期日	会場	参加者
体力づくり運動指導者研修会	6.1 6.8	一戸町 石鳥谷町	56人 70人
岩手県体育指導委員研修会	8.26～27	東山町	217人
全国スポレク祭（スポレクいわて2005）	10.1～4	県内各地	194,757人
生涯スポーツ推進研究大会	10.25	盛岡市	72人
体育・スポーツ施設管理・指導者研修会	8.24	盛岡市	36人
スポーツフェスティバル	10.9～10	県営体育施設	9,519人
スポーツ少年団認定員養成講習会	6.4～5 11.19～20	紫波町 宮古市	297人
地域スポーツ活動指導者講習会	5.19～20	北上市総合体育館	43人
冬季スポーツ活動指導者講習会	1.17～19	安比高原スキー場	13人

2 指導者の養成・確保

地域におけるスポーツの振興を図るため、県から2人の社会教育主事（スポーツ担当）を市町村に派遣した。派遣先市町村は、一戸町、浄法寺町である。

また、各種講習会、研修会等を開催し、指導者の養成確保を図るとともに資質の向上を図った。

さらに、県スポーツリーダーバンク登録指導者の養成・発掘を行い、登録指導者の拡充に努めた。

3 実践活動の推進

第18回全国スポーツ・レクリエーション祭（スポレクいわて2005）を県内18市町村で開催し、子どもから高齢者まで約20万人の参加のもと大きな成果をあげることが出来た。

また、県下各市町村においては、生涯スポーツ推進月間中にそれぞれの地域の特色ある各種スポーツ大会等が開催され、8万2,258人の県民が参加した。

県立高等学校体育施設の開放については、県内各地において13校で実施した。

さらに、市町村立学校体育施設の開放率は、小・中学校とも約90%となっており、市町村民の身近な運動、スポーツ施設として活用されている。

「体育の日」等における各種スポーツ大会への参加状況

区 分	期 日	場 所	参加者
全国スポ・レク祭（スポレクいわて2005）	10.1～4	県内各地	194,757人
各市町村スポーツ大会等	10.9 他	県下各市町村	82,258人

4 スポーツ団体の育成

スポレクいわて2005を契機として、多くのニュースポーツが普及しつつあり、それらの団体が組織化されている。

現在、岩手県体育協会傘下の競技団体となっていないスポーツ・レクリエーション団体、それらを総括する県レクリエーション協会をはじめ、約50団体となっている。

平成17年度末の総合型地域スポーツクラブの創設（準備中含む）状況は、次のとおり16市町村に44クラブができている。

（盛岡市3、雫石町2、滝沢村1、花巻市1、北上市5、奥州市4、金ヶ崎町7、一関市2、釜石市2、大槌町1、遠野市9、久慈市4、二戸市1、軽米町1、一戸町1）

5 施設の設備充実

(1) 県営体育施設の状況

県営体育施設は、本県の中心的スポーツ施設として、全国規模の大会をはじめ、全県的な各種競技会を通じて、本県スポーツの振興に大きな役割を果たしている。

県教育委員会で所管する体育施設、野外活動センターは、次の8施設であり、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減等を図るため、指定管理者制度を導入している。

県営運動公園ほか6施設は財団法人岩手県スポーツ振興事業団が、県営スキージャンプ場は八幡平市が指定管理者に指定されている。

県営運動公園

（陸上競技場、補助競技場、野球場、ラグビー場、サッカー場、テニスコート、登はん競技場、交通公園）

県営体育館

県営野球場

（グラウンド、屋内練習場、トレーニング室）

県営スケート場

県立御所湖広域公園艇庫

県営武道館

（大道場、柔道場、剣道場、弓道場、相撲場、トレーニング室）

県立高田松原野外活動センター

県営スキージャンプ場

(2) 県営体育施設、設備の整備

平成17年度は、次の施設・設備の改修工事等を行い、利用者に安全に楽しく利用してもらうように努めた。

県営体育館電気設備・機械設備改修工事

県立御所湖広域公園艇庫屋根雪止設置及びフェンス取替工事

県営運動公園陸上競技場給水設備等改修工事

県営スケート場Bリンク配管改修工事

県営野球場屋内練習場改修工事

(3) 県営体育施設の利用状況

施設名 区分	運動公園	体育館	野球場	艇庫	スケート場	武道館	セ花 ン卷 タ野 ！外 動活 動	セ高 ン田 タ松 ！原 野 外 活 動	ジス ヤ ン キ プ ！ 場
開館日数（日）	362	315	312	164	290	313	192	358	-
利用件数（件）	9,724	990	1,441	1,115	888	3,166	1,035	2,812	32
利用人数（人）	298,054	93,179	122,195	10,794	44,512	201,978	12,173	101,816	259

6 (財)岩手県スポーツ振興事業団の事業

受託事業

【事業団事務局】

			新規事業	
No	事業名	期 日	定 員	参加者
1	いわてシルバーカレッジ 県央キャンパス	6月14日（火）～16日（木）	100人	108人
	在学生 91名	7月12日（火）～14日（木）		
	聴講生 17名	8月24日（水）～26日（金）		
	修了生 20名	9月27日（火）～29日（木）		
	県外研修 31名	10月18日（火）～20日（木）		
	延べ参加数 567名	11月15日（火）～17日（木）		
	県外研修	12月6日（火）～8日（木）		
		9月13日（火）～15日（木）		

【県南青少年の家】

No	事業名	期 日	定 員	参加者
1	集団宿泊指導研修会	5月10日（火）	30人	28人
2	アドバイザースタッフ養成講座	5月7日（土）～8日（日）	30人	20人
3	みんなdeスクラム	6月25日（土）	30人	31人
	動物とふれ合おう 実りの秋を体験しよう	10月15日（土）	30人	23人
4	かるがも親子体験教室	6月26日（日）	40人	89人
	親子で遊ぼう	9月3日（土）～4日（日）	40人	50人
	親子で創ろう	12月10日（土）	40人	61人
5	自然ワンダークラブ	6月4日（土）～5日（日）	25人	33人
	春の自然探しに挑戦	8月27日（土）～28日（日）	25人	27人
	水辺の自然に挑戦	10月8日（土）～9日（日）	25人	29人
	秋のきのこ狩りに挑戦 冬の自然に挑戦	2月4日（土）～5日（日）	25人	28人
6	ホットタイムin県南	7月6日（水） 12月17日（土）	20人	雨で中止 36人
7	水と緑のフレンドシップ	8月1日（月）～5日（金）	30人	36人
8	みどりのキャンパス ふれあいフェスティバル	10月1日（土）～2日（日）	-	1,752人
9	冬のおもしろ体験ランド	1月7日（土）	30人	29人
10	冬のおもしろ体験ランド	2月11日（土）～12日（日）	30人	45人
11	読書ボランティア研修会	1月28日（土）～29日（日）	20人	10人

No	事業名	期 日	定 員	参加者
12	いわてシルバーカレッジ 県南キャンパス 在学 生 80名 聴講生 78名 修了生 31名 県外研修 26名 延べ参加数 611名 県外研修	6月19日(日)～21日(火) 7月13日(水)～15日(金) 8月24日(水)～26日(金) 9月14日(水)～16日(金) 10月19日(水)～21日(金) 11月15日(火)～17日(木) 12月14日(水)～16日(金) 9月27日(火)～29日(木)	100人	158人

【陸中海岸青少年の家】

No	事業名	期 日	定 員	参加者
1	わくわくサタデー < 5日制対応事業 >	4月23日(土) 8月27日(土) 10月15日(土) 11月12日(土) 12月10日(土) 12月17日(土) 1月28日(土) 2月11日(土)	80人 60人 60人 40人 30人 30人 30人 60人	92人 52人 80人 103人 44人 117人 73人 76人
2	ワンダフルネイチャー	5月15日(日) 5月29日(日) 10月16日(日)	100人 30人 30人	96人 111人 52人
3	海釣り道場	6月11日(土)～12日(日) 9月10日(土)～11日(日)	60人 60人	64人 59人
4	< イーハートブ自然交流事業 > 海の子野外教室 なかよし自然塾	8月1日(月)～5日(金) 1月11日(水)～13日(金)	30人 30人	29人 31人
5	利用団体担当者研修会	5月13日(金)	30人	30人
6	マリランドやまびこキャラバン 田野畑村キャラバン 近隣地区キャラバン	12月23日(金) 随時	80人 -	92人 1,110人
7	マリランド陸中杯 交流フットサル大会	3月4日(土)～5日(日)	-	480人
8	マリランド陸中杯 交流ミニバスケットボール大会	11月27日(日)	-	486人
9	家族ふれあい塾 < 親子の共同体験交流事業 >	5月7日(土)～8日(日) 7月16日(土)～17日(日) 11月26日(土)～27日(日)	60人 60人 60人	56人 45人 19人
10	中学生・高校生のための 読書ボランティア研修会	11月5日(土)～6日(日)	20人	15人
11	マリランド陸中「感謝まつり」	10月9日(日)	-	601人
12	マリランドボランティアシニア < 社会参加促進団体支援事業 >	5月14日(土) 9月13日(火) 11月2日(水) 5月25日(水) 11月24日(木) 2月2日(木) 7月と12月 随時	160人 160人 160人 100人 100人 100人 10人 -	174人 190人 197人 114人 125人 65人 6人 -

No	事業名	期 日	定 員	参加者
13	いわてシルバーカレッジ 陸中キャンパス 在学 生 62名 聴講生 63名 修了生 26名 県外研修 14名 延べ参加数 562名 県外研修 特別講座	6月14日(火)～16日(木) 7月13日(水)～15日(金) 8月23日(火)～25日(木) 9月14日(水)～16日(金) 10月19日(水)～21日(金) 11月15日(火)～17日(木) 12月14日(水)～16日(金) 10月3日(月)～5日(水) 2月26日(日)	100人	125人

【県北青少年の家】

No	事業名	期 日	定 員	参加者
1	S・Sサミット (社会教育のS・生涯学習のS)	4月22日(金)～23日(土)	-	24人
2	野外活動研修会・利用説明会	5月10日(火)	-	47人
3	スケート実技講習会・利用説明会	10月28日(金)	-	24人
4	ステラパルの日 施設開放の日 スケート場無料開放の日 氷上フェスティバル	9月23日(金) 1 11月3日(木) 2 3月26日(日) 2月19日(日)	- - - -	634人 850人 355人 154人
5	子育てエイジのワイワイ研修会	11月26日(土)～27日(日)	30人	31人
6	夏休みまるごと体験教室	7月28日(木)～31日(日)	30人	35人
7	親子で冬をまるごと体験	1月28日(土)～29日(日)	30人	6人
8	わんぱく広場	6月11日(土)	100人	65人
9	プラネ星空コンサート	4月30日(土) 5月1日(日) 7月2日(土) 7月3日(日) 10月8日(土) 10月9日(日) 12月17日(土) 12月18日(日)	60人 60人 60人 60人 60人 60人 60人 60人	85人 95人 30人 26人 中止 中止 32人 62人
10	プラネタリウム・天体観測の夕べ	8月5日(金)	30人	24人
11	ジュニアフォレスト大作戦	5月14日(土)～15日(日) 10月1日(土)～2日(日) 1月7日(土)～8日(日)	30人 30人 30人	23人 37人 34人
12	中学生・高校生のための 読書ボランティア研修会	7月9日(土)～10日(日)	20人	14人
13	いわてシルバーカレッジ 県北キャンパス 在学 生 39名 聴講生 34名 修了生 8名 県外研修 9名 延べ参加数 349名 県外研修	6月14日(火)～16日(木) 7月12日(火)～14日(木) 8月9日(火)～11日(木) 9月13日(火)～15日(木) 11月15日(火)～17日(木) 12月13日(火)～15日(木) 1月17日(火)～19日(木) 10月11日(火)～13日(木)	100人	73人

自主事業

【講習会・研修会】

No	事業名及び会場	期 日	定 員	参加者
1	アウトドアセミナー 花巻野外活動センター	5月27日（金）～28日（土）	15人	7人
2	親子創作活動のつどい 高田松原野外活動センター	12月11日（日）	60人	81人

【スポーツ教室（スポーツ一般）】

No	事業名及び会場	期 日	定 員	参加者
1	ぶらんちスポーツクラブ 県営運動公園 県営体育館 県営武道館 県営スケート場	5月11日（水）～12月22日（木） 毎週木曜日 19回 毎週木曜日 20回 毎週金曜日 20回 毎週金曜日 7回	- - - -	467人 557人 460人 123人
2	スケートレッスンタイム 県営スケート場	11月～2月 毎週 土・日曜日・祝日 計33回	-	延べ数 285人
3	スケートキッズonサタデー 県営スケート場	11月～3月 毎週 土曜日 計16回	-	延べ数 5,818人
4	銀河登山教室 花巻野外活動センター	6月25日（土） 10月1日（土） 10月12日（水）	20人 30人 20人	20人 33人 34人
5	カヤック教室 高田松原野外活動センター	7月3日（日） 8月28日（日） 9月18日（日）	25人 25人 25人	31人 33人 26人

【スポーツ教室（スポーツ体験）】

No	事業名及び会場	期 日	定 員	参加者
1	チャレンジ インディアカ 西根町総合運動公園体育館	5月28日（土）	50人	22人
2	チャレンジ バウンドテニス 大槌町城山公園体育館	6月26日（日）	50人	47人
3	チャレンジ ソフトバレーボール 大迫町民体育館	7月10日（日）	50人	28人
4	エアロビックレッスンinI W A T E 県営武道館	11月13日（日）	-	132人
5	コンピュータ体力診断 県営陸上競技場 他	4月29日（金） 6月25日（土） 8月27日（土） 10月10日（月）	- - - -	25人 41人 31人 80人
6	健康・体力づくり教室 県営体育施設ほか各市町村施設	5月～2月 計30回	-	1,657人

【スポーツ教室（武道）】

No	事業名及び会場	期 日	定 員	参加者
1	巡回相撲教室 西根町営相撲場	5月18日（水）～20日（金）	30人	34人
2	弓道教室 県営武道館 弓道場	6月20日（月）～7月21日（金） 毎週 月・木曜日 計10回	20人	23人
3	少年柔道剣道教室 県営武道館	12月24日（土）～26日（月）	100人 100人	187人 127人
4	武道教室 県営武道館 柔道 柔道場 剣道 剣道場 空手道 剣道場 合気道 柔道場 なぎなた 剣道場 少林寺拳法 柔道場・剣道場 弓道 弓道場	4月4日（月）～3月26日（日） 月・火・金曜日 月・金曜日 火・木曜日 木・日曜日 木・土曜日 土・日曜日 火・木・金曜日	- - - - - - -	4,875人 3,824人 1,324人 1,112人 1,092人 1,683人 1,829人

【野外活動（花巻野外活動センター・高田松原野外活動センター）】

No	事業名及び会場	期 日	定 員	参加者
1	春の自然観察会 花巻野外活動センター	4月29日（金）	30人	34人
2	ふれあいキャンプ 花巻野外活動センター	7月23日（土）～24日（日）	40人 30人	23人 12人
3	冒険キャンプin豊沢 花巻野外活動センター 他	8月2日（火）～5日（金）	20人	8人
4	家族ふれあいday 花巻野外活動センター	9月11日（日）	40人	8人
5	親子ふれあいキャンプin高田 高田松原野外活動センター	7月16日（土）～17日（日）	50人	29人
6	ドラマチック海遊塾 高田松原野外活動センター	8月1日（月）～5日（金）	30人	43人

【イベント】

No	事業名及び会場	期 日	定 員	参加者
1	さわやかスポーツフェスティバル 県営運動公園・県営体育館 他	4月29日（金） みどりの日	-	3,414人
2	湖上フェスティバル 県立御所湖広域公園艇庫	7月31日（日）	-	144人
3	スポーツフェスティバル 県営運動公園・県営体育館 他	10月9日（土）～10日（日）	-	9,519人
4	氷上フェスティバル 県営スケート場	12月3日（土）	-	891人
5	理事長杯 フットサル大会 県営体育館	8月5日（金）～3月24日（金） 毎週 金曜日	-	2,770人
6	高田野活スポーツフェスティバル 高田松原野外活動センター	10月2日（日）	-	786人
7	ニューススポーツフェスティバル 高田松原野外活動センター	10月10日（日）	-	639人
8	ニューススポーツ交流大会 高田松原野外活動センター	11月13日（日）	-	201人

【調査・研究】

No	事業名及び会場	期 日	定 員	参加者
1	新体力テスト結果分析と活用 県営運動公園事務局	年度内	-	-
2	利用者調査 花巻野外活動センター	年度内	-	-
3	利用者調査 高田松原野外活動センター	年度内	-	-

共催事業

No	事業名及び会場	期 日	定 員	参加者
1	岩手県武道施設等職員研修会 県営武道館	5月21日（金）	-	40人
2	岩手県青少年武道錬成大会 相撲 大槌町 剣道 遠野市 なぎなた 県営武道館	7月28日（木）～29日（金） 10月8日（土）～9日（日） 11月5日（土）～6日（日）	70人 120人 80人	62人 181人 65人
3	岩手県地域社会指導者研修会 弓道 県営武道館 柔道 県営武道館	8月20日（土）～21日（日） 1月28日（土）～29日（日）	30人 60人	41人 70人
4	岩手県体育・スポーツ施設管理・ 指導者講習会 盛岡市アイスアリーナ	8月24日（水）	-	36人

・事業参加者合計人数

№	事業種別	事業件数	定員を定めた事業		定めない事業	参加者合計
			定 員 数	参加者数	参加者数	
1	受託事業	39	3,390人	4,833人	5,551人	10,384人
2	自主事業	36	860人	890人	43,779人	44,669人
3	共催事業	7	360人	419人	76人	495人
合 計		82	4,610人	6,142人	49,406人	55,548人

第2節 夢と感動の競技スポーツの推進

1 競技力向上体制の確立

競技スポーツの一層の推進のため、県、市町村、岩手県体育協会、学校体育団体及び民間企業など、官民一体となった組織体制の整備に努めた。

ジュニア層の強化のために、その母体となっている学校体育団体との連携強化を図るとともに、成年層の強化のために企業や一般スポーツクラブの活動の強化支援に努めた。

2 指導体制の整備

小学生から成年に至るまで、共通の指導理念によって適時に適切な指導をすることが重要であり、一貫した指導体制づくりを推進した。

最新のスポーツ医・科学等に裏付けされた指導方法の研修を推進するため、指導者養成事業やスポーツ国際交流員の招致、運動部活動外部指導者派遣事業等指導者の養成及び資質の向上に努めた。

3 選手の育成強化

学校体育団体との連携により、発育・発達に応じた適切なトレーニングを実施するとともに、競技団体と連携を図りジュニア期からの一貫した強化に努めている。

優秀選手の育成を図るため、県外チーム交流や強化合宿等を拡充し、全国レベルの指導実績を持つ優秀なコーチの指導を受けるアドバイザーコーチ招聘事業を実施し、選手強化を図った。

4 環境の整備

既存の県営体育施設の充実を図るため、県営スケート場Bリンク配管改修工事等の改修整備を進めた。

5 県民意識の高揚

県民の競技力向上への意識の高揚を図るため、各種大会の開催、参加を通じて競技スポーツの啓発を図った。

県民体育大会

区 分	期 日	開催地	参加者
第57回県民体育大会	5.22～8.21	盛岡市他	21,656人
第58回県民体育大会スケート・アイスホッケー競技	11.12～12.30	盛岡市	286人
第58回県民体育大会スキー競技	1.20～23	八幡平市	817人

東北総合体育大会

区 分	期 日	開催地	参加者
第32回東北総合体育大会	9.2～4	秋田市他	1,167人

第60回国民体育大会

区 分	期 日	開催地	参加者
夏季大会	9.9～13	岡山県	103人
秋季大会	10.22～27	岡山県	398人

第61回国民体育大会

区 分	期 日	開催地	参加者
冬季スケート・アイスホッケー競技会	1.28～2.1	北海道	52人
冬季スキー競技会	2.19～22	群馬県	79人

第60回国民体育大会では、セーリング競技少年女子FJ級の福館・東ペア（宮古高校）の優勝を筆頭に、14競技53種目に入賞し、男女総合成績（天皇杯）は722.5点をあげ42位の成績であった。

また、第32回東北総合体育大会は、9月2日から4日の3日間を中心会期とし、秋田県下、11市10町1村で37競技が開催され、東北各県から役員、監督、選手併せて7千余名が参加し熱戦を繰り広げた。本県の成績は、総合優勝がホッケー、軟式野球、山岳の3競技、団体優勝がホッケーの全種目など11種別、個人優勝が陸上競技6種目、レスリング5種目、自転車5種目など26種目であった。

〔参考〕主 な 行 事

県営体育施設は、スポーツ活動の拠点として全国・東北規模や全県的な各種競技大会開催を通じて、本県スポーツの競技力向上や生涯スポーツの振興に大きな役割を果たしている。

平成17年度の東北大会規模以上の競技会等の開催は次表のとおりである。

施設名	大会等名	期 日	参加者(延)
運 動 公 園	第56回東北地区大学総合体育大会テニス競技	6月25日・26日	263人
	第56回東北地区大学総合体育大会サッカー競技	6月25日・26日	326人
	第56回東北地区大学総合体育大会陸上競技	6月25日・26日	639人
	第10回東北高等学校新人陸上競技選手権大会	10月6日～8日	8,040人
体 育 館	第39回東日本学生体操競技選手権大会	5月13日～15日	2,600人
	全日本プロレス盛岡大会	6月17日	1,640人
	第5回全国障害者スポーツ大会知的障害者バスケットボール競技東北・北海道ブロック予選会	6月25日・26日	689人
	第18回全国スボ・レク祭スボレクいわて2005協賛事業3 B体操全国交流大会	10月2日	2,400人
	第8回Vリーグ男子盛岡大会	10月16日	2,000人
	全東北学生競技ダンス選手権大会	11月18日～20日	590人
	全日本プロレス盛岡大会	12月1日	2,350人
	JBLスーパーリーグ盛岡大会	12月24日・25日	3,200人
	全日本リトルリーグ野球東北連盟大会	6月11日・12日	1,760人
野 球 場	第56回東北地区大学総合体育大会硬式野球競技	6月24日～29日	1,485人
	第56回全日本少年野球東北・北海道地区岩手大会	6月30日・7月1日	540人
	第76回都市対抗野球第2次予選東北大会	7月2日～9日	3,757人
	プロ野球パ・リーグ公式戦 楽天 - オリックス	7月12日	8,094人
	平成17年度東北中学生 K-Ball 野球大会	7月30日・31日	720人
	「茨城ゴールデングローヴス」VS「高田クラブ」親善試合	8月21日	5,334人
	第17回リトルシニア東北連盟理事長旗リトルリーグ野球大会	8月27日	370人
	第3回東北少年軟式野球新人大会	10月1日・2日	560人
武 道 館	第56回東北地区大学総合体育大会弓道競技	6月18日～20日	3,340人
	第56回東北地区大学総合体育大会剣道競技	6月19日	1,550人
	第27回東北高等学校空手道選手権大会	6月23日～25日	3,650人
	第56回東北地区大学総合体育大会空手道競技	6月26日	740人
	第56回東北地区大学総合体育大会柔道競技	7月3日	390人
	第64回全日本空手道連盟和道会東北空手道選手権大会	7月24日	1,105人
	第15回東北高等学校弓道錬成大会	8月5日～7日	6,810人
	平成17年度全日本学生柔道団体優勝大会東北地区予選	8月27日	500人
	平成17年度全日本学生柔道体重別選手権大会東北地区予選	8月28日	950人
	第18回全国スボ・レク祭スボレクいわて2005協賛事業太極拳競技大会	10月1日・2日	4,740人
	第19回東北高等学校空手道選抜大会	1月21日・22日	2,975人
	東北中学校春季柔道大会	3月18日・19日	2,600人

第6章 多様で個性ある 文化の創造

第6章 多様で個性ある文化の創造

第1節 みんなが親しめる多様な芸術活動の振興

広く県民に優れた芸術文化を鑑賞する機会を提供するため、各種の舞台芸術事業を開催するなど、芸術鑑賞の機会に努めた。

また、創作活動を奨励するため、県人作家の文芸作品、美術活動等の奨励を行い、芸術活動の振興と水準の向上に努めた。

更に、青少年に優れた芸術を鑑賞する機会を提供し、豊かな情操のかん養に努めるため、青少年劇場等を開催したほか、県高等学校総合文化祭を開催するなど、学校の芸術文化活動の振興に努めた。

1 創作・発表・鑑賞機会の拡充

(1) 第58回岩手芸術祭

ア 開幕式典・開幕フェスティバル

期 日 平成17年10月1日(土)

会 場 岩手県民会館大ホール

イ 美術展

種目	期間	会場	入選 / 応募点数	鑑賞者数
日本画	10.1(土)	岩手県民会館	66 / 66	人 5,586
版画	~		38 / 42	
水墨画	10.4(火)		143 / 155	
デザイン	10.7(金)		49 / 49	
写真	~		171 / 195	
現代美術	10.10(月)		18 / 18	
洋画	10.13(木)		253 / 280	
彫刻	10.16(日)		13 / 13	
書道	10.20(木)		238 / 259	
工芸	10.23(日)		79 / 112	

ウ 巡回美術展

期 間	会 場	鑑賞者数
10.29(土)~30(日)	一戸町コミュニティセンター	人 177
11.2(水)~3(日)	二戸市民文化会館展示室	176
11.5(土)~6(日)	久慈市民文化会館展示室	215
11.8(火)~10(木)	九戸村公民館	101
11.12(土)~13(日)	種市町民文化会館コミュニティホール	160
11.16(水)~20(日)	江刺市役所多目的ホ-ル	439
11.22(火)~24(木)	石鳥谷町立中央公民館講堂	810
11.26(土)~27(日)	岩泉町民会館	1,493
12.6(火)~8(木)	山田町中央公民館	48
12.10(土)~11(日)	宮古市民文化会館展示室	420
12.14(水)~15(木)	釜石市民文化会館中ホ-ル	208
12.17(土)~18(日)	花巻市民文化会館展示ホール	502

エ 小・中学校美術展

種 別	期 間	会 場	入賞・入選	鑑賞者数
			応募点数	
小学校・書写 中学校・書写 小学校・絵画 中学校・美術	11.18(金) ~20(日)	岩手県民会館展示室	点 1,628 7,901	人 2,535

オ 巡回小・中学校美術展

種 目	期 間	会 場	展示点数	鑑賞者数
小学校・書写 中学校・書写 小学校・絵画 中学校・美術	17.11.24(木)～ 18.3.5(日)	13市町村 16会場	点 305	人 5,745

カ 映像フェスティバル

期 日 平成17年10月23日(日)

会 場 釜石市大槌町中央公民館

参加者数 50人

キ 演劇

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
劇団我夢 「ヘルプ・ミー」	10.30(日)	水沢市民文化会館中ホール	302人
劇研麦の会 「海の季節」	11.27(日)	宮古市民文化会館大ホール	550
北芸の会 「雨やどり」	12.4(日)	北上市文化交流センター中ホール	200
演劇集団九月とアウラー 「大人になれない子供たちのために」	12.10(土) ～11(日)	盛岡劇場タウンホール	218
劇団二戸演劇協会 「ザ・雲人」	12.18(日)	二戸市文化会館大ホール	350

ク 伝統芸能

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
茶 会	10.2(日)	盛岡市中央公民館	819人
吟詠剣詩舞道祭	10.2(日)	岩手県民会館大ホール	70
華道展	10.28(金)～ 10.31(月)	岩手県民会館展示室	2,300
邦楽のつどい	11.6(日)	岩手県民会館中ホール	357
謡と仕舞の会	11.21(日)	岩手県民会館中ホール	400

ケ 音 楽

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
ソロと室内楽の調べ	10.2(日)	岩手県民会館中ホール	224人
ピアノ演奏会	10.22(土)	岩手県民会館中ホール	350
三曲演奏会	10.30(日)	岩手県民会館大ホール	492
声楽演奏会	11.5(土)	岩手県民会館中ホール	220
ギター音楽の夕べ	11.12(土)	岩手県民会館中ホール	224
吹奏楽演奏会	11.23(水)	盛岡市民文化ホール大ホール	1,300
合唱祭	12.11(日)	花巻市民会館大ホール	800

コ 舞 踊

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
モダンダンス公演	10.16(日)	岩手県民会館大ホール	1,550人
日本舞踊公演	11.20(日)	岩手県民会館大ホール	2,000

サ 演芸

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
岩手民謡まつり	11.23(水)	岩手県民会館大ホール	594人
新舞踊発表会	11.23(水)	若手県民会館大ホール	1,350

シ 文芸祭

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
短歌大会	10.8(土)	日本現代詩歌文学館	120人
俳句大会	10.9(日)	岩手県公会堂	125
川柳大会	10.9(日)	サンパークやなぎ(遠野市)	78
詩の大会	10.10(日)	花巻市定住交流センター	20
小説大会	10.16(日)	サンセール盛岡	7
随筆大会	10.30(日)	サンセール盛岡	27
戯曲大会	11.28(日)	西和賀町文化創造館	17
児童文学大会	1.21(土)	二戸市シビックセンター	80

ス 県民文芸作品集

応募点数 496点

掲載点数 162点

発行日 平成17年12月10日(土)

セ 移動公演

内 容	期 日	会 場	鑑賞者数
合唱公演	11.27(日)	一戸町コミュニティセンター	200人
新舞踊公演	12.4(日)	国民宿舎サンホテル衣川荘	286

(2) 創作活動奨励事業

ア 芸術選奨

分 野	受賞者氏名	受賞作品
文 芸 (短歌)	えんどう たかこ 遠藤 タカ子	歌集「霧氷樹林」
文 芸 (俳句)	しもだ しずこ 下田 静子	句集「ななかまど」
文 芸 (詩)	ふじの なほこ 藤野 なほ子	詩集「岸辺の桜」
文 芸 (童話)	むらやま たけし 村山 武	童話「贈られた音楽」

イ 美術選奨

受賞者氏名	受賞対象活動
おの えいじ 小野 英治	個展(N2スタジオ 10月)での作品発表
かまた のりこ 鎌田 紀子	(街かど美術館@つちざわ 土澤 10月)での作品発表
きよたけ えいじ 清武 英司	個展(盛岡クリスタル画廊 5-6月)での作品発表
こばやし しほこ 小林 志保子	街かど美術館@つちざわ 土澤 10月)での作品発表
ほんだ めぐみ 本田 恵美	個展「仕草」(諄子美術館9-10月)等での作品発表

2 心豊かな子どもたちをはぐくむ文化活動の推進

(1) 青少年劇場

ア 本公演

種 目	演 目	期 日	会 場	公演数	鑑賞者
声 楽	混声四重唱 「マーシャル727演奏会」	5.31～6.8	金ヶ崎町ほか 10市町村	12	5,068人
器 楽	ギターとパーカッション の演奏会	5.31～6.10	紫波町ほか 15市町村	17	7,199人
児 童 劇	オペレッタ劇団ともしび 「いのちのバトン」	6.6～7.8	大船渡市ほか 14市町村	18	6,221人

イ 小公演

種 目	演 目	期 日	会 場	公演数	鑑賞者
器 楽	チ・ブルグド馬頭琴コンサ ート	9.5～9.8	葛巻町ほか 4市町村	6	274人

(2) 本物の舞台芸術体験事業

事 業	種 目・演 目	期 日	会 場	公演数	鑑賞者
公立文化 施設公演	合唱「東京混声合唱団」、 ミュージカル「イマジニミ ュージカル」、モダンダン ス「現代舞踊協会」	7.13～10.28	江刺市、久慈市、 雫石町	3	2,563人
学校公演	オーケストラ、音楽劇、 児童劇、演劇	9.30～11.9	一関修紅高ほか 9校	10	3,280人

(3) 第28回岩手県高等学校総合文化祭

部 門	開 催 日	会 場	参加校数等	観客数
総合開会式	10月5日(水) 13:00～15:20	岩手県民会館	約2,000名	
1 書 道	11月8日(火) 13:00～17:00 11月9日(水) から11日(金) 9:00～17:00 11月12日(土) 12:00～17:00 11月13日(日) 9:00～17:00 11月14日(月) 9:00～15:00	岩手県民会館第1・2展示室	55校 1,400名 1,400点	1,600人
2 美術工芸	11月4日(金)～6日(日) 9:00～17:00 11月7日(月) 9:00～14:00	岩手県民会館第1・2展示登	67校 947点	2,800人
3 合 唱	7月6日(水) 10:00～16:20 8月20日(土) 12:00～19:00	さくらホール 岩手県民会館大ホール	37校 789人 29校 722人	200人 500人
4 吹 奏 楽	7月31日(日) Bクラス 9:50～18:00 8月7日(日) Aクラス 9:50～18:00	水沢市民文化会館 岩手県民会館大ホール	12校 23校	1,974人 2,537人
5 演 劇	10月21日(金) 13:00～16:30 10月22日(土) 10:00～15:40 10月23日(日) 10:00～15:00	岩手県民会館大ホール	11校	約423人
6 文 芸	10月14日(金) 10:00～12:40	岩手県民会館中ホール	51校 8,194作品	
7. 囲 碁	10月14日(金)～15日(土) 9:00～16:00	サンセール盛岡	21校 122人	
8 将 棋	10月25日(火) 9:40～16:00 10月26日(水) 9:00～16:00	サンセール盛岡	29校 257人	
9 器 楽	10月28日(金) 13:00～16:00	岩手県民会館中ホール	5校 100人	6人名
10 写 真	9月17日(土)～20日(火) 9:00～17:00 9月21日(水) 9:00～11:30 ただし休館日19日を除く。	岩手県民会館第1・2展示室	28校 242作品	350人
11 放 送	6月7日(火) 900～1600 11月10日(木) 900～1600	岩手県民会館中ホール	20校 129人 20校 127人	270人 192人
12 郷土芸能	10月7日(金) 13:00～17:15 10月8日(土) 9:50～15:00	田園ホール	16校 312人	500名

13	新 聞	10月5日（水）10：00～12：00	岩手県民会館会議室	応募16校 27作品 参加生徒37人	
14	自然科学	2月1日（水）9：00～12：00	岩手県立総合教育センター	12校 160人	
15	英 語	9月22日（木）12：30～16：00	岩手県民会館中ホール	19校 28人	150人
16	吟詠剣詩舞	10月11日（火）12：30～16：00	岩手県民会館中ホール	9校 29人	50人
17	日本音楽	10月13日（木）13：00～16：00	岩手県民会館中ホール	6校 128人	約200人
18	国際理解	9月28日（水）10：30～14：00 10月5日（水）10：00～12：00	盛岡市勤労福祉会館 岩手県赤十字会館	7校 13人 11校 90人	50人
19	マーチング バント・バ ントワリ ング	10月8日（土）県南 10：00～16：00 10月9日（日）県北 10：00～16：00	水沢市総合体育館 岩手産業文化センター	6校 8団体 300人	県南約1,500人 県北約1,900人
20	小倉百人一首 かるた	10月18日（火）10：00～17：00	釜石市民文化会館	7校 27人	
21	軽音楽	9月1日（木）13：30～16：00	岩手県民会館中ホール	14校 110人	180人

(4) 第29回全国高等学校総合文化祭

(人)

部門名	派遣学校名	生徒数	開催期日	会 場 地
合 唱	黒沢尻北高等学校	23	7月27日	青森市文化会館
吹奏楽	盛岡白百合学園高等学校	54	7月31日	青森市文化会館
器楽・ 管弦楽	盛岡第二高等学校 北上翔南高等学校 久慈高等学校 盛岡市立高等学校 盛岡白百合学園高等学校	16 18 13 4 11	7月30日～31日	弘前市民会館
日 本 音 楽	盛岡第二高等学校 遠野高等学校	29 9	7月28日～29日	黒石市民会館
吟詠剣 詩 舞	盛岡第二高等学校 盛岡第三高等学校 雫石高等学校 岩手女子高等学校 一関工業高等学校 久慈高等学校 福岡高等学校	3 2 3 2 3 2 2	7月31日	ぱ・る・るザ青森
郷 土 芸 能	釜石商業高等学校	21	7月30日～31日	オルテンシア
マーチン グ バ ン ト・バト ントワリ ング	岩手女子高等学校	31	7月29日	青森県武道館
美 術 ・ 工 芸	盛岡第四高等学校 不来方高等学校 水沢高等学校 黒沢尻北高等学校 水沢工業高等学校 青山養護学校 岩手大学付属養護学校	1 1 1 1 1 1 1	7月27日～31日	八戸市体育館
書 道	盛岡第一高等学校 盛岡第四高等学校 盛岡市立高等学校 北上翔南高等学校 一関第二高等学校	1 1 1 1 1	7月27日～31日	ユートリー
写 真	盛岡農業高等学校 不来方高等学校 盛岡第二高等学校	2 1 2	7月27日～31日	むつ市体育館

放 送	盛岡第一高等学校	3	7月30日～31日	三沢市公会堂
	不来方高等学校	1		
	盛岡白百合学園高等学校	1		
	盛岡第二高等学校	2		
	黒沢尻北高等学校	3		
	花巻北高等学校	3		
囲 碁	一関工業高等学校	1	7月30日～31日	スポカルイン黒石
	盛岡南高等学校	1		
	盛岡第一高等学校	1		
	岩手高等学校	1		
	花巻北高等学校	1		
将 棋	釜石南高等学校	1	7月28日～29日	古牧温泉
	盛岡第一高等学校	2		
	黒沢尻北高等学校	1		
	岩手高等学校	3		
	花巻北高等学校	3		
弁 論	西和賀高等学校	1	7月29～30日	十和田市民文化センター
小倉百人一首・かるた	水沢高等学校	2	7月29日～31日	青い森アリーナ
	大迫高等学校	1		
	福岡高等学校	2		
	一関第一高等学校	2		
新 開	盛岡商業高等学校	2	7月27日～31日	青森市民文化ホール
文 芸	盛岡第三高等学校	2	7月27日～31日	弘前文化センター
	水沢高等学校	1		
	盛岡商業高等学校	1		
	黒沢尻北高等学校	1		
合 計 人 数		305		

(5) 平成17年度 高校生カルチャーキャンプ事業

部門	期 日	会 場	参加者数
書 道	11月14日（月）	岩手県民会館 中ホール	55校 500名
美術工芸	11月7日（月）	岩手県民会館 中ホール	50校 500名
合 唱	5月31日（火）～7月1日（金） の6日間	県内6会場	27校 700名
吹 奏 楽	6月4日（土）	盛岡白百合学園高校	16校 704名
演 劇	6月3日（金）～4日（土）	一関文化センター	39校 281名
文 芸	10月14日（金）	岩手県民会館 中ホール	51校 300名 8,194作品
囲 碁	7月1日（金）	高校教育会館	20校 123名
将 棋	7月8日（金）	高校教育会館	28校 196名
器楽・管弦楽	6月26日（日）	高校教育会館	5校 130名
写 真	9月16日（金）	岩手県民会館中ホール	30校 150名
	11月29日（火）	岩手県民会館会議室	14校 143名
放 送	10月7日（金）	岩手県民会館中ホール	20校 159名
郷土芸能	10月8日（土）	矢巾町田園ホール	22校 312名
新 聞	10月5日（水）	岩手県民会館会議室	14校 37名 27作品
自然科学	2月1日（水）	総合教育センター	12校 120名
英 語	9月22日（水）	岩手県民会館 中ホール	108校送付
吟詠剣詩舞	10月11日（火）	岩手県民会館 中ホール	9校 29名
日本音楽	7月6日（水）	水沢市文化会館	6校 147名
国際理解	10月7日（金）	平泉町	9校 94名
マーチングバンド・ パトントワリング	5月31日（火） ～2月5日（日）	盛岡市都南体育館、岩手県営武道館、岩手女子 高校体育館等	9校 412名
小倉百人一首かるた	8月31日（水）	水沢市総合福祉センター	7校 17名
軽 音 楽	8月31日（水）	岩手県民会館 中ホール	14校 110名
合 計			457校 5,164名

(6) 岩手県中学校文化連盟補助

補助額 1,000千円

実施事業 岩手県中学校総合文化祭開催経費

開催日 平成17年11月25日(金)

開会式、舞台部門

平成17年12月 9日(金)～12日(月)

展示部門

会 場 岩手県民会館

(7) 岩手県文化振興事業団文化振興基金助成事業

事業区分	助成決定		助成事業の内容
	件数	助成額(千円)	
文化活動成果発表事業	6	3,080	第58回岩手郷土芸能祭ほか
各種大会等参加事業	1	1,000	第30回ジャパンウィーク2005年イタリア・ボローリ参加
文化活動研修事業	7	2,590	芸術文化講座開設ほか
文化団体備品整備事業	14	7,120	「上田子供さんさ」備品整備ほか
刊行物発行事業	1	810	合同句集「北風のしんぷおにい」第6集刊行
参加する文化活動推進事業	1	890	わくわくミュージックフェスティバル in IWATE
文化団体結成促進事業	0	0	
特認事業	2	1,420	岩手県芸術文化活動記録集刊行ほか
計	45	16,910	

第2節 歴史と風土に培われた文化財の保護

文化財の保護については、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録の推進、文化財の調査と指定による保護の充実、無形民俗文化財の伝承活動の推進、史跡等保存整備の推進、建造物防災、有形文化財の保存修理に努めるとともに民俗芸能フェスティバルの開催や関係機関・団体との緊密な連絡調整のもと文化財愛護思想の普及に努めた。

また、埋蔵文化財の保護については、積極的に埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施し、その周知徹底を図った。

更に、文化財関係者の資質向上を図るため、文化財行政基礎研修事業等の一層の充実に努めた。

1 文化財の保存と管理

(1) 岩手県文化財保護審議会開催状況

ア 文化財保護審議会

期 日 平成17年9月2日

会 場 12階特別会議室

審議事項 岩手県指定文化財の指定について

(2) 文化財の指定

有形文化財の指定

平成17年9月30日 岩手県教育委員会告示6号

指定番号	名 称	員数
有第229号	盛岡南部家馬印	
	1 金ほおずき大馬印	1点
	2 紅亀甲網旗馬印	1点

(3) 文化財の保存修理及び保護対策事業

ア 文化財保存修理事業

(金額：千円)

事業名	補助事業者	総事業費	左のうち 県費補助額
正法寺本堂修理ほか3件	正法寺ほか	千円 170,000	千円 17,350
無量光院跡環境整備ほか1件	平泉町ほか	52,000	8,300
無量光院跡土地買上ほか4件	平泉町ほか	160,353	16,680
木津屋池野藤兵衛家住宅保存修理ほか1件	個人ほか	17,162	8,581

イ カモシカ保護対策事業

事業名	補助事業者	総事業費	左のうち 県費補助額
食害対策	盛岡市ほか8市町村	千円 12,496	千円 4,338

(4) 文化財の調査

ア 指定候補物件調査

紫波町（有形文化財1件）

二戸市ほか（有形民俗文化財1件）

大船渡（無形民俗文化財1件）

イ 文化財パトロール事業

総事業費 2,000千円

ウ カモシカ特別調査事業

総事業費2,255千円

エ カモシカ通常調査事業

総事業費1,149千円

(5) 美術銃砲刀剣類の登録

平成17年度 登録件数 274件

総登録件数 32,170件

2 埋蔵文化財の保護

(1) 県内遺跡発掘調査事業

ア 発掘調査

事業名	調査地区	事業名	調査地区
ほ場整備事業神橋地区	花巻市	畑地帯総合整備事業東奥中山地区	一戸町
緊急地方道路整備事業	石鳥谷町	県道改築工事	北上市
一般国道455号バイパス工事	滝沢村	下水道施設整備事業	胆沢町
県立花巻・北上病院総合整備工事	北上市	一般県道永沢水沢線満倉歩道設置工事	水沢市

イ 試掘調査

事業名	調査地区	事業名	調査地区
国営いさわ南部農地整備事業	胆沢町	ほ場整備事業 満倉地区	水沢市
緊急地方道路整備事業	花巻市	一般国道4号洪民バイパス改築工事	玉山村
緊急地方道路整備事業	二戸市	一般国道4号小鳥谷バイパス改築工事	一戸町
緊急地方道路盤備事業	釜石市	一般国道46号盛岡西バイパス改築工事	盛岡市
ほ場整備事業 古城地区	前沢町	中山間地域総合整備事業日頃市西地区	大船渡市
ほ場整備事業 猫川左岸地区	遠野市	一関遊水地事業	平泉町
ほ場整備事業 増沢東部地区	江刺市	東北横断自動車道釜石秋田線	東和町
ほ場整備事業 中寺林地区	石鳥谷町	地域振興支援道路ネットワーク整備事業	千厩町

ウ 分布調査

事業名	調査地区	事業名	調査地区
特殊改良一種事業	川井村	一関遊水地事業	平泉町
津付ダム建設事業	住田町	花巻空港土木工事	石鳥谷町
道路改築事業	宮古市	農業農村整備事業	北上市
一般国道106号都南川目道路改築事業	盛岡市	森林管理道鈴峠1号線開設工事	葛巻町
農業用水再編対策事業	胆沢町	一関研究開発工業団地整備事業	一関市
大荒沢川通常砂防事業	沢内村		

(2) 埋蔵文化財緊急発掘調査事業

遺跡等の埋蔵文化財の実態把握及び開発事業との調整のために、市町村が実施する調査に対して、その経費の一部を助成した。

- 発掘調査等 18件（盛岡市ほか17市町村）

(3) 岩手県立埋蔵文化財センターの充実

発掘調査により得られた諸資料の整理・データ化を進めるとともに、機関誌の発行や研修会を主催して文化財の普及活用を図るなど、管理運営や教育普及活動事業の充実に努めた。

3 文化財の積極的な活用

(1) 遺跡周知事業

文化財保護法第95条の第11項の規定に基づき、遺跡に関する諸資料の整備とその周知徹底を継続して行い、更に、市町村担当職員の研修で指導・助言を行った。

ア 遺跡台帳の改訂（電算化）

イ 遺跡基本図の改訂（電算化）

ウ 台帳、基本図の複製配布

エ 現地確認調査等の事前協議

オ 市町村文化財担当職員等の研修会における指導・助言

カ 文化財保護法関連諸文書類処理

4 平泉文化の調査研究の推進と情報発信

(1) 柳之御所遺跡整備調査事業

世界遺産登録を目指す「平泉の文化遺産」のコア候補である柳之御所遺跡の史跡整備に着手し、内容確認のための発掘調査を行った。あわせて調査整備指導委員会を開催した。

総事業費 127,422千円

(2) 柳之御所遺跡土地公有化事業

史跡の恒久的な保全を図るため、柳之御所遺跡内の民有地の公有化を推進した。

総事業費 151,686千円

(3) 平泉文化研究機関整備推進事業

平泉文化の研究成果を公開する場として、平泉文化フォーラムを開催した。また、共同研究を推進し、「平泉文化研究年報」第6号として、その成果をまとめた。

総事業費 2,957千円

5 世界遺産登録の推進

(1) 世界遺産登録推進事業

「平泉の文化遺産」の世界遺産登録に向け、平泉文化に対する県民の理解と関心を促し、気運の醸成を図るため、「義経展」やシンポジウムの開催、ホームページの開設、外国語版パンフレットの作成などを内容とする普及啓発事業を実施した。

総事業費 46,765千円

(2) 平泉の文化遺産登録事業

平成18年度に国及びユネスコに提出する世界遺産登録のための推薦書を作成した。

総事業費 42,062千円

(3) 岩手の文化情報発信事業

「平泉の文化遺産」の内容を紹介するとともに、観光客に対し、伝統芸能、特産品、観光ルートなどを情報提供するための総合的なガイドブックを作成した。

総事業費 10,000千円

第3節 文化活動を育てる環境の整備

文化活動の拠点施設として、岩手県民会館、県立博物館、県立美術館及び県立埋蔵文化センターの管理運営の充実と施設設備の機能の向上を図るとともに、県民会館においては自主文化事業の充実、県立博物館においては展示内容等の充実、県立美術館において地元作家の作品収集と企画展の充実、及び県立埋蔵文化財センターにおいては発掘調査等の推進に努めた。

1 拠点施設の機能の充実

(1) 県民会館

○ 施設利用状況

芸術文化普及振興の拠点施設として、県民の活動発表や鑑賞等の芸術文化関係の催し物のほか、学会、大会等に利用され演奏会、展示会、講演会等が数多く開催されている。

ア 利用状況

月別	大ホール		中ホール		第1展示室		第2展示室		会議室(5室)	
	利用 日数	利用率	利用 日数	利掛率	利用 日数	利用率	利用 日数	利用率	利用 日数	利用率
4	21	72.4	20	69.0	27	93.1	24	82.8	24	82.1
5	15	55.6	20	74.1	24	88.9	24	88.9	22	80.0
6	20	71.4	20	71.4	26	92.9	26	92.9	24	86.4
7	28	93.3	27	90.0	30	100.0	30	100.0	27	88.7
8	15	50.0	27	90.0	28	93.3	28	93.3	22	72.0
9	22	88.0	25	100.0	23	82.1	18	64.3	25	91.9
10	29	100.0	29	100.0	29	100.0	29	100.0	26	90.4
11	26	89.7	28	96.6	27	93.1	27	93.1	24	84.2
12	16	69.6	21	91.3	20	87.0	20	87.0	18	76.5
1	10	37.0	16	59.3	20	74.1	20	74.1	19	71.9
2	11	47.8	16	69.6	20	74.1	20	74.1	21	79.3
3	22	84.6	20	76.9	28	93.3	28	93.3	28	92.6
計	235	72.1	269	82.5	302	89.6	294	87.2	280	83.1

会議室の利用日数・利用率は、会議室5室の平均値である。

イ 自主文化事業の実施状況

○ 特別公演

公演 期日	公 演 名	公演 回数	主な出演者	会 場	入場者数
4.27	ジョン・健・ヌツォ テノールコンサート	1	秋川雅史(テノール)、小島さやか(ピアノ) 慕情、オー・ル・ミー、悲しき天使ほか	大ホール	1,137
5.22	ミュージカル「銀河鉄道の夜」	1	わらび座	大ホール	650
6.5	東京佼成ウインド・オーケストラ	1	東京佼成ウインド・オーケストラ、齊藤一郎(指揮) 須川展也(サクソフォン)、奥山泰三(トランペット)	大ホール	1,292
6.18	春日大社・毛越寺 ～古典芸能と声明～	1	春日大社...和舞、八仙、蘭陵王 毛越寺...常行三昧供、延年の舞	大ホール	1,612
7.27	劇団四季のファミリーミュージカル 「魔法をすてたマジョリン」	1	劇団四季	大ホール	888
7.28	レビュー「虹と夢と愛と」 ～ファンタジー・カラス～	1	鳳蘭、麻路さき、星奈優里ほか	大ホール	1,274
8.19	ざ・MINYOH '05	1	岩手の若手民謡家 黒澤博幸、北田了一、福田廣平ほか	中ホール	358
10.10	ざ・CLASSIC '05	1	板垣アヤ子、森知英、朝倉未来良、木村 夫美、菅野祥子、松岡淳、佐々木亜紀	中ホール	488

10.24	松平健主演「暴れん坊将軍」	2	松平健 ほか 「暴れん坊将軍」「松平健レビュー」	大ホール	3,528
1.15	岩手の民謡をたずねて	1	畠山孝一、漆原栄美子、佐々木利男、 菊池信夫ほか 「南部馬方節」「古調くるくる節」ほか		

○ コンサートサロン

公演期日	公 演 名	公演回数	会 場	入場者数
5.23	第163回 秋川雅史テノールコンサート	1	中ホール	350
7.12	第164回 千住真理子ヴァイオリンコンサート	1	中ホール	550
11.15	第165回 及川浩治ピアノコンサート	1	中ホール	490

(2) 埋蔵文化財センター

受託事業

事業名	主 な 事 業 内 容	
発掘調査	国 土 交 通 省 一戸町 盛岡市 衣川村 宮古市	中屋敷上遺跡 野里上 遺跡 野中遺跡 飯岡才川遺跡（第7次） 接待館遺跡 細田遺跡 衣の関道遺跡 六日市場遺跡 八木沢 遺跡ほか 10 遺跡
	農 林 水 産 省 胆沢町	山の神遺跡 宮沢原下遺跡 北丑転遺跡 岩洞堤遺跡
	独 立 行 政 法 人 田野畑村 盛岡市	千足南遺跡 本宮熊堂B遺跡（第30次）、飯岡才川遺跡（第8次） 細谷地遺跡（第9次）、向中野館跡（第7次）
	岩 手 県 住田町 軽米町 浄法寺町 二戸市 藤沢町 北上市 石鳥谷町 前沢町	里古屋遺跡 板子屋敷3遺跡 館 遺跡 川口 遺跡、釜沢館跡 十文字遺跡 新平遺跡、芦萱遺跡 中村遺跡 道上遺跡
	盛 岡 市	本宮熊堂B遺跡（第31次）、飯岡才川遺跡（第9次） 細谷地遺跡（第10次）、向中野館跡（第8次）、宮沢遺跡（第11次）、本宮熊堂A遺跡（第29次）、野古A遺跡（第29次） 45 遺跡

出土資料の整理	国 土 交 通 省 普代村 盛岡市 独 立 行 政 法 人 盛岡市 岩 手 県 住田町 盛 岡 市 盛岡市	力持遺跡 本宮熊堂 A 遺跡（第 24 次） 本宮熊堂 B 遺跡（第 25 次） 向中野館跡（第 5 次） 里古屋遺跡 向中野館跡（第 6 次）
報告書の発刊	国 土 交 通 省 盛岡市 花巻市 奥州市 一関市 農 林 水 産 省 奥州市 独 立 行 政 法 人 盛岡市 岩 手 県 軽米町 久慈市 花巻市 北上市 田野畑村 陸前高田市 盛 岡 市 宮 古 市	本宮熊堂 A 遺跡（第 24 次）本宮熊堂 B 遺跡（第 25 次） 高木中館 下通館跡 高木古館跡 長根 遺跡 杉の堂・跡呂井遺跡 大清水上遺跡 河崎の柵擬定地 大清水上遺跡 飯岡沢田遺跡（第 9 次） 上野場 3 遺跡 中田遺跡 大西遺跡 金栗 遺跡 大橋遺跡 金附遺跡 沼袋遺跡 松山前遺跡 台太郎遺跡（第 54 次） 本宮熊堂 B 遺跡（第 27 次） 矢盛遺跡（第 6 次） 飯岡沢田遺跡（第 10 次） 山口館跡
調査報告書	平成 17 年度発掘調査報告書	
	23 遺跡 24 件（20 冊）各 450 部 500 部	

普及事業	1 第 27 回埋蔵文化財展 (1) 期日 平成 17 年 8 月 4 日(木)～10 日(水) (2) 場所 埋蔵文化財センター (3) テーマ 「来て！みて！ふれて！」 (4) 内容 遺物の展示、発掘体験、講演会、石器作り、拓本作り、土器接合等 2 第 26 回埋蔵文化財発掘調査技術講習会 (1)期日 平成 17 年 12 月 8 日(木)～9 日(金) (2)場所 岩手県立博物館 (3)内容 「北上低地帯の地形～氷期 - 間氷期サイクルの気候変化との関連から」 講師 弘前大学助教授 小岩直人氏 「河川中・下流部の河道周辺の地形形成と環境変動 - 洪水多発期、静穏期は存在するか」 講師 東北学院大学教授 松本秀明氏 3 第 28 回埋蔵文化財公開講座 (1)期日 平成 18 年 2 月 4 日(土) (2)場所 岩手県民会館中ホール (3)内容 「義経と平泉藤原氏」 講師 東北福祉大学教授 岡田清一氏 4 所報「わらびて」の発行 年 4 回発行(106 号～109 号)
------	---

(3) 県立美術館

ア 美術館協議会開催状況

期 日

第1回 平成17年10月12日

第2回 平成18年2月16日

会 場

岩手県立美術館会議室

内 容

平成17年度美術館事業実施状況について

平成18年度美術館事業実施計画について

美術館友の会活動状況について

美術館運営について

イ 利用状況

(単位：人)

月 別	常 設 展					企 画 展					計	累 計
	小・中・ 高生	大学生 等	一 般	小 計	開催日 数(日)	小中学 生	高校生・ 大学生 等	一 般	小 計	開催日 数(日)		
4	70	9	399	478	26	154	294	1,840	2,288	19	2,766	2,766
5	216	128	598	942	23	212	242	2,887	3,341	19	4,283	7,049
6	313	9	393	715	26	41	116	1,602	1,759	23	2,474	9,523
7	263	38	614	915	28	146	182	4,285	4,613	22	5,528	15,051
8	120	15	228	363	23	611	943	9,907	11,461	26	11,824	26,875
9	95	12	398	505	27	448	579	11,448	12,475	23	12,980	39,855
10	52	5	473	530	23	386	231	3,801	4,418	21	4,948	44,803
11	82	18	195	295	26	421	574	8,120	9,115	24	9,410	54,213
12	216	15	366	597	24	12	37	404	453	5	1,050	55,263
1	15	2	69	86	24	90	141	1,901	2,132	25	2,218	57,481
2	74	9	363	446	21	286	172	2,367	2,825	14	3,271	60,752
3	44	15	388	447	27	80	180	2,217	2,477	17	2,924	63,676
移動美 術展				1,048	-	-	-	-	-	-	1,048	64,724
計	1,560	275	4,484	7,367	298	2,887	3,691	50,779	57,357	238	64,724	/

ウ 展示事業

(ア) 常設展の開催

区 分	期 間	観覧者数
春季展示	平成17年2月18日（金）～5月8日（日）	666件 （4 / 1以降）
夏季展示	平成17年5月13日（金）～8月7日（日）	2,454人
秋季展示	平成17年8月12日（金）～10月23日（日）	1,322人
冬季展示	平成17年10月29日（土）～平成18年1月29日（日）	984人
春季展示	平成18年2月4日（土）～5月7日（日）	893人 （3月末）

(イ) 企画展の開催

事 業 名	会 場	観覧者数
アンテスとカチーナ展	平成17年4月9日（土）～5月22日（日）	5,629人
福井良之助孔版画展	平成17年6月4日（土）～7月18日（月）	3,908人
華やぐ女たちエルミタージュ美術館展	平成17年7月26日（火）～9月25日（日）	26,400人
出光コレクションによるルオー展	平成17年10月8日（土）～11月27日（日）	13,533人
日本に向けられたヨーロッパ人の眼 ジャパントゥデイVol.7	平成17年12月23日（金） ～平成18年2月12日（日）	4,245人
アートフェスタいわて2005 - 岩手芸術 祭選抜展 -	平成18年2月25日（金）～3月19日（日）	3,642人

(ウ) インスタレーションの公開

菅 木志雄氏による「揺らぐ体空」

公開期間：平成17年6月28日（火）～平成18年3月12日（日）

(エ) 移動美術展の実施

優れた美術作品に接する機会の少ない地域の県民に美術鑑賞の機会を提供

会 場：大船渡市立博物館

期 日：平成17年10月14日（金）～10月23日（日）

鑑賞者数：1,048人

エ 教育普及事業

(ア) 美術鑑賞支援事業

○ 作品解説会

(1) コレクショントーク：学芸員による常設展示作品の解説 年20回 参加者190人

(2) ギャラリートーク：学芸員による企画展示作品の解説等 年25回 参加者783人

○ 美術館講座

(1) コレクション講座

期 日	内 容	講 師 等	参加者
9 . 11	竣介の油絵技法にせまる	歌田真介（修復家、東京藝術大学名誉教授）	62人
11 . 3	今日の萬鐵五郎	中林和雄（東京国立近代美術館 美術課長）	50人

(イ) 美術体験支援事業

○ 企画ワークショップ

期 日	内 容	講 師 等	参加者
7.10	企画展連携「日本人にとっての 膳写版」	志村章子	73人
10 . 8～9	素材と技法のワークショップ 「木を彫ってつくる」	エサシトモコ	40人
10 . 23～24	素材と技法のワークショップ 「木に塗ってつくる」	前田昌良	38人
11 . 12～13	素材と技法のワークショップ 「木を組み合わせてつくる」	菅沼緑	31人

○ 定期ワークショップ

(1)アートデオヤコ 年12回 参加者108組 312人

(2)夏・冬休み子供向けワークショップ

期日	内 容	講 師 等	参加者
7.30～31	なつこどもわーくしょっぷ	布山 タルト	60人
1.14～15	ふゆこどもわーくしょっぷ	澤村 澄子	59人
6.25	こどもあーとくらぶ	-	19人
2.25	こどもあーとくらぶ	-	39人
5.4～5	キッズ・スタジオ（スタジオ開放）	-	326人

○ 映像プログラムのホール、アールスペース等での上映

(1)フライデーナイトシネマ 毎月第1・3金曜日 鑑賞者170人

(2)アートシネマ上映会 年5回 鑑賞者527人

○ コンサート・パフォーマンス

(1)ミュージアムコンサート

期日	内 容	参加者
3.19	栗コーダ・カルテット	1,370人

(2)作家によるパフォーマンス

期日	内 容	参加者
9.25	グライNDERマン	320人

○ アウトリーチギャラリーツアー10月29日 参加者5人

(ウ)美術研究支援事業

○ ライブラリーコーナーの運営 利 用 者 20,910人
 デジタルビジョン・レファレンス 利用件数 7,171件
 ホームページの運用 アクセス件数 77,508件

(エ)美術相談事業

○ 日常的な美術相談 相談件数 19件

(オ)美術館普及事業

○ 美術館探検

(1)IMA（イ）ヨル！ 年2回 参加者 9人

(2)てくてくツアー 年10回 参加者 102人

○ 教員講座の実施

7月28日・29日 参加者 26人

講師：西村陽平

1月6日 参加者 18人

○ 団体対応 通年実施

一般 1,592人

学校 2,774人

(カ)学生サポートスタッフ（ボランティア）運営

17年度登録 36名

オ 美術品取得推進事業

舟越保武作品 他 計5点 40,915千円（ほか、寄贈受入作品1点）

2 文化交流・連携の促進

(1)国民文化祭参加推進事業

補助額 3,039千円

期 日 平成17年10月22日（土）～11月3日（木・祝）

場 所 福井県

参 加 5団体 計76人

第7章 厚生福利

第7章 厚生福利

第1節 公立学校共済組合

公立学校共済組合の事業には、短期給付及び長期給付事業と、組合員の保健厚生事業、宿泊施設の経営並びに組合員に対する貸付事業等があり、これらに必要な費用は、組合員の掛金と地方公共団体の負担金をもって充てている。

1 短期給付事業

(1) 収支状況(平成17年度)

収 入		金 額
区 分		
短 期 負 担 金		3,467,248 千円
介 護 負 担 金		277,753
短 期 掛 金		3,424,521
介 護 掛 金		277,698
短期任意継続掛金		166,782
介護任意継続掛金		19,459
利息認ひ配当金		0
賠 償 金		527
計		7,633,988

支 出		金 額
区 分		
法 定 給 付		3,935,034 千円
附 加 給 付		91,994
一 部 負 担 金 払 戻 金		57,714
短期任意継続掛金還付		7,815
介護任意継続掛金還付		872
計		4,093,429
収支差額(本部送金)		3,540,559

(2) 組合員及び被扶養者数

(平成17年度末)

区 分	組合員数	被扶養者数
一 般 男 子	7,826人	) 16,052 人
一 般 女 子	6,806	
長 期 船 員	0	0
船 員	32	69
任 意 継 続	525	359
計	15,189	16,480

2 長期給付事業

年金給付等の財源として本部へ送金した。

収 入 の 状 況

(平成17年度)

区 分	金 額
負 担 金	9,477,553 千円
追 加 費 用 負 担 金	8,173,922
掛 金	7,507,059
利息及び配当金	0
計	25,158,534

3 福祉事業

(1) 人間ドック利用補助

公立学校共済組合東北中央病院、県立病院、盛岡赤十字病院、岩手医大附属病院、岩手県予防医学協会、松園第二病院、北上済生会病院及び滝沢中央病院に委託し、組合員のうち希望する者を対象に実施した。

利 用 状 況

区 分	利用人員	所要額
東 北 中 央 病 院	632 人	64,126千円
県 立 病 院	281	
盛 岡 赤 十 字 病 院	160	
岩 手 医 大 附 属 病 院	52	
予 防 医 学 協 会	159	
松 園 第 二 病 院	38	
北 上 済 生 会 病 院	50	
滝 沢 中 央 病 院	25	
計	1,397	

(2) 脳ドック

盛岡赤十字病院、北上済生会病院、県立花巻厚生病院、県立胆沢病院、公立学校共済組合東北中央病院、県立中央病院、県立宮古病院、予防医学協会に委託し、脳疾患の早期発見、早期治療を目的として45歳以上の希望する組合員を対象に実施した。

利 用 状 況

区 分	利用人員	所要額
盛 岡 赤 十 字 病 院	69 人	14,367千円
北 上 済 生 会 病 院	138	
県 立 花 巻 厚 生 病 院	35	
県 立 胆 沢 病 院	25	
東 北 中 央 病 院	68	
県 立 中 央 病 院	29	
県 立 宮 古 病 院	10	
予 防 医 学 協 会	25	
計	399	

(3) トータル・ヘルス・プロモーション・プラン（ＴＨＰ）

心と身体の健康を保持増進するためＴＨＰを実施した。

ア 受診者 97人
イ 所要額 1,997千円

(4) 肺がん検診

肺がんの早期発見、早期治療を目的として、35歳以上の希望する組合員を対象に、胸部 線直接撮影及び喀痰検査を実施した。

ア 受診状況
受診者数 571人
所要額 2,339千円

イ 実施結果

所 見	人 員	総受診者に対する割合
異 常 な し	551人	96.5 %
要 再 検 査	11	1.9
要 精 密 検 査	9	1.6

(5) 前立腺検査

前立腺がんの早期発見、早期治療を目的として予防医学協会に委託し、45歳以上の希望する男性組合員を対象に、前立腺特異抗原検査（PSA）を実施した。

ア 受診者数 2,453人 所要額 3,864千円

イ 実施結果

所 見	人 員	総受診者に対する割合
異 常 な し	2,344人	95.6%
要 再 検 査	76	3.1
要 精 密 検 査	33	1.3

(6) ライフプラン総合講座

組合員の健康管理意識の高揚を促進し、健康の保持増進を図るため、健康管理講座を実施した。

ア 受講者数 100人

イ 所要額 3,230千円

(7) 施設利用補助

サンセール盛岡利用補助

組合員及びその被扶養者がサンセール盛岡を利用した場合で、宿泊利用の場合は2,000円、また、会食利用の場合は組合員1人につき利用額に応じて、3,000円、2,000円、1,000円を、組合員又はその子が婚礼披露宴利用の場合は1組につき150,000円を、このほか年金受給者、法要、慶事等への利用者に対して補助したものである。

利 用 状 況

区 分	サンセール盛岡
宿 泊	利用人員 3,585人 補助額 7,170千円
会 食	利用人員 16,616人 補助金 48,952千円
婚 礼	利用人員 15組 補助金 2,700千円
法 事	利用人員 15組
慶 事	補助金 525千円
そ の 他	利用人員 1,042件 補助金 6,493千円
補 助 額 合 計	65,840千円

4 貸付事業

貸 付 状 況

区 分	件 数	貸付金額
一 般 貸 付	178 人	253,286 千円
住 宅 貸 付	131	1,155,106
住宅災害貸付	0	0
教 育 貸 付	27	56,749
医 療 貸 付	8	7,800
結 婚 貸 付	10	16,000
葬 祭 貸 付	6	7,052
高額医療貸付	5	1,369
災 害 貸 付	0	0
出 産 貸 付	4	1,220
計	369	1,498,582

5 宿泊・保養施設

組合員及びその家族の保健と保養のための施設として、岩手支部が所管する盛岡宿泊所「サンセール盛岡」の利用状況は次のとおりである。

利 用 状 況

区 分		サンセール盛岡	
営 業 日 数		365日	
宿 泊	収 容 定 員	79人	
	宿 泊 人 員	11,041人	
	利 用 率	38.3%	
宿 泊 外	収 容 定 員	848人	
	会 議	55,177人	
	宴 会	37,126人	
	婚 礼	挙 式 数	22組
		披 露 宴 数	22組
		披 露 宴 人 数	1,780人
	休 憩	15人	
	グ リ ル 等	15,880人	
利 用 率	30.4%		
計		121,019人	

第2節 教職員互助会

本県における教育文化の振興発展に寄与し、併せて教職員並びに教育関係職員の福利増進と生活の安定を図ることを目的として、平成17年度も諸事業を実施した。

1 短期給付事業

(単位：円)

区 分	給 付 金	件 数	附 記
療 養 給 付 金 (家 族)	139,264,406	被扶養者 58,055件	被扶養者が療養を受けたとき給付
無給会員給付金	8,820,000	28条休職者 24人	会員が休職し無給となったとき給付 28条休職者 (30,000円 平均12月)
育児休業給付金	9,419,676	325人	会員が育児休業の承認を受けて、育児休業となったとき掛金相当額 平均 2,415円
出 産 保 育 費	19,820,000	会 員 278人 配偶者 148人	会員又は被扶養配偶者が出産したとき給付 会 員 50,000円 配 偶 者 40,000円
災 害 見 舞 金	600,000	1件	会員が火災等の災害を受けたとき損害の程度により給付 3万円～60万円
弔 慰 金 (会員及び被扶養者)	15,800,000	会員 17人 配偶者 5人 被扶養者 63人	会員、配偶者又は被扶養者が死亡したとき給付 会 員 500,000円 配 偶 者 200,000円 被 扶 養 者 100,000円
計	193,724,082		

2 長期給付事業

(単位：円)

区 分	給 付 金	件 数	附 記
生きがい対策 支 援 助 成 金	130,770,102	740人	退会により会員の資格を失ったとき給付 1人平均 176,716円 定年退職 302人 平均 291,756円 勸奨退職 86人 " 266,190円 死亡退職 12人 " 189,583円 普通退職 88人 " 79,636円 特別会員 23人 " 121,537円 その他(異動) 119人 " 57,771円 その他(期限付) 110人 " 7,400円
計	130,770,102		

3 厚生福利事業

(単位：円)

区 分	給 付 金	件 数	附 記
療養給付金(会員)	235,739,604	81,224件	会員が療養を受けたとき給付
入 院 見 舞 金	52,094,000	会員 15,018日 被扶養者 37,076日	会員又は被扶養者が入院したとき給付 会 員 1日につき 1,000円 被 扶 養 者 " 1,000円
介護休暇給付金	1,753,390	24人	会員が介護休暇を取得したとき給付。1日につき給料日額の100分の60に相当する額から共済組合の介護休業手当金を控除した額。

区 分	給 付 金	件 数	附 記
小 学 校 入 学 祝 金	16,480,000	824人	会員の被扶養者、配偶者の被扶養者に認定されている子が小学校に入学したとき給付 20,000円
弔 慰 金 (被扶養者以外の配偶者)	800,000	4人	200,000円
レクリエーション費	7,569,406	14,592人	地区レクリエーション大会に助成(県と共同事業) 1人 500円
施 設 利 用 補 助	28,979,726	全教互 県内・県外 11,894人 サンセール盛岡・特別会 員のみ 39人 会食・特別会員のみ 510人 2,000円 1人 3,000円 10人 2,000円 1,000円 婚礼利用 正会員 15件 3,571,726円	会員又は被扶養者が施設を宿泊で利用したとき補助 全教互指定旅館 1泊につき 2,000円 公立学校共済組合施設 サンセール盛岡に宿泊2,000円 会食でサンセール盛岡を利用したとき補助 1人1回につき6,000円以上の利用3,000円、 5,000円以上6,000円未満の利用2,000円、 3,000円以上5,000円未満の利用1,000円 会員及びその子が、結婚披露宴で利用した場合 1組の利用額の25% 200,000円上限
健 診 事 業	18,206,378	共済組合と共同事業 T H P ・ 肺 が ん 共済組合と共催事業 人間ドック 特別会員 人間ドック 25人 脳ドック 20人 肺がん 28人 大腸がん 22人	(共済組合と共同事業 互助会1/2負担) T H P 998,186円 肺がん 1,169,122円 (共済組合と共催事業 互助会 経費の15%) 人間ドック 14,077,620円 (特別会員) 人間ドック 1,014,550円 脳ドック 803,260円 肺がん 113,610円 大腸がん 30,030円
退 職 慰 労 記 念 品 費	21,454,060	旅行券 693人 香典料 11人	退職より会員の資格を失ったとき旅行券を交付 会員年数 1年以上5年未満 20,000円 5年以上10年未満 30,000円 10年以上15年未満 50,000円 15年以上20年未満 60,000円 20年以上25年未満 80,000円 25年以上30年未満 90,000円 30年以上35年未満 120,000円 35年以上 130,000円 香典料 550,000円(11人)
遺 児 育 英 資 金	5,000,000	10人	会員が死亡したとき、その被扶養者のうち、当該年度末までの間に満18歳までになる会員の遺児があるとき給付 遺児1人 500,000円
ラ イ フ プ ラ ン セ ミ ナ ー	2,358,613		ライフプランを基本に「健康管理」「介護」「生涯生活設計」について、基礎研修と選択研修の講座を実施。 退職予定者を対象に県内数か所で退職準備セミナーを開催。(共済組合との共催事業)
メンタルヘルス セ ミ ナ ー	107,686		(共済組合と共催事業)

区 分	給 付 金	件 数	附 記
公益文化事業費	8,465,328		互助会報発行 年4回発行 岩手教育芸術祭開催（他団体と共催） 会報表紙写真募集 教職員囲碁大会（県大会・全国大会） 文化公演会（他団体と共催） 福祉のしおり
保険外医療給付金	8,872,427	マッサージ等 365件 妊婦検診 170件 歯科治療 69件 不妊治療 22件	会員が保険適用外医療（マッサージ等、歯科治療、妊婦検診及び不妊治療）を受けたとき、1年度について20,000円を限度に給付する。
身体矯正器具等購入（修理）補助	67,736,010	限鏡 3,410件 補聴器 4件	眼鏡、補聴器、補装具のいずれかを購入（修理）したとき2年度に1回に限り20,000円以内補助。
ホームヘルパー雇用補助	864,469	11件	会員、配偶者、会員又は配偶者の扶養家族、会員又は配偶者の父母（別居しているときは、同居者がいない場合に限る）が、在宅療養中に介護者及び家事援助者（3親等以外の者）を1年度に5日以上雇用して、その費用を負担したとき、1日3,000円以内（1年度に60日を限度）を補助。 ただし、介護保険の在宅支援給付を受けている場合は、その自己負担額の範囲内とする。
心身リフレッシュ支援助成	44,723,661	旅行券 800名 図書カード 530名 施設利用券 36名	会員年数が、10年、20年、25年、30年に達した会員に希望に応じスポーツ・文化教育及び保健保養に助成をする。
計	521,204,758		

4 特別弔慰積立事業

（単位：円）

区 分	給 付 額	件 数	附 記
特別弔慰金	22,500,000	会 員 11人 配偶者 9人 被扶養者 52人	会員、配偶者又は被扶養者が死亡したとき給付 会員 50万円～200万円（積立年数による） 配偶者 20万円 被扶養者 10万円
積立給付金	58,482,045	積立金 856人 割増金 633人	退会により会員の資格を失ったとき、積立金及び割増金を給付 積立金・毎月200円積立の累計額（昭和46年3月までは100円） 割増金（積立金に月利0.000083%の利息）
計	80,982,045		

5 貸付事業

（単位：円）

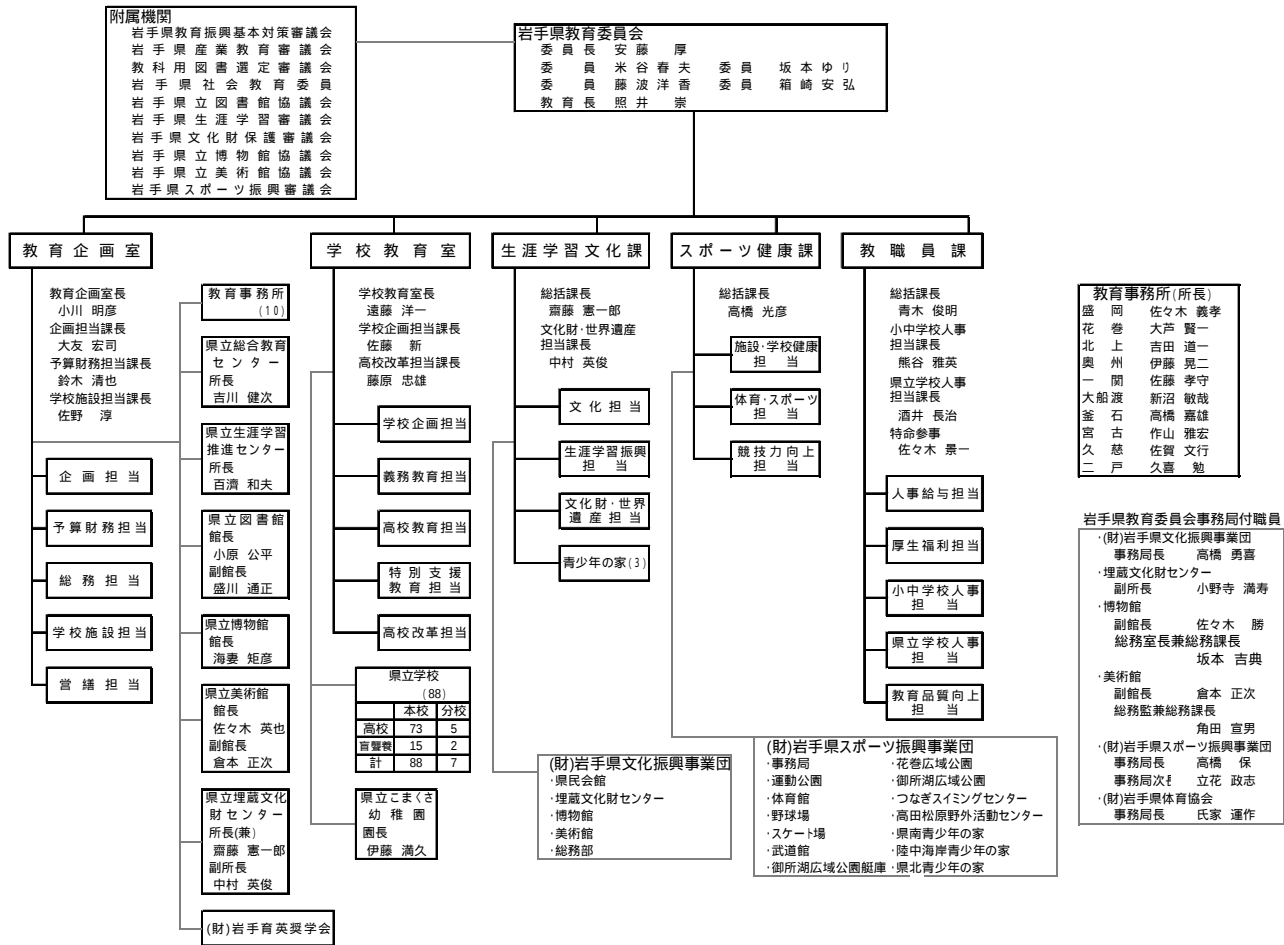
区 分	貸 付 額	件 数	附 記
生活資金	431,800,000	281件	貸付限度額 2,000,000円
奨学資金	70,900,000	39件	〃 2,000,000円
海外旅行資金	4,500,000	5件	〃 1,000,000円
結婚資金	13,700,000	8件	〃 2,000,000円
計	520,900,000		

参 考 資 料

- 1 県教育委員会機構図（18．8．1現在）
- 2 教育関係審議会等委員名簿（18．8．1現在）
- 3 県教育委員会会議録抄（17年度）
- 4 県教育委員会関係主要行事（17．4～18．3）
- 5 県教育委員会が所管する公益法人・公益信託（18．4．1現在）
- 6 県教育関係諸団体一覧（18．8．1現在）

1 県教育委員会機構図

平18.8.1現在



2 教育関係審議会等委員名簿

岩手県教育振興基本対策審議会委員

(平17.8.1現在)

小 沢 和 夫 釜石市長	及 川 正 彦 岩手日報社メディア情報部長
川 村 光 郎 矢巾町長	安 藤 直 美 おらほの手作り倶楽部食道楽代表
八 巻 恒 雄 盛岡市教育委員会教育委員長	金 野 洋 子 滝沢村学校評議員
菅 原 義 子 水沢市教育委員会教育長	雫 石 礼 子 岩手県立大学社会福祉学部教授
坂 水 か よ 岩手県私学連合会理事	同大学院社会福祉学研究科教授
高 橋 義 翁 岩手県高等学校PTA連合会 会計監査	新 沼 淳 子 看護師
谷 藤 文 明 岩手県体育協会理事	吉 田 雄 一 岩手銀行人事部長
土 方 和 行 岩手県社会教育連絡協議会副会長	原 久 雄 富士大学教授
小野寺 明 美 岩手県PTA連合会副会長	三 浦 光 子 臨床心理士
渡 邊 眞 吾 岩手県芸術文化協会理事	(任期：平16.8.1～平18.7.31)

岩手県産業教育審議会委員

(平18.9.1現在)

久 慈 竜 也 (株)久慈設計取締役福祉社長	天 木 桂 子 岩手大学教育学部助教授
南 館 伸 和 ワイズマン代表取締役社長	及 川 孝 前岩手県立盛岡農業高等学校長
谷 村 久 興 谷村電気精機株式会社代表取締役会長	緒 方 武比古 北里大学水産学部教授
岡 田 経 夫 リコー光学管理本部長	安 藤 広 子 岩手県立大学看護学部教授
松 本 直 子 農業・藍の会代表	八重樫 夫佐子 岩手大学教育学部附属中学校教諭
	(任期：平18.9.1～平20.8.31)

岩手県社会教育委員名簿

(平16.7.1現在)

菊 池 留美子 盛岡市立米内幼稚園長	土 岐 幸 子 すこやかダイヤル・電話相談員
吉 田 政 奥州市立水沢小学校	近 藤 英 一 特定非営利活動法人つばさネット 理事長
新 田 章 北上市立北上中学校長	新 妻 二 男 岩手大学教育学部助教授
岩 泉 美奈子 岩手県青年団体協議会常任理事	佐 藤 利 明 岩手県立大学総合政策学部教授
寺 崎 敏 子 岩手県地域婦人団体協議会副会長	中 嶋 芳 也 放送大学岩手学習センター所長
小野寺 明 美 (社)岩手県PTA連合会長	柴 田 孝 夫 二戸市教育委員長
松 尾 弘 一 岩手県社会教育連絡協議会長	太 田 玲 子 公募委員
阿 部 智衛子 特定非営利活動法人矢巾ゆりかご 理事長	(任期：平18.7.1～平20.6.30)

岩手県立図書館協議会委員名簿.....

(平18.7.1現在)

高橋正徳 岩手県学校図書館協議会長 及川典子 奥州市教育委員会社会教育委員 斎藤文男 富士大学経済学部教授 佐々木 るみ子 遠野市教育委員会委員 荒川鉄平 公募委員	下田 勉 岩手日報社編集局学芸部長 柏葉幸子 作家 丸山 ちはや 子どもの芸術あそび教室「虹色の部屋」 主宰 (任期：平18.7.1～平20.6.30)
--	--

岩手県生涯学習審議会委員名簿.....

(平18.6.1現在)

新妻二男 岩手大学教育学部助教授 佐藤利明 岩手県立大学総合政策学部教授 甲山知苗 NPO法人アイディング常務理事 岩泉美奈子 岩手県青年団体協議会常任理事 石川 戡 (財)岩手県長寿社会振興財団 事務局長 松尾弘一 岩手県社会教育連絡協議会会長 小野寺明美 (社)岩手県PTA連合会副会長 柴田孝夫 二戸市教育委員長	鈴木文雄 岩手県高等学校長協会会長 中嶋芳也 放送大学岩手学習センター所長 近藤英一 NPO法人翔くつばさネット (重度障害者支援)理事長 入澤幸子 岩手県漁協女性連会長 鈴木悦子 岩手県体育指導委員協議会 常任幹事 亀谷由美子 岩手県弦楽研究会会長 (任期：H18.6.1～20.5.31)
---	--

岩手県文化財保護審議会委員.....

(平18.5.1現在)

朝日田 卓 北里大学水産学部助教授 大矢邦宣 盛岡大学教授 菅野文夫 岩手大学教授 工藤紘一 一戸町文化財調査専門委員 工藤雅樹 東北歴史博物館館長 小井川 百合子 仙台市博物館学芸室長 越谷 信 岩手大学助教授	酒井 禰生 岩手県立大学盛岡短期大学部助教授 佐々木 祐子 岩手古文書学会理事 月 舘 敏 栄 八戸工業大学教授 辻 秀 人 東北学院大学教授 根 本 智 行 石巻専修大学教授 平 山 貞 岩手県立大学盛岡短期大学部名誉教授 (任期：平18.5.1～平20.4.30)
--	--

岩手県立博物館協議会委員.....

(平17.6.23現在)

平 賀 皓 子 盛岡市立中野小学校長	三 浦 壮 六 滝沢村教育委員会教育長
千 葉 史 夫 盛岡市立城東中学校長	松 田 美智子 岩手県立博物館友の会企画委員長
伊 藤 勝 岩手県立盛岡第四高等学校長	中 村 紀 顕 株式会社岩手日報社編集局付部長
岩 泉 美奈子 岩手県青年団体協議会	土 谷 信 高 岩手大学教育学部教授
柳 橋 好 子 特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会常務理事・事務局長	平 塚 明 県立大学総合政策学部教授
八重樫 則 幸 社団法人岩手県PTA連合会	春 日 菜穂美 盛岡大学助教授
吉 丸 蓉 子 盛岡市立先人記念館長	澤 口 たまみ エッセイスト
	野 沢 裕 美 小岩井農場展示資料館長
	(任期:平17.6.23~平19.6.22)

岩手県立スポーツ振興審議会委員.....

(平18.6.23現在)

熊 坂 伸 子 普代村教育委員会教育長	清 水 茂 幸 岩手大学教育学部助教授
熊 坂 祐 三 岩手県商工会議所連合会副会長	村 井 玲 社団法人岩手県薬剤師会理事
松 田 郁 夫 (財)岩手県体育協会副会長兼理事長	小 舘 操 陸上自衛隊第25普通科連隊所属
鷹 觜 文 昭 岩手県高等学校体育連盟理事長	永 田 七 恵 エスビー食品(株)女子陸上部顧問
佐々木 幸 彦 岩手県中学校体育連盟理事長	工 藤 義 信 株式会社工藤 代表取締役
村 里 洋 子 盛岡市体育指導委員	花 田 陽 子 NPO岩手県青少年交流支援センター
佐々木 浮 子 岩手県小学校体育研究会常任理事	「ポランの広場」相談員
	(任期:平18.6.23~平20.6.22)

岩手県立美術館協議会委員.....

(平18.5.1現在)

佐々木 真理子 岩手大学教育学部附属小学校副校長	工 藤 哲 (株)岩手日報社事業第二部次長
佐々木 孝 志 久慈市立三崎中学校長	工 藤 繁 岩手県立美術館友の会会員
鎌 田 善 昭 岩手県立盛岡北高等学校長	斎 藤 純 小説家
村 谷 孝 子 (社)ガールスカウト日本連盟岩手県支部リーダー	中 村 光 紀 盛岡市観光文化交流センター館長
柴 田 幸 榮 岩手県地域婦人団体協議会副会長	田 中 恵 岩手大学教育学部教授
小野寺 明 美 (社)岩手県PTA連合会母親委員会委員長	及 川 孝 子 公募委員
秋 山 英 男 岩山漆芸美術館館長	金 野 聡 子 公募委員
長 内 努 彫刻家・舞台芸術家	(任期:平18.3.1~平20.2.29)
	工藤繁委員:17.3.1~平19.2.28)

3 県教育委員会会議録抄 (平成17年度)

4月定例会(17.4.18)	
事務報告1	平成17年度教育委員会事務局業務方針について
事務報告2	平成17年2月県議会定例会の概要について
事務報告3	教職員の人材育成に関する検討委員会報告について
5月定例会(17.5.23)	
事務報告1	教育委員会における行政(学校)経営品質向上運動への取組みについて
事務報告2	平成17年度岩手県立高等学校入学者選抜学力検査実施状況について
議案第1号	岩手県教育委員会公告式規則の一部を改正する規則
議案第2号	岩手県立高等学校の通学区域に関する規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部
議案第3号	を改正する規則
議案第4号	教育長に対する事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則
議案第5号	岩手県教育委員会代決専決規程の一部を改正する訓令
議案第6号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第7号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第8号	岩手県社会教育委員の委嘱及び解嘱に關し議決を求めることについて 学校職員の懲戒処分に關し議決を求めることについて
6月定例会(17.6.21)	
事務報告1	県立学校の改築について
事務報告2	岩手県生涯学習振興計画の見直しについて
議案第9号	岩手県教育振興基本対策審議会委員の任命及び解任に關し議決を求めることについて
議案第10号	岩手県立博物館協議会委員の任命に關し議決を求めることについて
議案第11号	岩手県スポーツ振興審議会委員の任命及び解任に關し議決を求めることについて
議案第12号	学校職員の分限処分に關し議決を求めることについて
議案第13号	学校職員の懲戒処分に關し議決を求めることについて
追加事務報告1	教育委員会における、いわゆる「行政品質向上運動」の名称について
7月定例会(17.7.19)	
事務報告1	平成17年6月県議会定例会の概要について
議案第14号	岩手県教育委員会規則の用字等の表記の整備に関する規則
議案第15号	岩手県教育委員会訓令の用字等の表記の整備に関する規則
議案第16号	岩手県教育委員会の所管に係る民間事業者等が行う書面の保存における情報通信の技術の利用に関する規則
議案第17号	県立高等学校新整備計画(後期計画)の策定に關し議決を求めることについて
議案第18号	岩手県立図書館協議会委員の任命及び解職に關し議決を求めることについて
議案第19号	学校職員の懲戒処分に關し議決を求めることについて
議案第20号	学校職員の懲戒処分に關し議決を求めることについて
8月定例会(17.8.22)	
事務報告1	平成17年8月県議会臨時会商工文教委員会の概要について
事務報告2	第29回全国高等学校総合文化祭の概要について
議案第21号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第22号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第23号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第24号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第25号	岩手県立高等学校の設置及び廃止並びに岩手県立高等学校の学科の設置及び廃止に關し議決を求めることについて
議案第26号	岩手県立美術館協議会委員の任命及び解任に關し議決を求めることについて
9月定例会(17.9.20)	

事務報告 1	平成 17 年度第 1 回児童生徒表彰（はばたき賞）について
事務報告 2	平成 18 年度に使用する県立高等学校の教科書採択について
事務報告 3	平成 18 年度に使用する県立盲学校、聾学校及び養護学校の教科書採択について
事務報告 4	平成 17 年度全国高等学校総合体育大会の結果について
事務報告 5	平成 17 年度全国中学校体育大会の結果について
事務報告 6	第 32 回東北総合体育大会の結果について
議案第 27 号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第 28 号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第 29 号	文化財の指定に關し議決を求めることについて
議案第 30 号	釜石市公立学校長の人事の臨時専決処理に關し承認を求めることについて
議案第 31 号	教育表彰の受賞者に關し議決を求めることについて
議案第 32 号	学校職員の懲戒処分に關し議決を求めることについて
10 月臨時会（17. 10. 6）	
事務報告 1	平成 17 年 9 月県議会定例会の概要について
10 月臨時会（17. 10. 11）	
第 1	会期決定の件
第 2	委員長選挙
第 3	委員長職務代理者の指定
第 4	委員長職務代理者の順位の決定
第 5	議席の決定
10 月定例会（17. 10. 17）	
事務報告 1	いわて教育の日について
事務報告 2	平成 17 年人事委員会勧告の概要について
事務報告 3	平成 18 年度岩手県立高等学校入学者選抜実施要項について
事務報告 4	平成 18 年度岩手県立盲・聾・養護学校の学級再編について
事務報告 5	図書館条例について
事務報告 6	第 60 回国民体育大会夏季大会の結果について
議案第 33 号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第 34 号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第 35 号	岩手県立高等学校の管理運営に關する規則の一部を改正する規則
議案第 36 号	岩手県立高等学校の通学区域に關する規則の一部を改正する規則
議案第 37 号	平成 18 年度岩手県教育委員会定期人事異動方針に關し議決を求めることについて
11 月定例会（17. 11. 21）	
事務報告 1	平成 17 年 10 月県議会臨時会の概要について
事務報告 2	第 60 回国民体育大会秋季大会の結果について
議案第 38 号	岩手県教育委員会公文例式規程の一部を改正する訓令
議案第 39 号	野外活動センターの廃止に關し議決を求めることについて
議案第 40 号	学校職員の懲戒処分に關し議決を求めることについて
12 月定例会（17. 12. 19）	
事務報告 1	平成 17 年 12 月県議会定例会の概要について
事務報告 2	平成 17 年度学習定着度状況調査の概要について
事務報告 3	第 20 回国民文化祭・ふくい 2005 の概要について
議案第 41 号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第 42 号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第 43 号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第 44 号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第 45 号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第 46 号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第 47 号	岩手県立図書館管理運営規則の一部を改正する規則
議案第 48 号	公立中学校長の人事に關し議決を求めることについて
議案第 49 号	学校職員の懲戒処分に關し議決を求めることについて
1 月定例会（18. 1. 16）	

事務報告 1	多忙化問題検討委員会からの提言について
議案第 50 号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第 51 号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第 52 号	青少年の家管理運営規則の一部を改正する規則
議案第 53 号	岩手県立博物館管理運営規則の一部を改正する規則
議案第 54 号	岩手県立美術館管理運営規則の一部を改正する規則
議案第 55 号	野外活動センター管理運営規則の一部を改正する規則
議案第 56 号	学校職員の分限処分に關し議決を求めることについて
2月定例会 (18.2.20)	
事務報告 1	岩手県スポーツ特別強化指定校等について
議案第 57 号	公立小中学校に係る勤務替え等訓令
議案第 58 号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第 59 号	岩手県立高等学校の管理運営に關する規則の一部を改正する規則
議案第 60 号	岩手県立美術館協議会委員の任命に關し議決を求めることについて
3月定例会 (18.3.17)	
事務報告 1	第 61 回国民体育大会冬季大会の結果について
協 議 1	岩手県教育委員会行政文書管理規程の一部を改正する訓令の指示専決処理について
協 議 2	岩手県教育委員会日額旅費支給規程の一部を改正する訓令の指示専決処理について
議案第 61 号	岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則
議案第 62 号	岩手県立高等学校の管理運営に關する規則の一部を改正する規則
議案第 63 号	岩手県立盲学校、聾学校及び養護学校の管理運営に關する規則の一部を改正する規則
議案第 64 号	岩手県教育委員会公印規程の一部を改正する訓令
議案第 65 号	岩手県教育委員会許認可等標準処理日数規程の一部を改正する訓令
議案第 66 号	岩手県教育委員会代決専決規程の一部を改正する訓令
議案第 67 号	岩手県教育委員会服務規程の一部を改正する訓令
議案第 68 号	岩手県教育委員会安全衛生管理規程の一部を改正する訓令
議案第 69 号	県立学校事務処理規程の一部を改正する訓令
議案第 70 号	教科用図書採択地区の変更に關し議決を求めることについて
議案第 71 号	教育財産管理規則の一部を改正する規則
議案第 72 号	本庁の室課の長等の人事に關し議決を求めることについて
議案第 73 号	公立小中学校長の人事に關し議決を求めることについて
議案第 74 号	県立学校の校長及び事務長の人事に關し議決を求めることについて
議案第 75 号	学校職員の懲戒処分に關し議決を求めることについて
議案第 76 号	教科用図書選定審議会委員の任命に關し議決を求めることについて

4 県教育委員会関係主要行事 (平成17年4月～平成18年3月)

4月

- 6～7 第1回代表指導主事会議(県庁舎)
- 6～7 第1回指導主事兼保健体育主事会議(盛岡地区合庁)
- 7～8 岩手県指導主事等会議(盛岡市総合福祉センター)
- 7～8 初任者研修(教職基礎研修)(総合教育センター)
- 8 公所長会議(県庁舎)
- 11 第1回教育事務所社会教育主事会議(県庁舎)
- 12～13 第1回岩手県社会教育主事会議(県庁舎)
- 14～15 第1回派遣社会教育主事(スポーツ担当)会議(盛岡地区合庁)
- 18 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 18 初任者研修指導教員等研修会(県庁舎)
- 21～22 第1回県立学校長会議(県庁舎)
- 25～26 小中新任校長研修講座(総合教育センター)
- 27 社会教育団体事務担当者会議(県庁舎)
- 27～28 新任小中学校長研修講座(総合教育センター)

5月

- 10 第1回学力向上支援事業研究推進会議(県庁舎)
- 10～11 小中新任教員研修講座(総合教育センター)
- 12 県立学校等教員会議(県庁舎)
- 17～18 県立学校等新任校長研修講座(清温荘)
- 18 県立学校事務長会議(県庁舎)
- 23 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 23 園長等管理運営研修会(サンセール盛岡)
- 23 教育振興課加市町村担当者研修会(県庁舎)
- 23 財団法人岩手県スポーツ振興事業団第44回理事会(サンセール盛岡)
- 26 財団法人岩手県文化振興事業団第50回理事会(県民会館)
- 27 第58回岩手芸術祭第1回実行委員会(県民会館)
- 26～27 県立学校等新任教員研修講座(清温荘)
- 31 第1回キャリア教育実践協議会(洋野町)

6月

- 2～5 岩手県高等学校総合体育大会(盛岡市ほか)
- 3 第1回岩手県子どもの読書活動推進委員会(県庁舎)
- 7 第1回キャリアスタートウイーク推進協議会(県庁舎)
- 10 県立高等学校新整備計画(後期計画)案に係る再調整案を公表(県議会議案等活用会にて)
- 16 学力向上推進会議(県庁舎)
- 17 第1回岩手県社会教育委員会(県庁舎)
- 21 教育委員会議定例会(教育委員室)

7月

- 1 保育技術協議会(県立こまくさ幼稚園)
- 2～4 岩手県民体育大会(中心会場 盛岡市ほか)
- 7～8 第1回平泉運動施設整備指導委員会(平泉町)
- 11 第1回道徳教育推進協議会(県庁舎)
- 14～25 全国高等学校選球選手権大会岩手大会(盛岡市ほか)
- 15 岩手県教育振興研究協議会(総合教育センター)
- 16～18 岩手県中学校総合体育大会(盛岡市ほか)
- 19 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 19 第2回代表指導主事会議(盛岡地区合庁)
- 19 県立高等学校新整備計画(後期計画)を策定(教育委員会議で議決)

- 21 第1回岩手県生涯学習審議会(サンセール盛岡)
- 21~22 第1回都市社会教育主管課長会議(盛岡市)
- 22~9/4 義経展~源氏・平氏・奥州藤原氏の至宝~(県立博物館)
- 26 第3回世界遺産登録推薦書作成委員会(平泉町)
- 27~31 第29回全国高等学校総合文化祭(青森県)
- 8月**
- 1~20 全国高等学校総合体育大会(千葉県)
- 8~12 初任者研修(宿泊研修)(総合教育センター)
- 10 幼稚園教育課程研究協議会(総合教育センター)
- 17~24 全国中学校体育大会(東海地区)
- 22 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 26 北海道・東北ブロック生涯学習担当会議(宮城県)
- 27~28 第16回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演(国立劇場)
- 29 第1回学力向上拠点研究事業研究推進会議(県庁舎)
- 9月**
- 1~2 北海道・東北ブロック社会教育主管課長会議(秋田県)
- 2 岩手県文化財保護審議会(県庁舎)
- 2~4 東北総合体育大会(秋田県)
- 8 第58回岩手芸術祭第2回実行委員会(県民会館)
- 8~9 第2回岩手県社会教育主事会議(県立生涯学習推進センター)
- 10~13 国民体育大会夏季大会(岡山県)
- 14 第1回児童生徒表彰式(はばたき賞)(県庁舎)
- 16~19 いわて再発見「青少年銀河鉄道体験交流事業」(訪母地 浄法寺町・宮古市・平泉町)
- 20 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 27 第1回豊かな体験創造委員会(県庁舎)
- 28 第2回道徳教育推進協議会(盛岡市立青山小学校)
- 29 財団法人岩手県文化振興事業団第21回評議員会(県民会館)
- 10月**
- 1 第58回岩手芸術祭開幕式・開幕フェスティバル(岩手県民会館)
- 1 第28回岩手県高等学校総合文化祭総合開会式(岩手県民会館)
- 1~4 第18回全国スポーツ・レクリエーション祭(盛岡市ほか)
- 6 教育委員会鑑評会(教育委員室)
- 6~7 学習定着度状況調査の実施
- 7 第2回教育事務所社会教育主事会議(盛岡地区合庁)
- 7 第1回岩手県立図書館協議会(サンセール盛岡)
- 11 教育委員会鑑評会(教育委員室)
- 12 第1回岩手県立美術館協議会(県立美術館)
- 13~14 第2回平泉豊郷調査整備指導委員会(一関市ほか)
- 17 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 22~27 国民体育大会秋季大会(岡山県)
- 22~11/3 第20回国民文化祭(福井県)
- 23 第47回北海道・東北ブロック民俗芸能大会(山形県)
- 25 平成17年度生涯スポーツ推進研究大会(ふれあいランド岩手)
- 28 財団法人岩手県文化振興事業団第51回理事会(県立博物館)
- 31 第2回県立学校長等会議(県庁舎)
- 11月**
- 5 「いわて教育の日」制定記念式典(岩手県公会堂)
- 5 岩手県民俗芸能フェスティバル(県民会館)
- 7 岩手県教職員表彰(岩手県民会館)
- 21 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 25 第4回岩手県中学校総合文化祭開会式舞台部門(県民会館)

- 26 第58回岩手芸術祭美術・映像・ピアノ部門表彰式(サンセール盛岡)
- 27 民俗芸能伝承フォーラム(県立博物館)
- 29 第4回世界遺産登録推薦書作成委員会(東京都)

12月

- 9~12 第4回岩手県中学校総合文化祭展示部門(県民会館)
- 10 第58回岩手芸術祭「県民文芸作品集」表彰式(サンセール盛岡)
- 19 教育委員会議定例会(教育委員室)

1月

- 6~11 特別支援教育シンポジウム(滝沢村)
- 11 第41回岩手県学校保健研究大会(県民会館ほか)
- 12~13 岩手県教育研究発表会(総合教育センター)
- 15 第22回岩手県学校保健・学校医大会(県医師会館)
- 16 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 20 岩手県就学指導委員会(県庁舎)
- 22~26 全国高等学校総合体育大会スケート・アイスホッケー競技会(北海道)
- 24 初任者研修実施協議会(県庁舎)
- 25 第3回代表指導主事会議(県庁舎)
- 26 幼稚園等新規採用教員研修運営協議会(県庁舎)
- 27 第2回豊かな体創策委員会(県庁舎)
- 28~2/1 第59回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー大会(山梨県)
- 30~31 第2回都市社会教育主管課長会議(二戸市)

2月

- 1 第2回岩手県子どもの読書活動推進委員会(県庁舎)
- 3~7 全国高等学校総合体育大会スキー競技会(秋田県)
- 4~7 全国中学校スケート・アイスホッケー大会(北海道)
- 5~8 全国中学校スキー大会(新潟県)
- 7 第2回岩手県社会教育委員会議(県庁舎)
- 8 平成17年度世界文化遺産登録推進協議会(盛岡地区合庁)
- 8 岩手県国語教育推進協議会(滝沢小学校)
- 9 第2回指導主事兼保健体育主事会議(盛岡地区合庁)
- 9 第2回学力向上拠点研究事業研究推進会議(盛岡地区合庁)
- 10 第4回代表指導主事会議(県庁舎)
- 10 第2回派遣社会教育主事(スポーツ担当)会議(盛岡地区合庁)
- 13 第2回キャリアスタートウィーク推進協議会(県庁舎)
- 13~14 第3回平泉遺跡調査整備推進委員会(盛岡市)
- 14 第2回学力向上支援事業研究推進会議(県庁舎)
- 14~15 岩手県生涯学習推進研究発表会(県立生涯学習推進センター)
- 15 第2回児童生徒表彰式(はばたき賞)(県庁舎)
- 15 岩手県立博物館協議会(県立博物館)
- 15 第18回全国スポーツ・レクリエーション祭岩手県実行委員会第3回総会(サンセール盛岡)
- 16 第3回県立学校長等会議(サンセール盛岡)
- 16 第2回岩手県立美術館協議会(県立美術館)
- 17 第3回岩手県社会教育主事会議(県庁舎)
- 19 第6回平泉文化フォーラム(一関市)
- 19~22 国民体育大会冬季スキー競技会(群馬県)
- 20 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 21 第2回キャリア教育実践協議会(洋野町)

3月

- 2 第58回岩手芸術祭第3回実行委員会(県民会館)
- 10 第2回岩手県立図書館協議会(県立図書館)
- 10 財団法人岩手県文化振興事業団第52回理事会(県民会館)

- 15 第2回岩手県生涯学習審議会(県庁舎)
- 17 教育委員会議定例会(教育委員室)
- 22 平成17年度文化振興基金審査委員会(県民会館)
- 22 財団法人岩手県スポーツ振興事業団第45回理事会(サンセール盛岡)
- 23 岩手県芸術選奨・美術選奨表彰式(サンセール盛岡)
- 27 第5回世界遺産登録推薦書作成委員会(東京都)
- 28 財団法人岩手県文化振興事業団第22回評議員会・第53回理事会(県民会館)
- 31 退職者感謝状贈呈式(岩手県民会館)

5 県教育委員会が所管する公益法人・公益信託

県教育委員会が所管する公益法人

(18.4.1現在)

番号	名 称	許可年月日	目的・事業	所 在 地
1	(社)達古袋農業教育協会	T 3. 6.15	農業教育の普及	一関市萩荘字八幡153-1
2	(財)大慈会	11.11.18	大慈寺の維持経営	盛岡市大慈寺町5-6(大慈寺内)
3	(財)岩手育英会	14. 9.10	育英奨学	盛岡市津志田14-37-2(盛岡市教委内)
4	(財)盛岡菅公会	S 2. 5.14	育英・天満宮維持経営	盛岡市南大通2-8-5
5	(社)繁報徳社	2.10. 3	防貧、救貧事業	下閉伊郡川井村川井6-138-1
6	(財)福岡高等学校奨学会	5.11.11	育英奨学	二戸市福岡字上平10
7	(財)岩手教育会館	27. 8.18	教育関係者の福利厚生	盛岡市大通1-1-16
8	(財)重茂教育振興会	30. 3.30	奨学金貸与	宮古市大字重茂第1地割字西大館61
9	(財)岩手県学校給食会	33. 5. 1	学校給食関係事業	盛岡市流通センター北1-12-1
10	(財)岩手県高校教育会館	34.11. 6	高校関係教職員の福利厚生	盛岡市志家町11-13
11	(財)柴内愛育会	37. 3.29	盲、ろう、哑者の教育振興	盛岡市中央通3-12-17
12	(財)高村記念会	40.11. 4	高村光太郎記念館の管理	花巻市花城町4-28(花巻病院内)
13	(財)岩手県体育協会	41. 4.28	県民体育の普及振興	盛岡市青山4-13-30
14	(財)二十五菩薩像保存委員会	42. 2.23	二十五菩薩像の保存	一関市東山町松川字町裏64
15	(財)北日本銀行育英会	42. 2.25	育英奨学	盛岡市中央通1-6-7
16	(財)岩手育英奨学会	42. 7.14	"	盛岡市内丸10-1(県教委教育企画室内)
17	(財)岩手日報労友会奨学基金	43. 3.23	"	盛岡市内丸3-7(岩手日報労組内)
18	(社)岩手県文化財愛護協会	44. 7. 1	文化財愛護思想の普及	盛岡市上田字松屋敷34(県立博物館内)
19	(財)石川啄木記念館	44. 9.18	石川啄木記念館の管理	盛岡市玉山区洪民字洪民9
20	(財)久慈地区農林教育振興会	46. 6.23	農林教育の振興	久慈市田屋町2-49-12(司法書士岩崎久事務所内)
21	(財)岩手県教育弘済会	46. 9.22	研究団体への助成	盛岡市中央通3-3-1(ジブラルタ生命内)
22	(社)久慈学校給食協会	47. 3.24	学校給食関係事業	久慈市寺里30-77
23	(財)岩手県教職員互助会	47. 4. 1	教育関係者の福利厚生	盛岡市大通1-1-16
24	(社)野田村学校給食協会	47. 3.24	学校給食関係事業	九戸郡野田村野田22-114-13
25	(財)大船渡市体育協会	47. 4.24	体育振興	大船渡市盛町字津野沢15(大船渡市教委内)
26	(財)岩手県退職教職員互助会	48. 7. 3	教育文化の振興	盛岡市大通1-1-16
27	(社)岩手県民謡保存会	48. 9.21	郷土芸能の保存及び普及	盛岡市神子田町14-24
28	(財)遠野市教育文化振興財団	49. 4.22	教育文化の振興	遠野市新町1-10(遠野市教委内)
29	(財)大船渡市育英奨学会	49. 8.19	育英奨学	大船渡市盛町字津野沢15(大船渡市教委内)
30	(財)岩手県青少年会館	49. 8.30	社会教育の振興	盛岡市みたけ3-38-20
31	(財)軽米教育施設運営会	50. 4. 1	教育施設の管理	九戸郡軽米町大字軽米9-51-1
32	(社)岩手県芸術文化協会	50. 7.21	芸術文化の振興	盛岡市内丸13-1(県民会館内)
33	(財)九戸教育施設運営会	51. 1.28	教育施設の管理	九戸郡九戸村大字山根5-95
34	(財)宮沢賢治記念会	51. 5.28	文化遺産の管理保全	花巻市鍛冶町4-13
35	(財)紫波社会体育振興会	51.12.20	社会体育の振興	紫波郡紫波町桜町字下川原100
36	(財)岩手県学校安全互助会	52. 4. 1	学校事故被災者救済	盛岡市山王町5-15
37	(財)三陸教育施設運営会	52. 4.18	教育施設の管理	大船渡市三陸町越喜来字前田23
38	(財)釜石市体育・スポーツ振興財団	54. 1.22	体育・スポーツの振興	釜石市只越町3-9-13(釜石市教委内)
39	(財)岩手教育文化センター	54. 8.20	教育文化の向上	盛岡市上田3-18-33(国立大学法人岩大教育学部内)
40	(財)奥州市体育協会	54.10.22	体育・スポーツの振興	奥州市水沢区秋葉町24-3
41	(財)盛岡市体育協会	55. 5.19	"	盛岡市上田3-17-60

番号	名 称	許可年月日	目的・事業	所 在 地
42	(財)滝沢村体育協会	S56. 3.23	体育・スポーツの振興	岩手郡滝沢村大字鶴飼字御庭田1 -1
43	(社)一関市体育協会	56. 3.23	"	一関市三関字桜町50 -4
44	(社)岩手囲碁センター	56. 3.23	囲碁の普及	盛岡市大通1 -1 -16
45	(財)岩手町体育協会	57. 3.29	体育・スポーツの振興	岩手郡岩手町大字子抱4 -12
46	(財)農林会館育英奨学会	57.10.19	育英奨学	盛岡市菜園1 -3 -6
47	(財)紫波町体育協会	58. 3.23	体育・スポーツの振興	紫波郡紫波町桜町字下川原100
48	(財)雫石町体育協会	58. 4.30	"	岩手郡雫石町第1地割字高前田104
49	(財)伊藤育英会	58. 9.19	育英奨学	花巻市大通り1 -12 -14
50	(財)国際教育交流財団水沢学苑	31. 3.31 (58.12.26共管)	"	奥州市水沢区字日高小路6
51	(財)岩手県文化振興事業団	60. 4. 8	文化の振興	盛岡市内丸13 -1 (県民会館内)
52	(財)岩手県スポーツ振興事業団	60. 3.26	スポーツの振興	盛岡市みたけ1 -10 -1
53	(財)岩手県教育振興基金	61. 9.25	教育研究団体等への助成	盛岡市菜園1 -11 -15
54	(財)小林奨学育英会	62.12.21	育英奨学	奥州市水沢区中町127 (株マツヤ内)
55	(社)久慈市体育協会	H元. 1.23	体育・スポーツの振興	久慈市新中の橋4 -13 -3
56	(財)三木育英会	S35.10.25 (H元.2.26移管)	育英奨学	一関市川崎町薄衣字石畑37 (川崎コカール工業株内)
57	(財)宮古市体育協会	H元. 5.22	体育・スポーツの振興	宮古市小山田2 -1 -1
58	(財)日本ホークス岩手連盟維持財団	元. 7.17	ホークス運動の援助・普及啓蒙	盛岡市みたけ3 -38 -20 (岩手県青少年会館内)
59	(社)八幡平市体育協会	2. 2.19	体育・スポーツの振興	八幡平市大更37 -105 -12
60	(社)岩手県ピアノ音楽協会	3. 3.20	芸術文化の振興	盛岡市緑が丘2 -2 -11 カサガイルテ 102
61	(財)北上教育文化振興会	3. 3.29	社会教育・文化・スポーツの振興	北上市相去町小糠沢19
62	(財)奥州市文化振興財団	4. 4.20	文化の振興	奥州市水沢区佐倉河字石橋41
63	(財)岩手県スキー連盟	4.11.24	スキーの振興	盛岡市山王町5 -15
64	(財)金ヶ崎町生涯スポーツ事業団	5.11.22	生涯スポーツの振興	胆沢郡金ヶ崎町西根森山31 -2
65	(財)花巻市体育協会	6. 3.22	スポーツの振興	花巻市城内1 -43
66	(財)北上市体育協会	7. 3.17	"	北上市相去町高前壇27 -36
67	(社)深澤紅子野の花美術館	8. 3.21	画家深澤紅子の業績の公開展示	盛岡市紺屋町4 -8
68	(財)盛岡市文化振興事業団	9.10.15	文化の振興	盛岡市盛岡駅西通2 -9 -1
69	(社)岩手県PTA連合会	12. 7.17	PTA活動の振興	盛岡市みたけ3 -38 -20 (岩手県青少年会館内)
70	(財)北上市文化創造	15. 2.13	文化の振興	北上市さくら通り2 -1 -1
71	(社)岩手県サッカー協会	17. 4. 1	サッカーの振興	盛岡市青山4 -13 -30

県教育委員会が所管する公益信託

(18.4.1現在)

名 称	許可年月日	目的・事業	受託者	受 託 者
公益信託田村清蔵記念奨学基金	S57. 8.25	育英奨学	田 村 清 蔵	三菱UFJ信託銀行株式会社

6 県教育関係諸団体一覧

(H18.8.1現在)

団体名	事務局所在地・電話	代表者
岩手県小学校長会	盛岡市紺屋町2-9 盛岡市蓬加労働組合館内 (623 8955)	千葉 茂
岩手県中学校長会	盛岡市紺屋町2-9 盛岡市蓬加労働組合館内 (622 0572)	岡田 安生
岩手県高等学校長協会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内 (623 4491)	鈴木 文雄
岩手県教頭会	盛岡市馬場町1-1 下橋中学校内 (651 2858)	高田 満
岩手県高等学校教頭協議会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内 (623 4491)	板宮 成悦
岩手県小学校教育研究会	盛岡市本町2-18-1 仁王小学校内 (623 4214)	千葉 仁一
岩手県中学校教育研究会	盛岡市上田2-1-1 上田中学校内 (623 4237)	岡田 安生
岩手県高等学校教育研究会	盛岡市上ノ橋町7-57 盛岡第二高等学校内 (622 5101)	牛崎 隆
岩手県小規模・複式学校教育研究連盟	盛岡市玉山区玉山字田畑9-1 城内小学校内 (685 2301)	澤村 憲照
岩手県高等学校定時制通信制教育協会	盛岡市上田2-3-1 杜陵高等学校内 (652 1813)	中里 四志雄
岩手県学校保健研究会	盛岡市西見前18-17-2 見前小学校内 (692 2224)	三田 永旬
岩手県学校給食研究会	盛岡市長田町16-1 河北小学校内 (622 6256)	竹田 一男
岩手県公立小中学校事務職員研究協議会	雫石市柿木74-1 雫石中学校内 (0195 38 2126)	久慈 喜一
岩手県公立学校事務長会	盛岡市上ノ橋町7-57 盛岡第二高等学校内 (623 4491)	葛巻 芳己
岩手県公立高等学校事務職員協会	盛岡市津志田26-17-1 盛岡第四高等学校内 (636 0743)	北山 潔
岩手県特別支援教育研究会	盛岡市本町2-18-1 仁王小学校内 (623 4214)	千葉 仁一
岩手県国公立幼稚園協議会	盛岡市月が丘1-23-1 こまくさ幼稚園内 (641 0185)	伊藤 満久
(社)岩手県私立幼稚園連合会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内 (654 1434)	山折 昭磨
(社)岩手県私学協会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内 (626 7627)	三浦 五郎
岩手県市町村教育委員会協議会	盛岡市津志田14-37-2 盛岡市教育委員会 (651 4111)	八巻 恒雄
(社)岩手県専修学校各種学校連合会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内 (626 7627)	龍澤 正美
(社)岩手県PTA連合会	盛岡市みどり3-38-20 県青少年会館内 (641 6444)	小野寺 明美
岩手県高等学校PTA連合会	盛岡市上田3-2-1 盛岡第一高等学校内 (625 6386)	鈴木 秀憲
岩手県国公立幼稚園PTA連絡協議会	九戸郡軽米町大字軽米4-3-1 軽米町立軽米幼稚園内 (0195 46 2229)	佐々木 久
岩手県私立幼稚園PTA連合会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内 (654 1434)	佐々木 博

団体名	事務局所在地・電話	代表者
岩手県図書館協会	盛岡市内丸1 50 県立図書館 (624 2515)	小 原 公 平
岩手県青年団体協議会	盛岡市みたび3 38 20 県青少年会館内 (641 6412)	菊 池 力
(特舌)岩手県地域婦人団体協議会	盛岡市みたび3 38 20 県青少年会館内 (648 6620)	瀬 川 智 子
岩手県ユネスコ協会連盟	盛岡市内丸10 1 県教委生涯学習文化課内 (629 6176)	安 藤 厚
岩手県社会教育連絡協議会	盛岡市津志田14 37 2 盛岡市教委生涯学習スポーツ課内 (651 4111)	松 尾 弘 一
岩手県地域県民教育協議会連絡協議会	盛岡市内丸10 1 県教委生涯学習文化課内 (629 6176)	石 川 悌 司
ボーイスカウト岩手県連盟	盛岡市みたび3 38 20 県青少年会館内 (641 1995)	増 田 寛 也
ガールスカウト日本連盟岩手県支部	盛岡市みたび3 38 20 県青少年会館内 (641 1153)	岩 動 麗
(社)岩手県文化財愛護協会	盛岡市上田字松屋敷34 県立博物館内 (661 9688)	佐 藤 宏
岩手県私立小中高等学校父母の会	盛岡市菜園1 3 6 農林会館内 (626 7627)	菅 原 一 也
岩手県読書推進運動協議会	盛岡市内丸1 50 県立図書館内 (624 2515)	小 原 公 平
岩手県高等学校文化連盟	盛岡市津志田26 17 1 盛岡第四高等学校内 (635 1068)	伊 藤 勝
岩手県中学校体育連盟	盛岡市愛宕町1 1 下小路中学校 (651 1942)	小 澤 浩
岩手県高等学校体育連盟	盛岡市高松4 17 16 盛岡第三高等学校 (661 8115)	井 上 節 夫
(財)岩手県体育協会	盛岡市青山4 13 30 (648 0400)	増 田 寛 也
岩手県学校保健会	盛岡市内丸10 1 県教委スポーツ健康課内 (629 6193)	石 川 育 成
日本体育・学校健康センター岩手県支部	盛岡市山王町5 15 (622 7910)	佐 藤 勝
(財)岩手県学校安全互助会	盛岡市山王町5 15 (654 3027)	照 井 崇
(財)岩手県学校給食会	盛岡市流通センター北1 12 1 (638 9429)	石 川 悌 司
公立学校共済組合岩手支部	盛岡市内丸10 1 県教委教職員課内 (629 6121)	照 井 崇
(財)岩手県教職員互助会	盛岡市大通1 1 16 岩手教育会館内 (622 7762)	照 井 崇
(財)岩手育英奨学会	盛岡市内丸10 1 県教委総務課内 (623 2050)	亀 卦 川 慧
(財)岩手県文化振興事業団	盛岡市内丸13 1 県民会館内 (654 2235)	合 田 武
(社)岩手県芸術文化協会	盛岡市内丸13 1 県民会館内 (626 1202)	松 本 源 蔵
(財)岩手県スポーツ振興事業団	盛岡市みたび1 10 1 (641 1127)	佐 藤 勝

団体名	事務局所在地・電話	代表者
(社)岩手県私学振興会	盛岡市菜園1-3-6 農林会館内 (652-0960)	龍澤正美
岩手県中学校文化連盟	盛岡市馬場町1-1 下橋中学校内 (604-0126)	佐々木 壮一
岩手県子ども会育成会連絡協議会	矢巾町又兵衛新田7-214-7 (697-4957)	工藤勝則
岩手県生涯スポーツ推進協議会	盛岡市内丸10-1 県教委スポーツ健康課内 (629-6196)	佐藤 勝
岩手県盲学校・聾学校・養護学校連絡協議会	盛岡市北山1-10-1 盲学校内 (624-2986)	高橋 榮幸
岩手県生涯学習推進研究会	花巻市北湯口2-82-13 生涯学習推進センター内 (0198-27-4555)	小野寺 辰夫